

大 麻 1 遺 跡

—— 北海道縦貫自動車道江別地区埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

昭 和 55 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



大 麻 1 遺 跡

—— 北海道縦貫自動車道江別地区埋蔵文化財発掘調査報告書 ——

昭 和 55 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

序

本報告書は、札幌郊外の江別市内において昭和55年度に実施した、北海道縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査の概要を収録したものであります。

江別市は、悠久の石狩川の流れに野幌丘陵が迫る、恵まれた自然環境にあり、明治初期に屯田兵の入植したところとして知られ、また、縄文時代から歴史時代に至る数多くの遺跡のあることでも有名であります。縦貫道の建設用地についても例外でなく、野幌丘陵を横切るわずか4 kmの間に、7か所あわせて103,950 m²にのぼる埋蔵文化財包蔵地があり、記録保存のための調査が昭和54年度から実施されております。

当センターは、昭和54年9月1日設立と同時に、この業務を北海道教育委員会から継承し、発掘調査を実施して参りました。

昭和55年には、前年度から継続した大麻1遺跡の残り全部と吉井の沢1遺跡の一部、あわせて18,870 m²を対象に日本道路公団札幌建設局の委託を受けて調査を実施いたしました。このうち、調査が56年度に継続する吉井の沢1遺跡については、完了時に一括して報告することとし、本年度は大麻1遺跡の調査結果を当センター調査報告第2集として刊行することにいたしました。本報告書が、学術関係者はもとより、広く一般の人びとにも活用されとともに、文化財保護思想の普及啓蒙に役立つことを願うものであります。

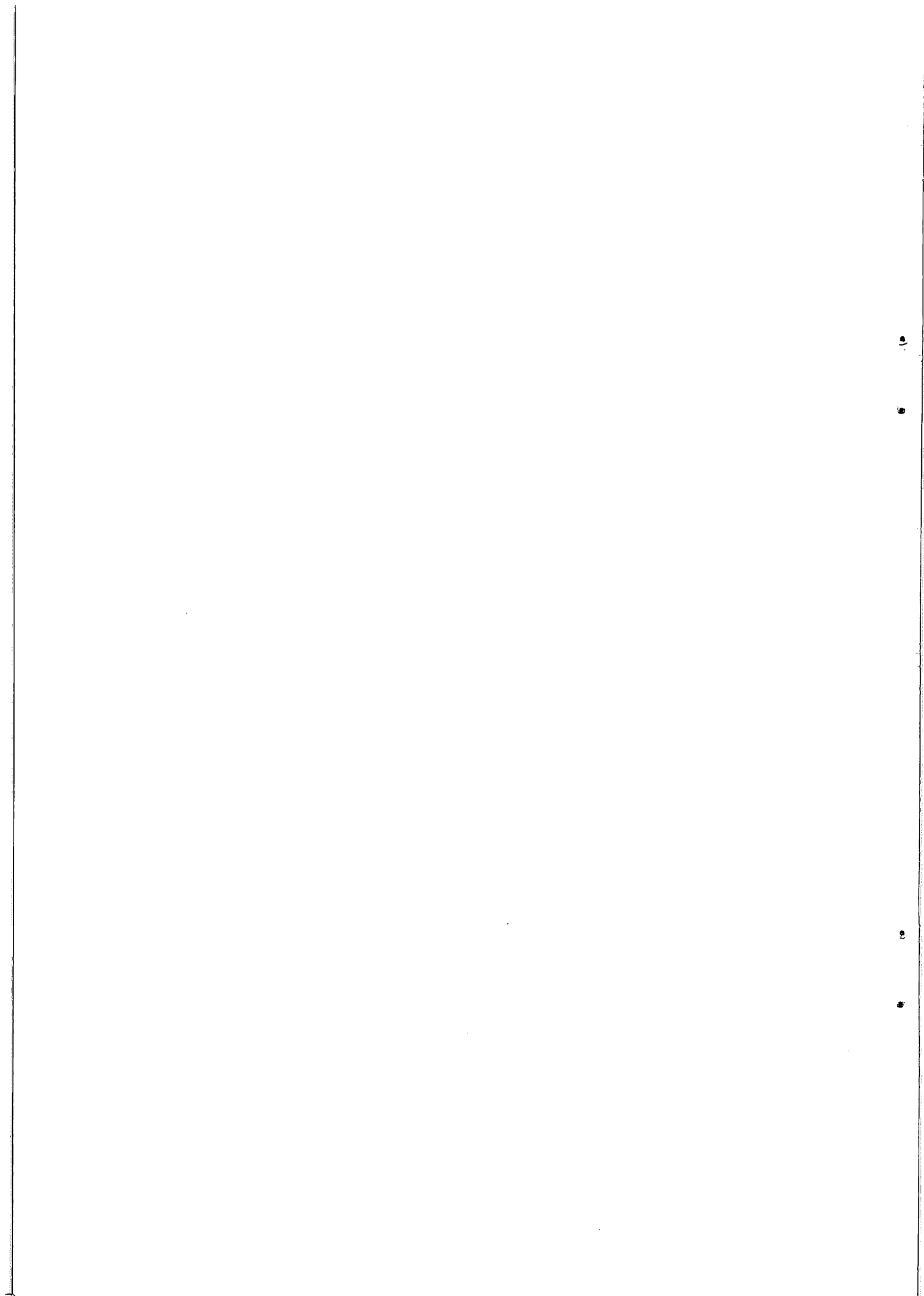
業務の遂行にあたって、文化庁、北海道教育委員会および北海道開拓記念館の懇切なご指導ならびに日本道路公団札幌建設局、同札幌工事事務所の深いご理解をいただいたことを記して謝意を表しますとともに、江別市教育委員会をはじめご協力をいただいた関係各位にお礼を申しあげる次第であります。

昭和56年3月

財団法人 北海道埋蔵文化財センター
理事長 浅井 理一郎

目 次

I 調査の概要	5
1. 調査要項	5
2. 調査体制	5
3. 遺跡の概要	8
II 調査の方法	17
1. 発掘調査の方法	17
2. 整理の方法	17
3. 遺物および記録類の収納方法	18
4. 遺物の分類	18
5. 石器原材の岩石鑑定	23
6. 土壌の水洗処理	23
III 遺構および遺構出土の遺物	25
1. 住居跡	30
2. 墓	44
3. Tピット	46
4. その他のピット	51
5. 石囲い炉	73
6. 焼土	78
IV 包含層出土の遺物	79
1. 土器	82
2. 石器等	85
V まとめ	143



I 調査の概要

1 調査要項

事業名	北海道縦貫自動車道江別地区埋蔵文化財発掘調査
事業委託者	日本道路公団札幌建設局
事業受託者	財団法人北海道埋蔵文化財センター
調査期間	昭和55年4月1日～昭和56年3月31日
遺跡名および所在地	<small>おおあさ</small> 大麻1遺跡 北海道江別市 ^{もとのつぼろ} 元野幌304番地ほか 吉井の沢1遺跡 北海道江別市元野幌751番地ほか (継続調査のため昭和56年度報告予定)
調査面積	大麻1遺跡 10,370㎡ (21,780㎡のうち昭和54年度に11,410㎡調査済) 吉井の沢1遺跡 8,500㎡ (32,020㎡のうち)

2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター	理事長	浅井理一郎	
	業務部長	馬場 治夫	
	業務部管理課長	小山内光之	
	〃 管理課主事	佐川 俊一	
	〃 経理課長	長谷川睦雄	
	〃 経理課主事	菅野 聡	
	〃 〃 嘱託	石井 義男	
	調査部長	高橋 稀一	(調査総括)
調査部調査第二班長	森田 知忠		(発掘担当者)
〃 調査第二班			
文化財保護主事	大沼 忠春		(遺物：土器担当)
〃	越田賢一郎		(記録：集計担当)
〃	遠藤 香澄		(遺物：石器担当)
〃	浦辻 栄治		(記録：図面担当)

なお、当該発掘調査の遂行にあたって、下記の機関のご協力をいただいた。記して感謝の意を表する。

北海道教育庁文化課、江別市教育委員会、北海道開拓記念館、奈良国立文化財研究所

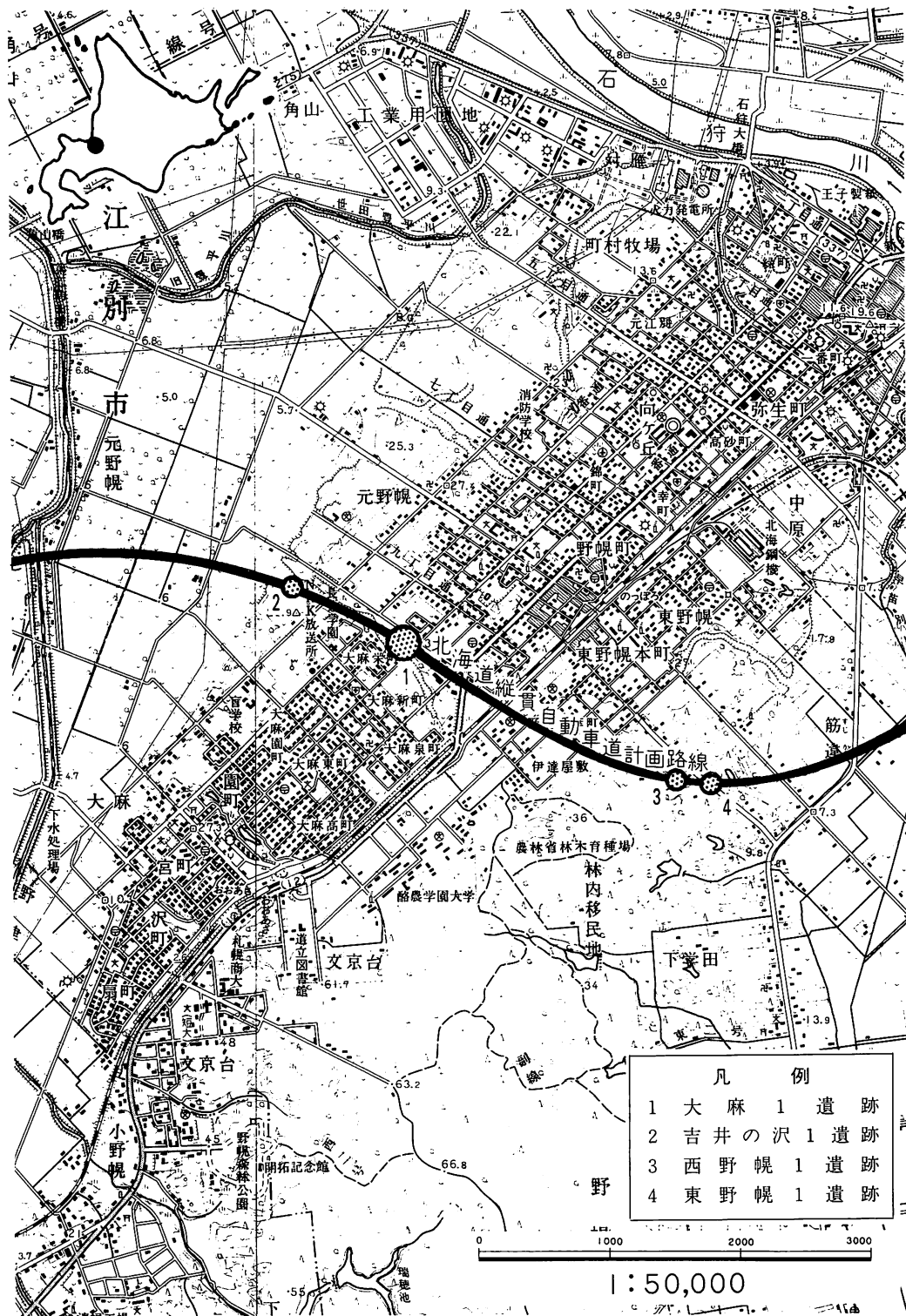


図 1-1 遺跡の位置

この地図は国土地理院発行の5万分の1地形図（江別・札幌）を複製したものである。



第1地区調査状況



第2地区調査状況

3 遺跡の概要

大麻1遺跡は、野幌丘陵を刻み西側の沖積地に開口する通称吉井の沢の右岸、標高29～34mの台地上にあり、沢に沿って北西から南東方向に細長く広がっている。現在は、一般道道東雁来^{ひがしかり}～江別線（通称二番通り）が沢を横断し、遺跡は南東側と北西側とに分けられている。吉井の沢は、この二番通りの南東約800mの湧水を水源とし、流長2kmほどの小規模な沢で、遺跡付近における幅は90～100mほどである。現在沢のなかを流れている小川の幅は2～3mで、現河床と遺跡のある平坦部との比高は約11mである。沢の斜面には、トクサやクマイザサ、広葉雑木が密生している（図1-1・2）。

工事用地にかかる遺跡面積21,780㎡のうち、昭和54年度に遺跡の中央部分と考えられる二番通りの両側11,410㎡の発掘調査が終了しており（注）、本年度は遺跡の両端のあわせて10,370㎡が調査対象である。調査の進行の順序にしたがって便宜上、南東側を第1地区、北西側を第2地区と呼ぶことにした。面積はそれぞれ、5,010㎡、5,360㎡である（図1-2～5）。

遺跡の層序はつぎのとおりである。第1層は耕作土で厚さは20cm内外。第2層は黒色の腐植土で厚さは15cm程度であるが、低地ではやや厚く、微高地ではやや薄くなる傾向がある。第3層は漸移層とみなされる平均的厚さ10cmの暗褐色土で、第4層は黄褐色ローム質土である。ただし、第1地区では、第1層から第3層までが削平されており、ほとんど第4層上面が露出していた。したがって、深く掘りこまれていた遺構に関するもの以外には、見るべき調査結果は得られなかった。遺物は、耕作土を除けば、第2層と第3層に包含されており、第4層以下は無遺物層である。

検出された遺構は、第1地区——墓1、Tピット4、その他のピット13、焼土1か所、第2地区——住居跡3、Tピット1、その他のピット11、石囲い炉3、焼土4か所である。出土遺物は旧石器時代を除く先史時代の全般にわたっており、土器片、石器、土・石製品、剥片、礫等32,615点で、ほかに炭化したクルミの核等がある。ただし、縄文時代草創期の土器（0群）に関連する資料は得られていない。

（注） 財団法人北海道埋蔵文化財センター（1980）『大麻1遺跡・西野幌1遺跡・西野幌3遺跡・東野幌1遺跡』

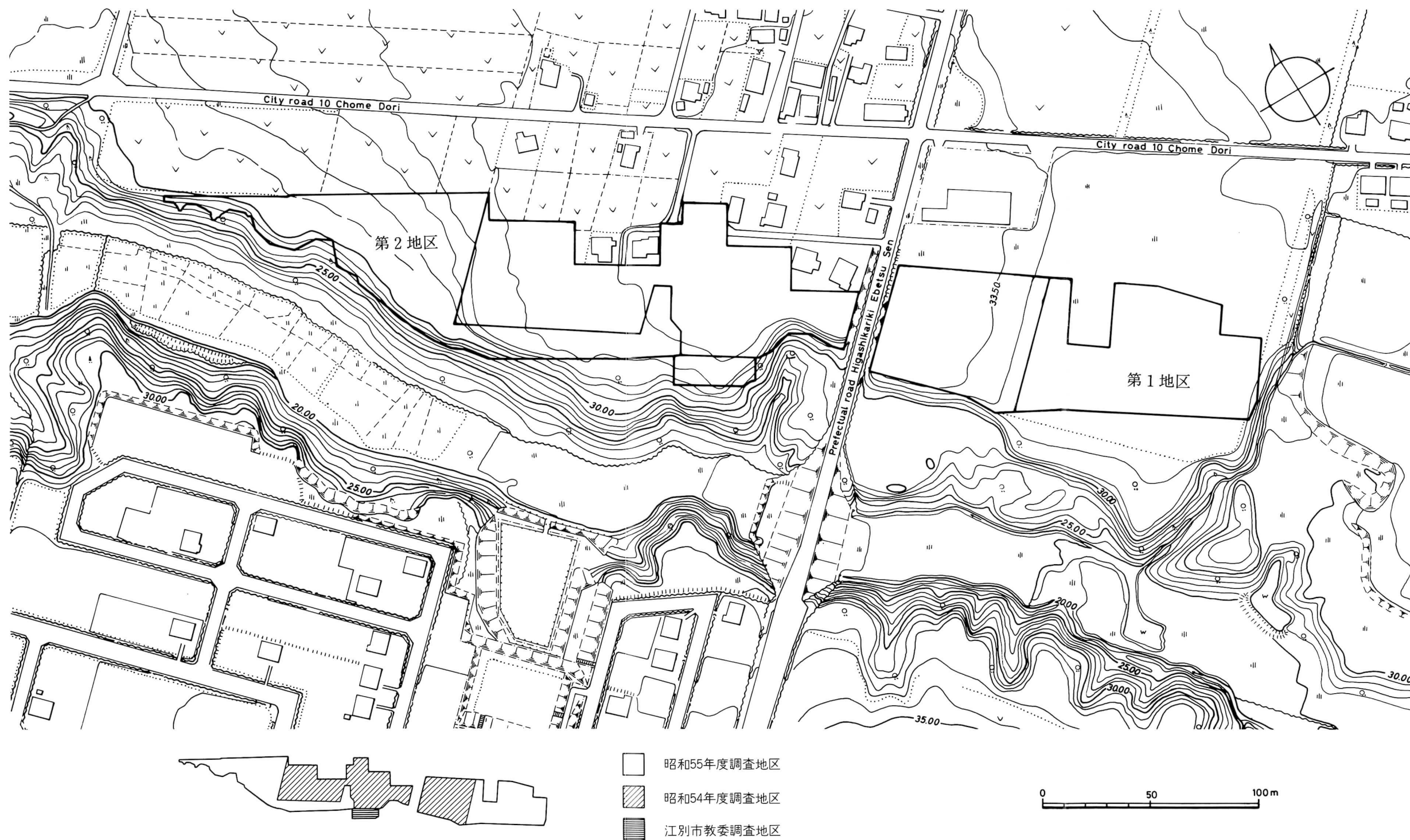


図1-2 遺跡周辺の地形

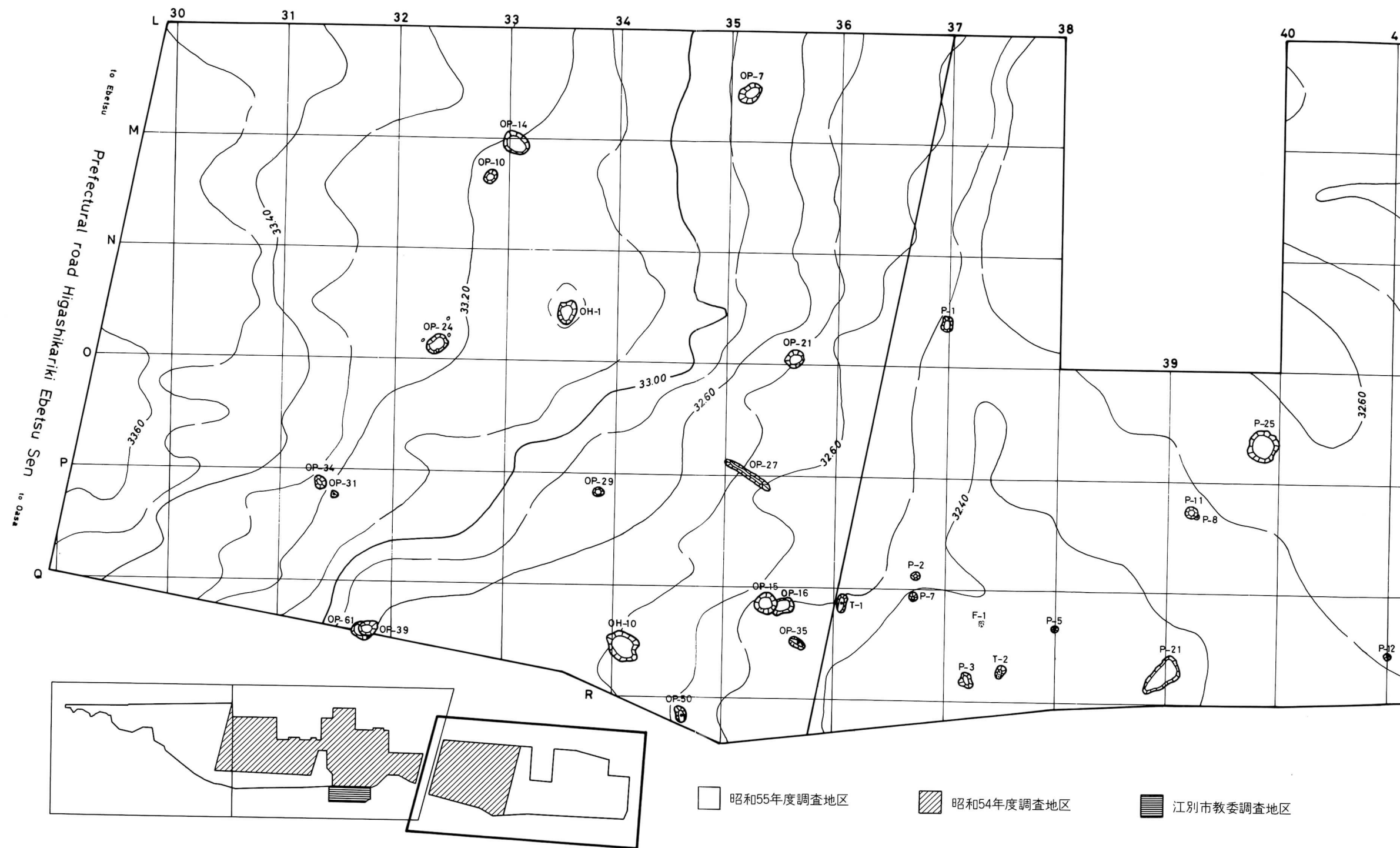


図 1 - 3 遺跡の地形(1)

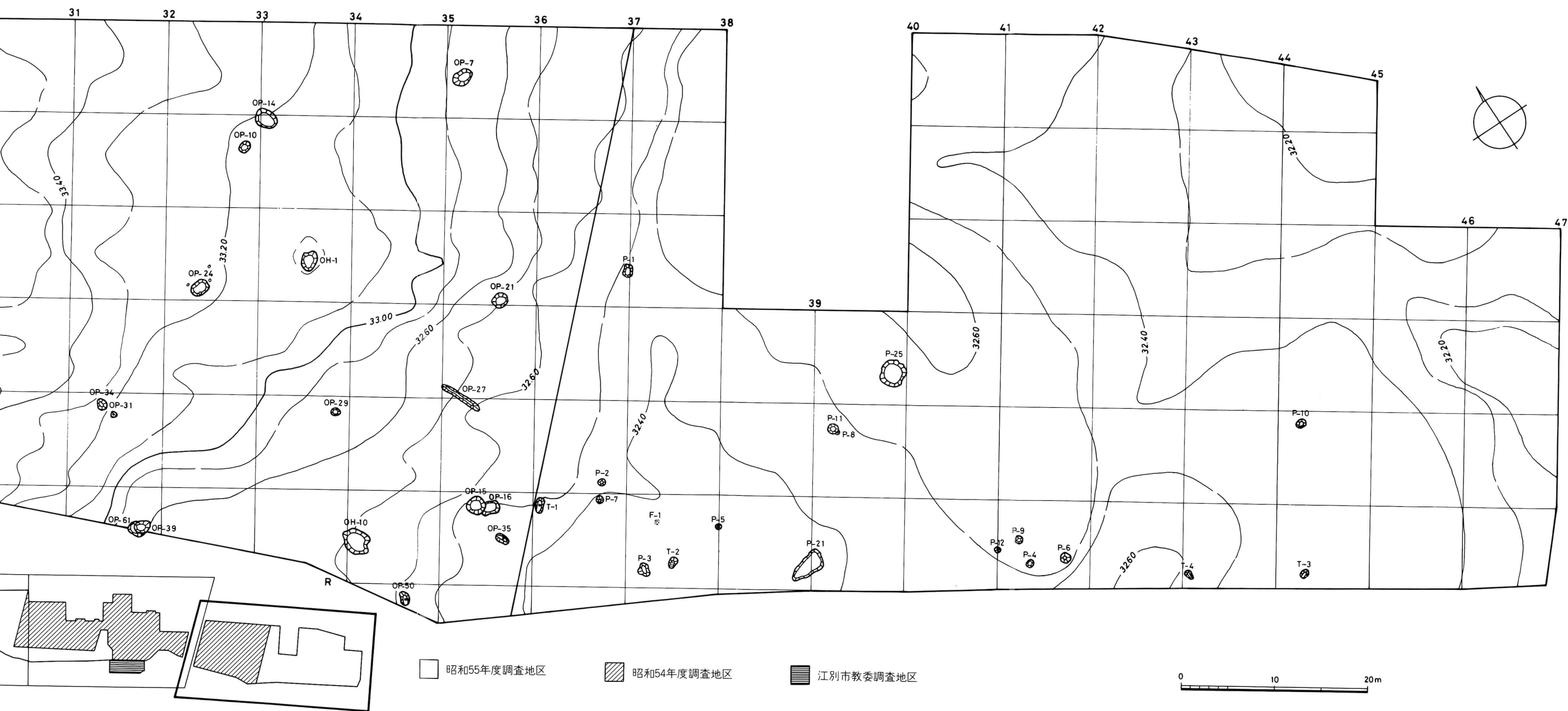


図 1 - 3 遺跡の地形(1)

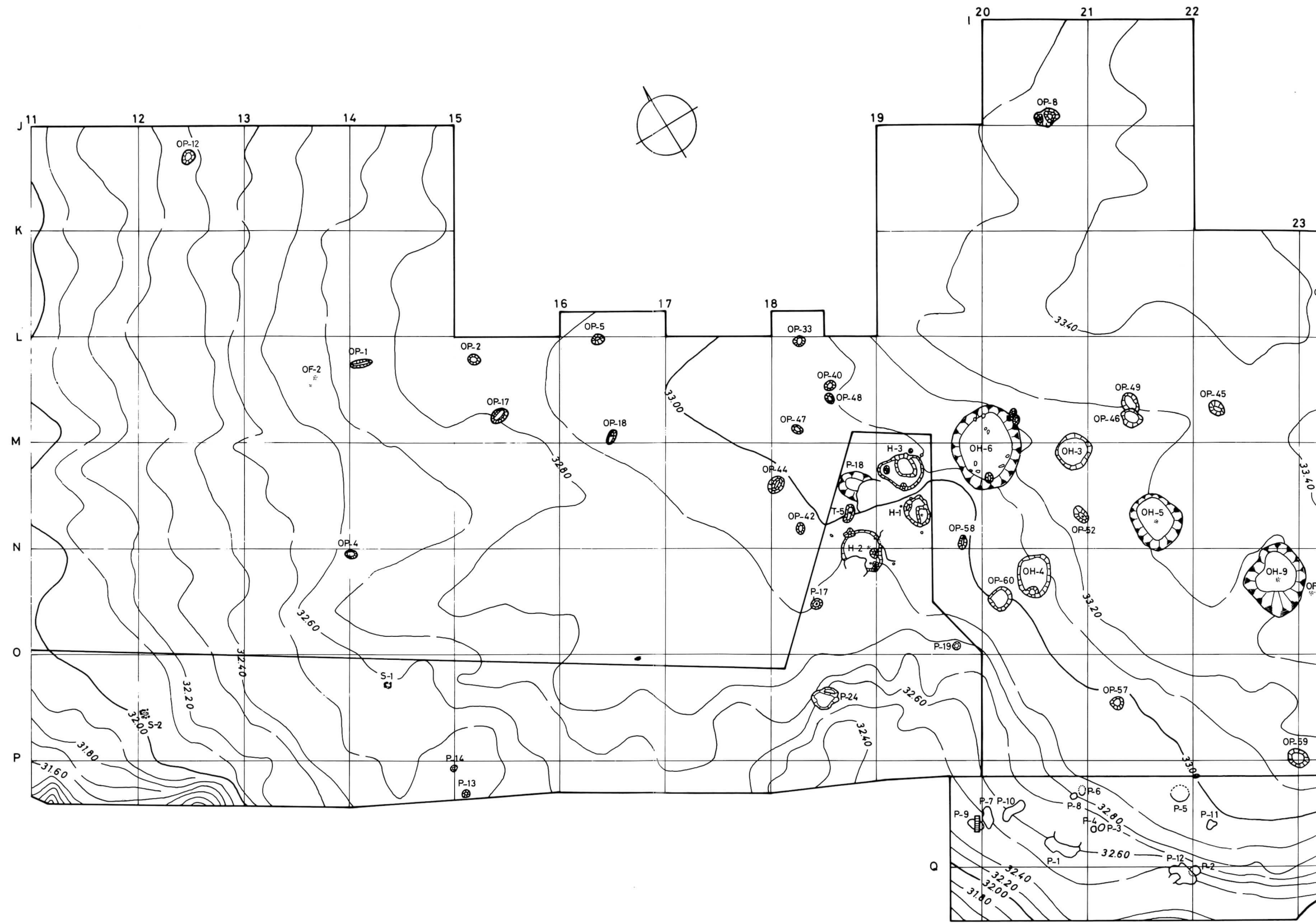


図 1 - 4 遺跡の地形(2)

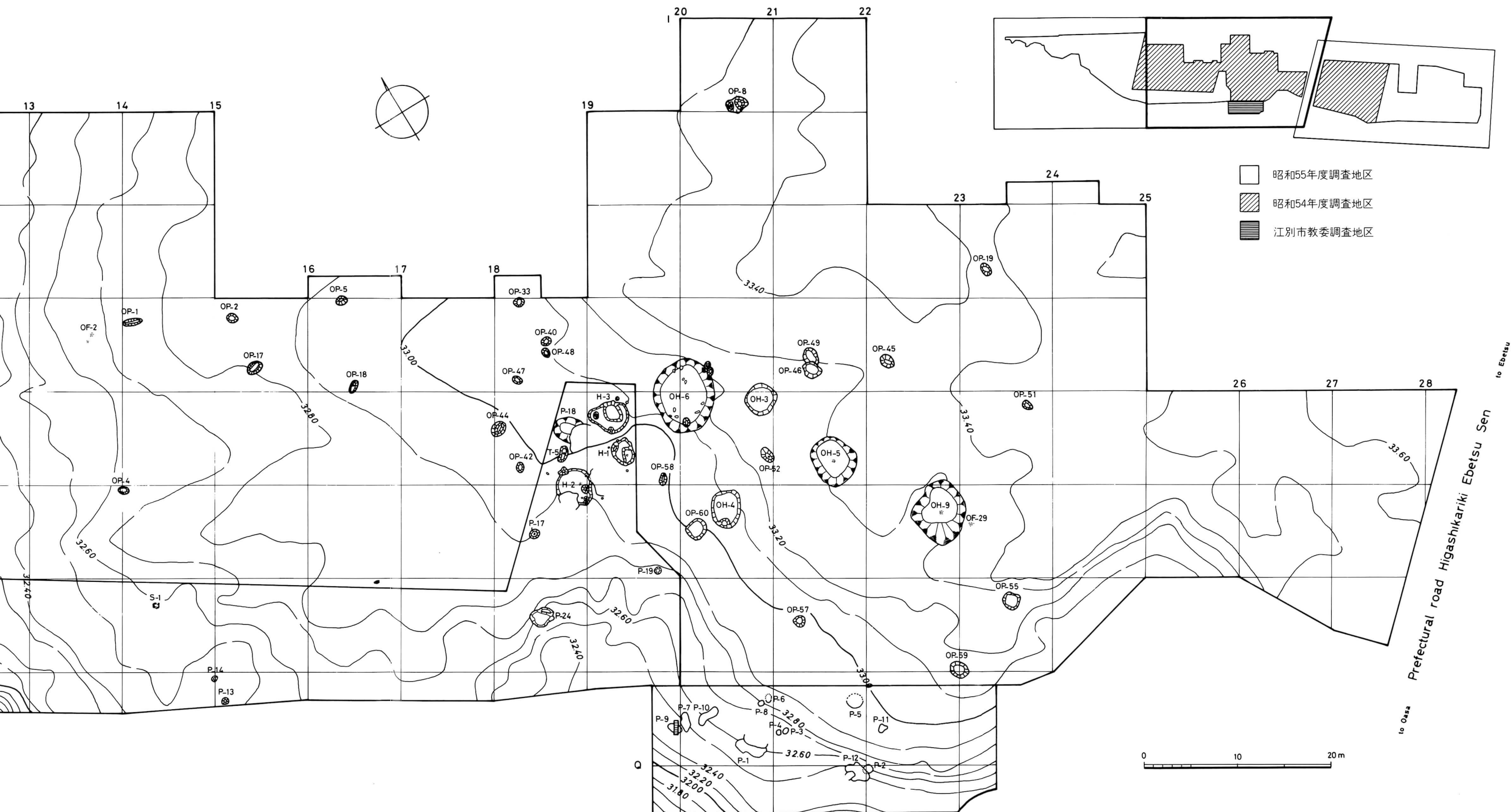


図1-4 遺跡の地形(2)

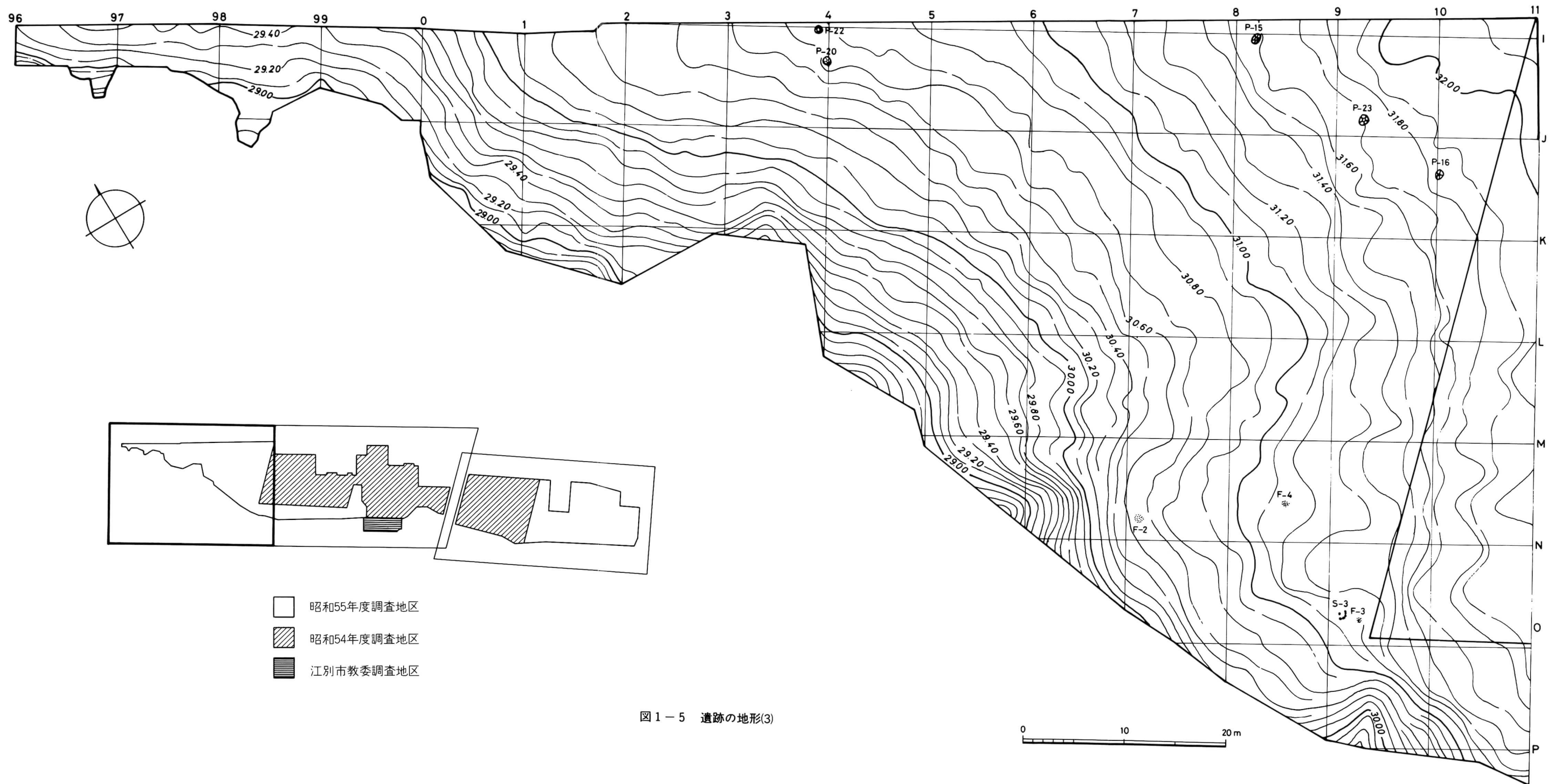


図1-5 遺跡の地形(3)

II 調査の方法

1. 発掘調査の方法

(1) 発掘区の設定

発掘区は前年度と同様、10 m×10 mの大区画と、さらにこれを4分割する方法を用いた。すなわち、工事路線に沿って10 mごとに、96、97、98、99、0、1、2……46、これと直交して10 mごとにH、I、J……Rとし、これを4つに区切って北西から逆時計まわりにa、b、c、d、と呼称した。これにより、5 m×5 mの発掘区はH-99-aのように表示される。工事路線のセンターはほぼMにあたる。なお、路線が緩やかにカーブしているため、第1地区と第2地区では、発掘区の軸が約3.5°ずれている。

(2) 発掘の方法

第1地区では、調査着手時点ですでに第4層の黄褐色ローム質土層が露呈していたので、ただちに、ジョレン等を用いて遺構確認の作業にかかり、検出された遺構について調査を行った。第2地区では、全体の25%に相当する部分（発掘区表示の末尾がaのところ）について遺跡の概要把握を目的に発掘し、この結果によって、調査の方法および調査工程を補正しながら対象地域を完掘した。

(3) 遺物の収集

包含層の遺物は、原則として5 m×5 mの発掘区単位で層位ごとに、遺物収集帳およびポリ袋に記入のうえ収集した。一括遺物等については、地点、レベルを記録し、あるいは大縮尺の出土状況図を作成した。遺構の遺物は、原則として地点、レベルを記録した。

(4) 遺構等の測量

専任の測量技術者を配置して行った。遺構分布図、遺構平面・縦横断図および土層図を作成した。縮尺は前者は1:200、後者は1:20である。

(5) 写真撮影

専任の写真技術者を配置して行った。調査状況写真、遺構写真および遺物写真で、フィルムの種類は、35 mmカラー・スライド、6×7判リバーサル・カラーおよび6×7判白黒である。

2. 整理の方法

(1) 現地並行整理

5月から10月まで、野外調査と並行して、現地に作業場を設け遺物の水洗・注記（発掘区と遺物収集番号）、遺物台帳作成、遺物の計測・分類およびカード作成、遺構台帳作成等の業務を行った。

(2) 冬期間の整理

野外調査終了後、11月から3月まで、センター施設内において、土器の復元、土器・石器の実測・製図、遺物集計および記録類の整理を行い、あわせて報告書を作成した。

3. 遺物および記録類の収納方法

(1) 遺物の収納

報告書掲載資料およびA資料（遺構出土資料および資料的価値が高く、活用頻度のとくに高い資料）、B資料（活用頻度の高い資料）およびC資料（活用頻度の低い資料）とに区分し、遺構別、発掘区別、分類別に収納。プラスチック・コンテナ（約40 cm×60 cmで深さは9 cm、15 cm、25 cmの3種類）に詰め、遺物収納台帳（索引簿）を付して、遺物台帳、遺物カードと一括保管。

(2) 記録類の収納

遺構図等の実測図類は、製図後、マイクロ・フィルムとし、アパーチャ・カードを作成して収納保管。製図原本は報告書の印刷原稿として利用。写真類は、フィルム台帳、写真索引カードを添付して所定のケースに収納。

なお、調査終了後は、遺物および記録のすべてを、北海道教育庁文化課が保管する。

4. 遺物の分類

今年度の大塚1遺跡から出土した資料の整理にあたって、土器については、昨年度の分類基準（注1）を若干修正して使用することとした。縄文時代早期に属する資料をⅠ群とし、次下順次前、中、後、晩期をⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群とし、続縄文時代に属する資料をⅥ群、擦文時代に属する資料をⅦ群とした。このうち、昨年度にⅢ群b-3類とした余市式はⅢ群に含めるよりはⅣ群に含めるのがより妥当とみなされ、これをⅣ群a類に追加し、Ⅲ群b-1類のうち北筒式に相当するものを分離し改めてⅢ群b-3類に充てることとした。また草創期に属するものは認められなかった。

石器等については、剥片、礫、土・石製品は分類対象から除外し、昨年度の基準をほぼ全面改訂して使用した。

(1) 土器

<0群>

縄文時代草創期に属する土器群

<Ⅰ群>

縄文時代早期に属する土器群 本群はa、bの2類に分類され、後者はさらにb-1、b-2、b-3、b-4の4類に細分される。

a類：貝殻腹縁圧痕文、条痕文のある土器群

b類：縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文等のある土器群

b-1類：東釧路Ⅲ式に相当するもの

b-2類：コッタロ式に相当するもの

b-3類：中茶路式に相当するもの

b-4類：東釧路IV式に相当するもの

〈II群〉

縄文時代前期に属する土器群 胎土に植物性繊維を多量に含むもので、a、bの2類に分類されるが、前者はさらにa-1、a-2の2類に細分される。

a類：縄文尖底土器群

a-1類：網文土器

a-2類：中野式に類似するもの

b類：円筒土器下層式に相当するもの、および植苗式（注2）、大麻V遺跡出土資料（注3）に類似するもの

〈III群〉

縄文時代中期に属する土器群 本群は、a、bの2類に分類される。後者はさらにb-1、b-2、b-3の3類に細分される。

a類：円筒土器上層式に相当するもの 嵐山遺跡出土資料（注4）は本類に含めておく。

b-1類：天神山式に相当するもの

b-2類：柏木川式およびそれに近似のもの

b-3類：北筒式に相当するもの 小島の沢I式（注5）を含む。

〈IV群〉

縄文時代後期に属する土器群 本群はa、b、cの3類に分類される。

a類：余市式、手稲砂山式（注6）および入江式に相当するもの

b類：手稲式および茶津洞穴IV層出土資料に相当するもの

c類：堂林式および茶津洞穴III層出土資料に相当するもの

〈V群〉

縄文時代晩期に属する土器群 本群はa、b、cの3類に分類される。

a類：大洞B・BC式に相当するもの 上ノ国式に類似するものを含む。

b類：大洞C₁・C₂式に相当するもの

c類：大洞A式に相当するもの タンネットウL式を含む。

〈VI群〉

続縄文時代の土器群 今回の調査ではトニカ式（注7）に相当するものが多く出土している。他に少量後北式に属するものがある。

〈VII群〉

擦文時代の土器群

(2) 石器

<Ⅰ群> 石鏃・槍先類

A：石鏃

- 1：「石刃鏃」
- 2：薄手で、柳葉形のものおよび五角形のもの
 - a：柳葉形のもの
 - b：五角形のもの
- 3：三角形のもの
 - a：基部が平らなもの
 - b：基部が内湾するもの
- 4：基部をもつものおよび菱形のもの
 - a：茎をもつもの
 - b：菱形のもの
- 5：「長身鏃」
- 6：木葉形もしくは、基部が円いもの

B：槍先

- 1：基部をもつものおよび菱形のもの
 - a：茎をもつもの
 - b：菱形のもの
- 2：明瞭な茎部のつくりがみられないもの
 - a：幅が広いもの
 - b：細長いもの
- 3：薄手で幅広い五角形のもの
- 4：「両頭石槍」

<Ⅱ群> 刺突器・ドリル類

A：刺突部を作り出したもの

- 1：ハンドル部に調整のあるもの
- 2：ハンドル部が未調整のもの

B：回転による磨痕があるもの

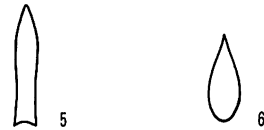
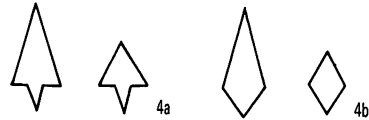
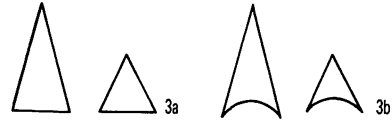
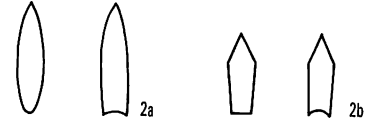
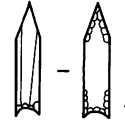
- 1：棒状のもの
- 2：つまみ部が作り出されたもの

<Ⅲ群> ナイフ・スクレイパー類

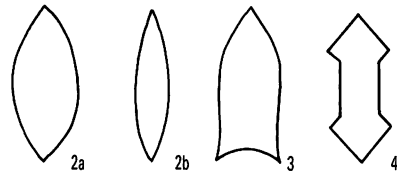
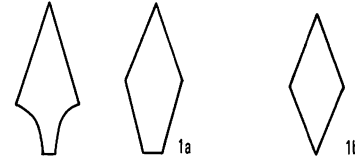
A：つまみ付きナイフ

- 1：縦形のもの
 - a：片面加工で、裏面右側縁に表面を調整するため

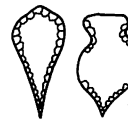
<ⅠA>



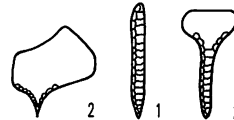
<ⅠB>



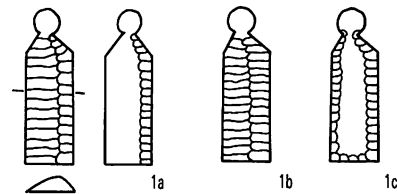
<ⅡA>



<ⅡB>



<ⅢA>



の打面が設けられているもの

b：調整が片面全体に施されるもの

c：調整が周辺にのみ施されるもの

d：両面が調整されているもの

2：横形のもの

B：スクレイパー

1：「石べら」

a：片面加工のもの

b：両面加工のもの

2：長円形のもの

a：片面加工のもの

b：両面加工のもの

3：ラウンド・スクレイパー

4：尖端部をもつもの

5：エンド・スクレイパー

6：えぐりこみをもつもの

7：不定形のもの

〈IV群〉 石斧類

A：石斧

1：擦り切り手法によって製作されたことがあきらかなもの

2：全体的に磨きがあるもの

3：素材を大きく変形することなく刃部のみに磨きがあるもの

4：「打製石斧」

5：ペッキングによって製作されたもの

6：石斧未製品、原石、擦り切り残片

B：石のみ

〈V群〉 たたき石・台石類

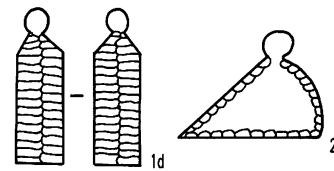
A：たたき石

1：棒状礫の一端もしくは、両端にたたき痕があるもの

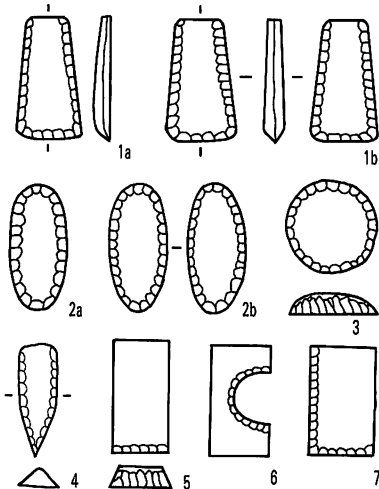
2：扁平礫の周辺にたたき痕があるもの

3：扁平礫の腹・背面にたたき痕があるもの

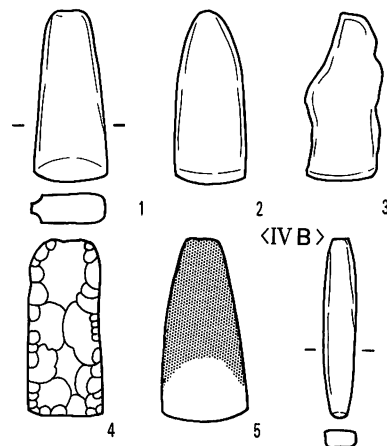
4：球形のもの



〈III B〉

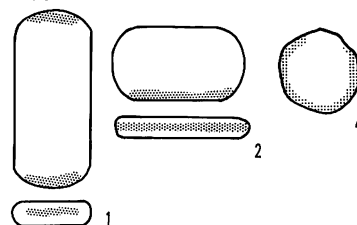


〈IV A〉



〈IV B〉

〈V A〉



B：台石類

- 1：「くぼみ石」
- 2：ストーン・リタッチャー
- 3：台石

<VI群> すり石・石皿類

A：すり石

- 1：「北海道式石冠」
- 2：扁平礫を半円形に粗く打ち欠き弦をすったもの
- 3：角柱状の礫の稜をすったもの
- 4：扁平礫の側縁をすったもの

B：石皿

<VII群> 石鋸^{せつきよ}・砥石類

A：石鋸

B：砥石

- 1：使用面に溝をもつもの
- 2：使用面が平滑なもの

<VIII群> 石錘

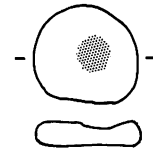
A：石錘

- 1：4か所に打ち欠きをもつもの
- 2：長軸の両端に打ち欠きをもつもの
- 3：短軸の両端に打ち欠きをもつもの

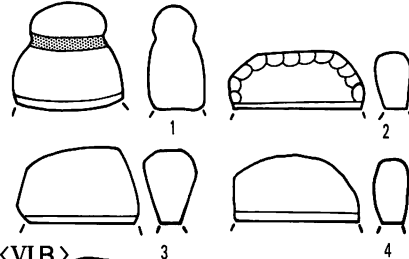
<IX群> 石核

<X群> 加工痕・使用痕のある剥片

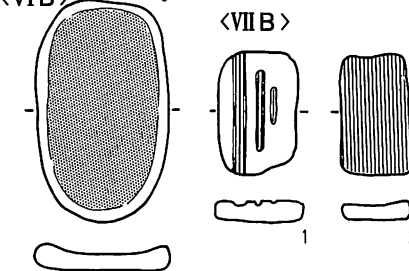
<VB>



<VIA>

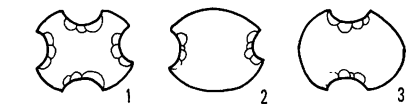


<VIB>



<VII B>

<VIII A>



- 注1. (財)北海道埋蔵文化財センター(1980)『大麻1遺跡・西野幌1遺跡・西野幌3遺跡・東野幌1遺跡』
2. 苫小牧市教育委員会(1976)『植苗貝塚』苫小牧市文化財調査報告書2
3. 江別市教育委員会(1970)『江別市大麻第V遺跡発掘調査報告』
4. 嵐山遺跡調査会編(1968)『嵐山遺跡』
5. 中村齋、松下亘(1975)『小島の沢遺跡』
6. 石川徹(1967)「札幌郡手稲砂山出土の土器について」『北海道考古学』3
7. 森田知忠(1967)「北海道の縄文文化」『古代文化』19-2

5. 石器原材の岩石鑑定

岩石の肉眼的鑑定は北海道開拓記念館に依頼して行った。同館研究職員赤松守雄氏が鑑定したものを標本としこれに基づいて分類した。また疑義のあるものについては、直接同氏の鑑定を得た。

岩石名および略号はつぎのとおり。

略 号	英 名	和 名
Aga.	Agate	め の う
Aga-Sh.	Agatic Shale	めのう質頁岩
And.	Andesite	安 山 岩
Che.	Chert	チャート
Gr-Mud.	Green Mudstone	緑色泥岩
Gr-Sch.	Green Schist	緑色片岩
Ha-Sh.	Hard Shale	硬質頁岩

略 号	英 名	和 名
Jad.	Jade	ひ す い
Mud.	Mudstone	泥 岩
Obs.	Obsidian	黒 曜 石
Sa.	Sandstone	砂 岩
Sch.	Schist	片 岩
Sh.	Shale	頁 岩
Ta.	Talc	滑 石

6. 土壌の水洗処理

石囲い炉・S-2 および焼土・F-2 の土壌を採取し、北海道開拓記念館に依頼して水洗処理を行った。試料は2,000 cm³ないし3,000 cm³の焼土で、24 時間水浸の後、静水中で篩目 0.4 mm のふるいによって土砂を分離する方法が採られた。結果、

S-2 からは、イネ科と思われる植物の種子…… 3 個

F-2 からは、オニグルミの核の細片…… 4 個、イネ科と思われる植物の種子…… 5 個が得られている。この処理および遺体の同定は、同館特別学芸員矢野牧夫氏によるものである。

本報告書では、各遺構の項において、遺構図および遺構出土の遺物図とともに、遺構写真と遺物写真を合わせて掲載した。また、包含層出土の遺物についても同様の方法で示した。

III・IV章における縮尺は、次のとおりである。

遺 構 図	1 : 40	土 器 実 測 図	1 : 4
土器拓影図	1 : 2	石器等実測図	1 : 2

III 遺構および遺構出土の遺物

検出された遺構は、住居跡3、墓1、Tピット5、その他のピット24、石囲い炉3、焼土4か所で、この順に記載する。便宜のため住居跡にはH、墓とその他のピットにはP、TピットにはT、石囲い炉にはS、焼土にはFの略号を冠し、発見順に整理番号を与えて配列してある。第1地区と第2地区とを通して一連の番号とし、おおむね第1地区、第2地区の順を保っているが、整理の過程で一部前後したものがある（図1-3～5）。

遺構一覧表

住居跡

遺 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物		備 考
					覆 土	床 面	
H-1	M-19-a -b, -c	長円形	2.98×2.32×0.28	Ⅲb-	(土器) Ⅲa;4 Ⅲb-1;8, Ⅲb-3;9 不明;16 (石器等) I A 6;1 I A-;1, I B 1 a;1 Ⅵ-;1, ⅥB;2 剥片;6, 礫;33		
H-2	M-18-c M-19-b N-18-d N-19-a	隅 丸 方 形	4.88×4.00×0.49		(土器) I b-4;2 Ⅲa;1, V b;18 不明;9 (石器等) I A 2 b;1 ⅢA 1 a;3, ⅢA-;1 ⅢB 1 a;2, 剥片;31 礫;4	ⅢA 1 a;1 ⅢB 7;2 V A 3;1 V B 1;1 ⅥA 5;1 ⅥB;1 X;1 剥片;1	風倒木により 一部欠損
H-3	M-19-a	不 整 長円形	4.07×3.39×0.31		(土器) I b-1;1 I b-2;3, I b-4;1 I b-;1, Ⅲa;23 Ⅲb-1;28, Ⅲb-2;30		

遺 構 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物		備 考
					覆 土	床 面	
H-3					Ⅲ b-3; 11, Ⅳ a; 10 Ⅴ b; 5, 不明; 33 〔石器等〕 Ⅰ A 4 a; 1 Ⅰ A-; 1, Ⅲ B 4; 2 Ⅲ B 7; 2, Ⅳ-; 8 Ⅶ B 2; 1, Ⅶ B-; 1 X; 4, 剥片; 55 礫; 37	Ⅴ A 2; 2 礫; 1	

墓

遺 構 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物		備 考
					覆 土	底 面	
P-2	P-36-c	円 形	0.77×0.70×0.37	Ⅵ	〔土器〕 Ⅵ ; 175 不明 ; 1 〔石器等〕 剥片 ; 2 礫 ; 49		頭位不明

Tピット

遺 構 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物		備 考
					覆 土	底 面	
T-1	Q-36-a	小判形	1.57×0.93×0.76		〔土器〕 Ⅰ b-2 ; 2 Ⅲ a ; 1, Ⅲ b-1 ; 25 Ⅲ b-3 ; 1, Ⅳ a ; 2 Ⅵ ; 20 〔石器等〕 Ⅲ B 7 ; 1 Ⅳ- ; 1, 剥片 ; 10		底面に小穴 1
T-2	Q-37-b -c	小判形	1.21×0.79×0.65		〔土器〕 Ⅲ- ; 5 Ⅴ b ; 3, 不明 ; 5 〔石器等〕 Ⅰ A- ; 1 Ⅲ B 7 ; 1, Ⅳ A- ; 1 X ; 7, 剥片 ; 12 礫 ; 28		底面に小穴 3
T-3	Q-44-b	小判形	1.10×0.77×0.83		〔土器〕 Ⅰ b-4 ; 24 Ⅲ b-1 ; 1, 不明 ; 3 〔石器等〕 礫 ; 4		底面に小穴 1
T-4	Q-43-b	長円形	1.04×0.61×0.67		〔土器〕 Ⅲ a ; 4 Ⅲ b-1 ; 1, Ⅲ b-2 ; 1 〔石器等〕 礫 ; 1		底面に小穴 6

遺構 番号	調査区	平面形	規模 (m)	時期	出土遺物		備考
					覆土	底面	
T-5	M-18-c	小判形	1.87×0.87×0.77		(土器) III a ; 1 III b-1 ; 1, III b-2 ; 4 III b-3 ; 1, 不明 ; 8 (石器等) IV- ; 1 剥片 ; 20, 礫 ; 7		底面に小穴 1

その他のピット

遺構 番号	調査区	平面形	規模 (m)	時期	出土遺物		備考
					覆土	底面	
P-1	N-36 -c N-37-b	小判形	1.47×1.02×0.29	IIIb-2	(土器) I b-2 ; 2 III a ; 1, III b-1 ; 1 III b-2 ; 2I, 不明 ; 1 (石器等) 剥片 ; 2 礫 ; 1		
P-3	Q-37-b	不整 長円形	1.62×1.13×0.24		(土器) III a ; 2 III b-1 ; 5, VI ; 1 (石器等) 礫 ; 1		
P-4	Q-41-b	円形	0.86×0.77×0.11	VI	(土器) I b-4 ; 1 III b-1 ; 1, VI ; 12 (石器等) 礫 ; 1	V b ; 3 VI ; 2 礫 ; 1	
P-5	Q-37-d Q-38-a	円形	0.60×0.53×0.18	VI	(土器) VI ; 23 不明 ; 4 (石器等) 剥片 ; 6		
P-6	Q-41-c	不整 円形	1.18×1.06×0.36	VI	(土器) I b-4 ; 4 III b-1 ; 1, VI ; 12 不明 ; 1		
P-7	Q-36-d	円形	0.73×0.61×0.21	VI (?)	(土器) VI ; 3 (石器等)	礫 ; 3	
P-8	P-39-a	(?)	—×0.43×0.26	VI	(土器)	VI ; 10	P-11に切られる
P-9	Q-41-a	円形	0.71×0.72×0.18		(石器等) 礫 ; 185		
P-10	P-44-a	不整 円形	1.15×0.94×0.25	I b-4	(土器) I b-4 ; 106 (石器等) I A- ; 1 VII B- ; 5, 剥片 ; 1	VII B- ; 1	
P-11	P-39-a	円形	1.08×0.95×0.17				P-8を切る
P-12	Q-40-c Q-41-b	長円形	0.60×0.50×0.16	VI (?)	(土器) VI ; 2		
P-13	P-15-a	円形	0.76×0.70×0.21		(土器) 不明 ; 1		

遺構 番号	調査区	平面形	規模 (m)	時期	出土遺物		備考
					覆土	底面	
P-13					〔石器等〕 III B 7 ; 1 剥片 ; 3		
P-14	P-14-d P-15-a	円形	0.55×0.49×0.15	V b	〔土器〕 V b ; 53 〔石器等〕 X ; 1 土製品 ; 1		
P-15	H-8-b I-8-a	長円形	1.00×0.73×0.56	III b-1	〔土器〕 III b-1 ; 3 不明 ; 3 〔石器等〕 礫 ; 2		
P-16	J-9-d J-10-a	長円形	0.94×0.73×0.51		〔石器等〕 礫 ; 1	礫 ; 1	
P-17	N-18-a -b	円形	1.09×0.97×0.19		〔土器〕 不明 ; 2 〔石器等〕 VII B 2 ; 1 剥片 ; 9, 礫 ; 8		
P-18	M-18-c -d	長円形 (?)	—×3.21×0.59		〔土器〕 I b-2 ; 2 I b- ; 3, II a-1 ; 2 III a ; 7, III b-2 ; 17 IV a ; 58, 不明 ; 18 〔石器等〕 IV- ; 2 VA 4 ; 1, X ; 2 剥片 ; 10, 礫 ; 27		風倒木により 一部欠損
P-19	N-19-c	円形	0.68×0.65×0.16				
P-20	I-3-d I-4-a	円形	0.72×0.66×0.25	I b-4	〔土器〕 I b-2 ; 1 I b-4 ; 51 〔石器等〕 剥片 ; 12		炭化したクルミ あり
P-21	Q-38-c Q-39-b	不整 長円形	4.11×1.67×0.18		〔土器〕 I b-2 ; 1 I b-4 ; 2, III a ; 5 III b-1 ; 9, IV a ; 28 VI ; 27 不明 ; 1 〔石器等〕 IV- ; 1 IX ; 5, X ; 5 剥片 ; 64, 礫 ; 3	不明 ; 1 礫 ; 1	
P-22	H-3-c I-3-d	円形	0.77×0.72×0.25	I b-4	〔土器〕 I b-4 ; 16 〔石器等〕 VIA- ; 1 剥片 ; 4	Ib-4 ; 12	炭化したクルミ あり
P-23	I-9-b	円形	1.16×1.00×0.74		〔土器〕 IV a ; 2 不明 ; 4, 〔石器等〕 IA 2 a ; 1 IA- ; 1, IV- ; 1 VA- ; 1, 剥片 ; 7 礫 ; 11		

遺 構 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物		備 考
					覆 土	底 面	
P-24	O-18-a -b, -c -d	不整形	2.44×2.10×0.24		(土器) IIIb-1; 2 IIIb-2; 4, IIIb-3; 2 IVa; 1, Vb; 1 不明; 1 (石器等) IV-; 1 VII B 2; 2, 剥片; 2		
P-25	O-39-c	円 形	2.82×2.72×0.37		(土器) Ib-2; 1 (石器等) 土玉; 1	VI A 3; 1	

石囲い炉

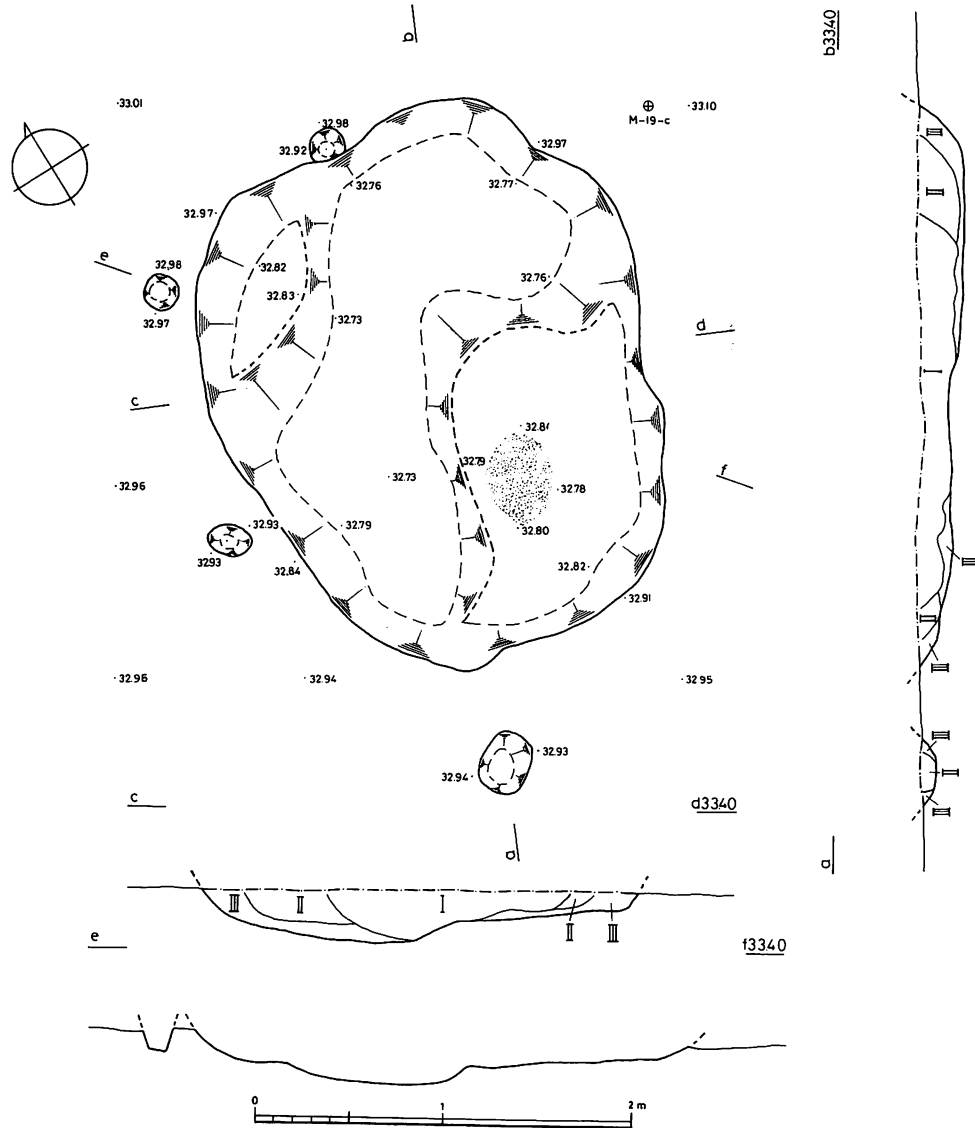
遺 構 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物	備 考
S-1	O-14-a	方 形	0.61×0.47	IV a	(土器) IV a; 97 (石器等) IA 4 a; 1, 剥片; 8 礫; 11	遺物数に、周辺 の一括遺物も含 む
S-2	O-12-b	コの字 形(?)	(0.84)×0.86	IV a	(土器) IV a; 615, Vb; 1 不明; 6 (石器等) IB-; 1, III B 5; 1 III B 6; 1, III B 7; 1, VB; 1 X; 2, 剥片; 19, 礫; 43	遺物数に、周辺 の一括遺物も含 む
S-3	N-9-b	(?)	0.91×0.63	IV a	(土器) Ib-2; 1, IV a; 17 不明; 11 (石器等) IA 4 a; 1, X; 1 剥片; 66, 礫; 13	

焼土

遺 構 番 号	調 査 区	平面形	規 模 (m)	時 期	出 土 遺 物	備 考
F-1	Q-37-a	円 形	0.31×0.27×0.03			
F-2	M-7-b	円 形	0.82×0.70×0.09			
F-3	N-9-b	円 形	0.54×0.47×0.07	IV a	(土器) IV a; 8 (石器等) 剥片; 2, 礫; 6	
F-4	M-8-c	長円形	0.74×0.57×0.07	IV a	(土器) IV a; 13 (石器等) IB 1 a; 1, IV-; 4 VA-; 1, VII B-; 1, 剥片; 1 礫; 7	

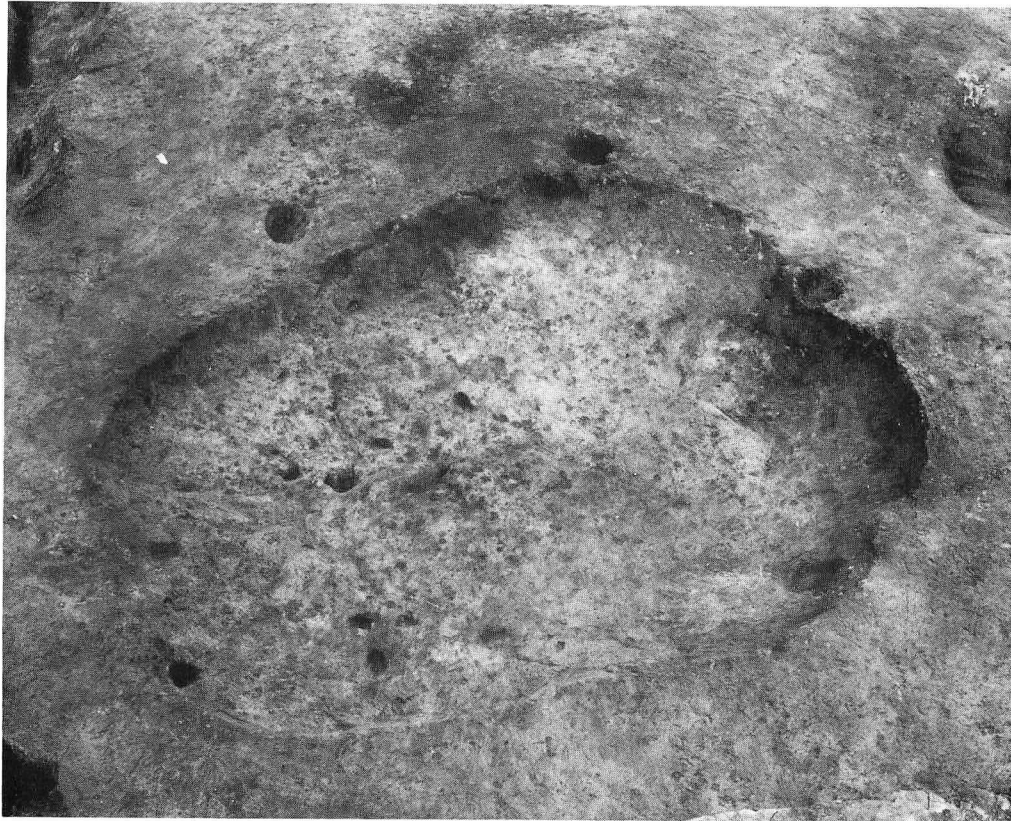
1. 住居跡

H-1



位置 M-19-a, -b, -c

形状 平面形は、確認面で 2.98×2.32 mの南北に長い長円形。床は黄褐色土層中に掘りこまれ、軟弱で凹凸が著しい。壁の立ちあがりは緩く不明瞭。確認された壁の高さは、最大で28 cm。南寄りの床面で、炉跡と思われる焼土が検出されたが、わずかに床面が火を受けた程度の薄いものである。北から西にかけての壁外に、浅い4個のピットがあるだけで、柱穴と認められるものはない。



土 層 I：黒色土，II：暗褐色土，III：暗黄褐色土

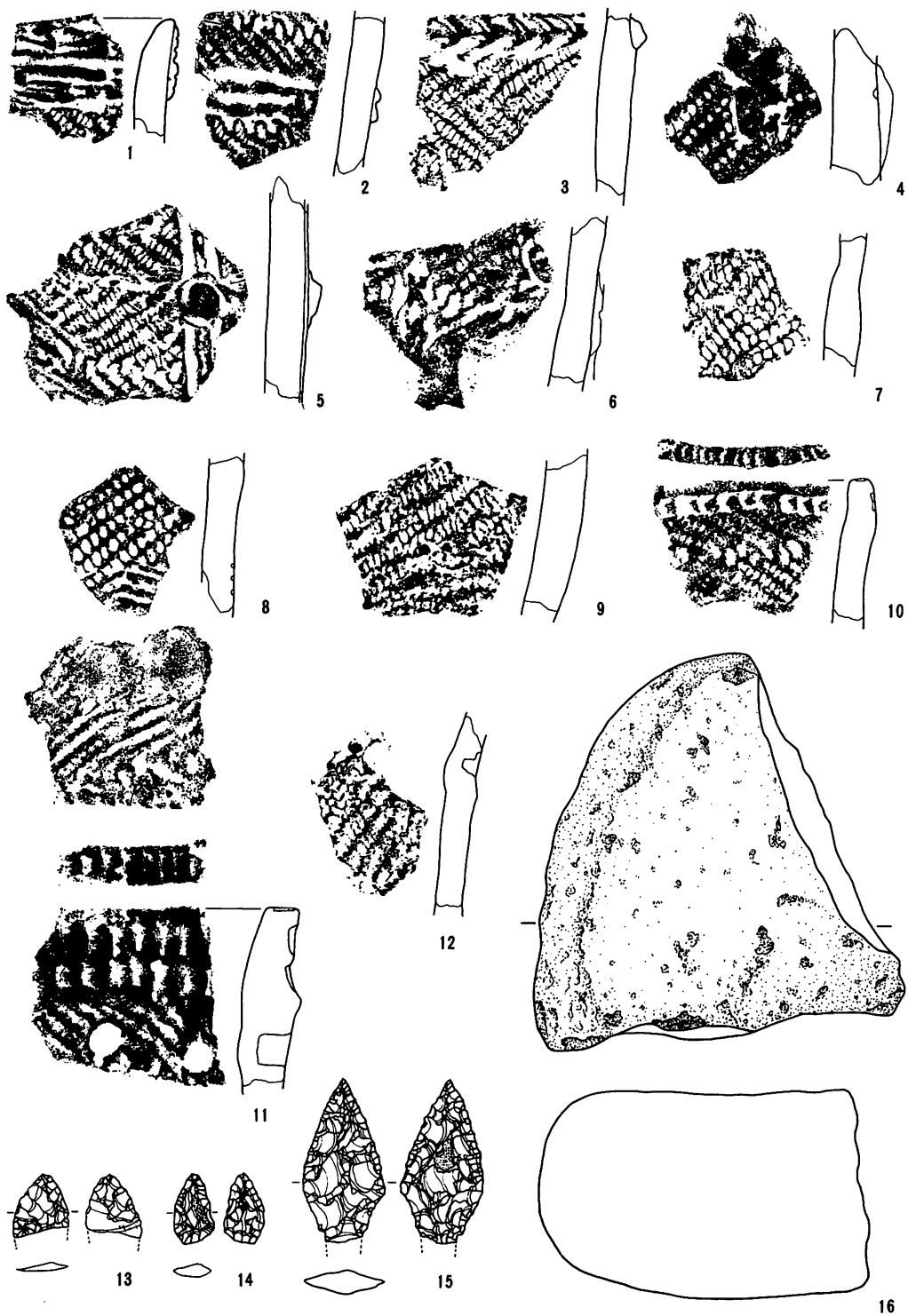
遺 物 本遺構の周辺の包含層には、III群の土器が数多く分布しており、覆土中にも同群の土器がみられるが、床面よりの出土遺物はない。

N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1・2 4~9	土 器	III b-1	覆土			
3	"	III a	"			
10~12	"	III b-3	"			

N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
13	石 鍬	IA-	覆土	-X17X3	(0.7)	Obs.
14	"	IA 6	"	21X12X4	0.8	"
15	槍 先	IB 1 a	"	(綱)X25X8	(6.8)	"
16	石 皿	VIB	"	-X-X62	-	And.

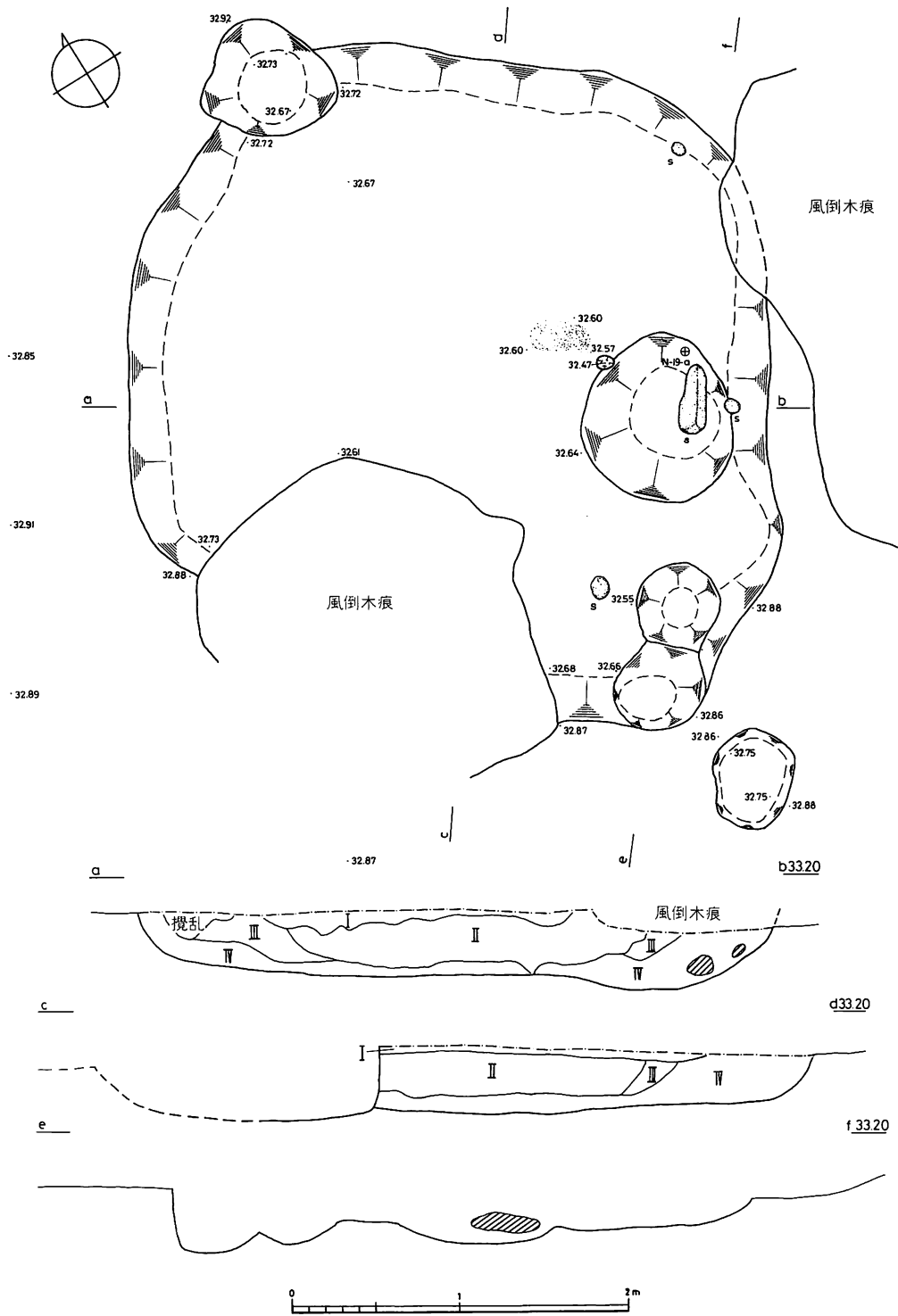
時 期 縄文時代中期 III群b類土器の時期と推定される。

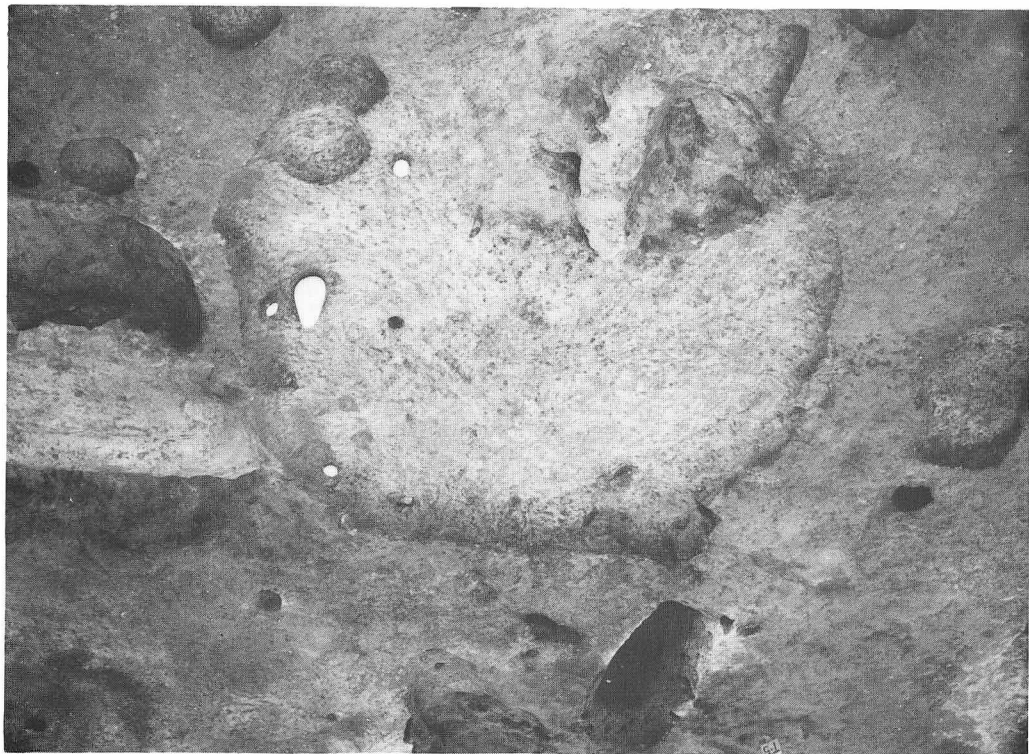
備 考 M-18~21, N-18~22 にかけて、住居跡8軒が密集している(昭和54年度調査分を含む)。本遺構の南側に近接してH-3が、西側にP-18が、東側に昭和54年度OH-6がある。

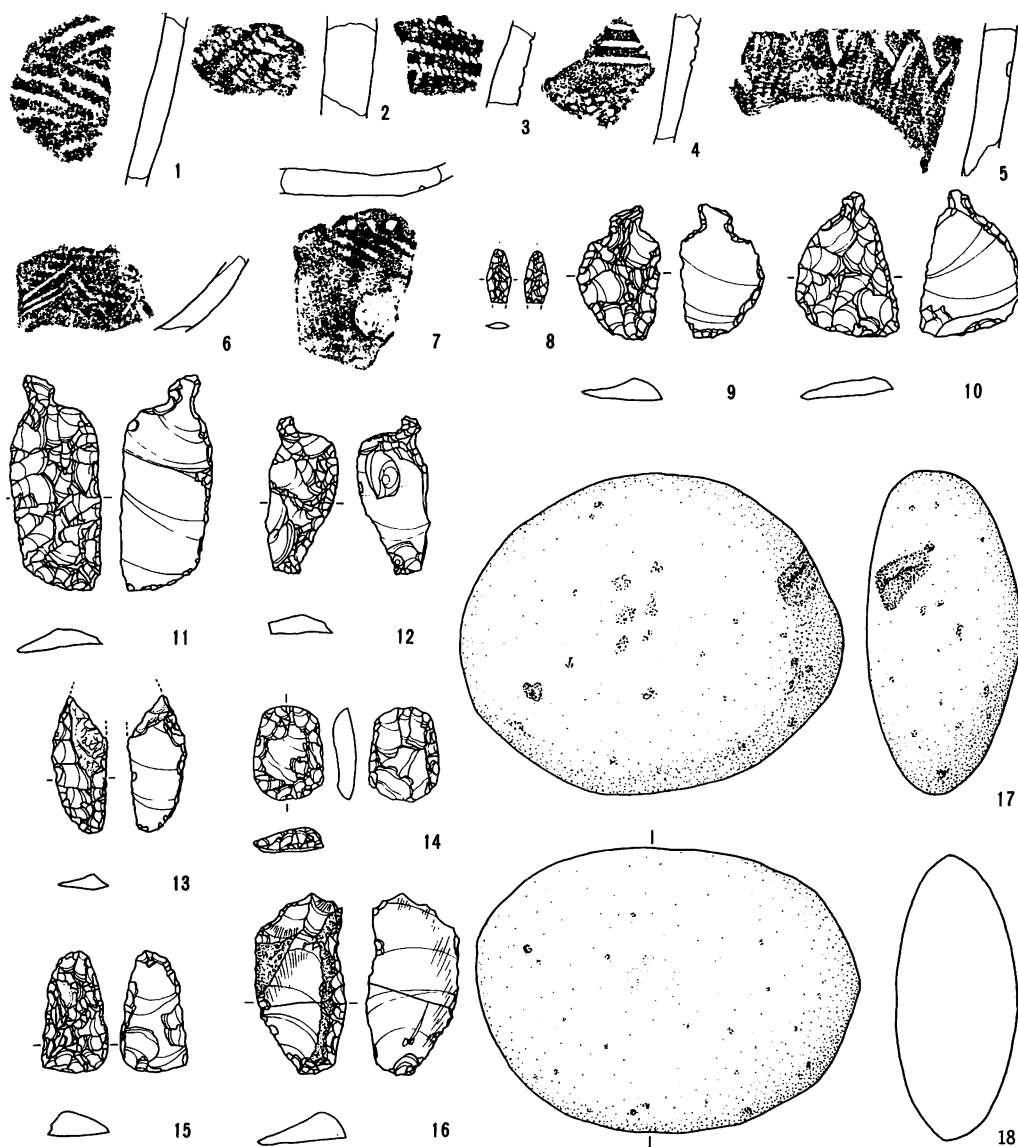




H-2



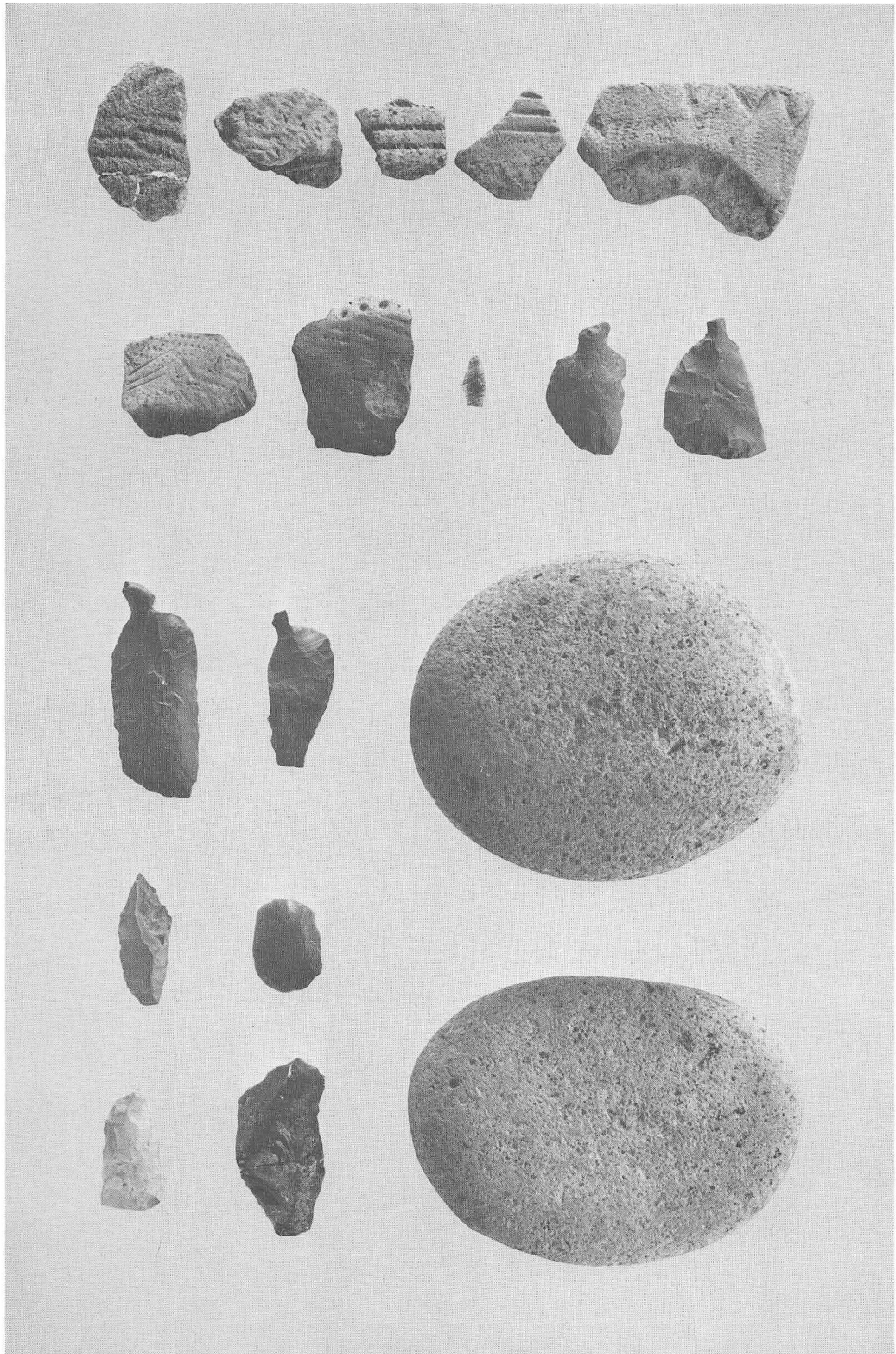


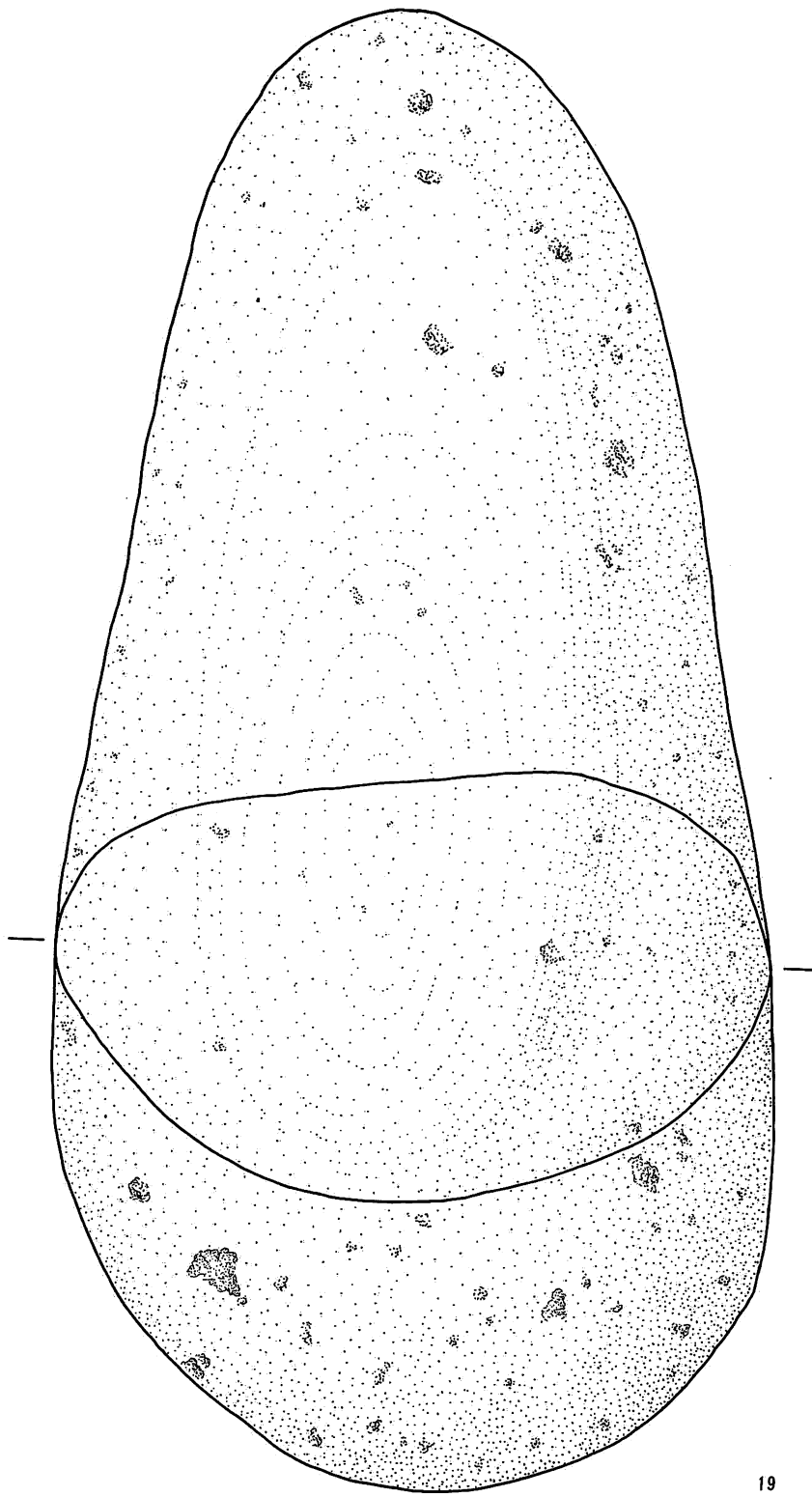


位 置 M-18-c, M-19-b, N-18-d, N-19-a

形 状 平面形は、確認面で 4.88×4.00 m の隅丸方形。床は黄褐色土層中に掘りこまれ、平坦で比較的堅い。確認された壁の高さは最大 49 cm で、風倒木によって攪乱された東壁の一部と南壁を除いて、立ち上がりはやや緩いが明瞭である。炉跡と思われる焼土は、中央やや東寄りにあり、周辺には炭化物の小片もみられた。柱穴と認められるものはない。壁の南隅に 2 個と、東壁際の床に 1 個浅いピットが付属している。北壁のピットは、本遺構より新しいものである。この他、南の壁外にも同様のピットがあるが、伴うものであるかどうか不明である。

土 層 I：黒色土（粒状）、II：黒色土、III：暗茶褐色土、IV：暗黄褐色土





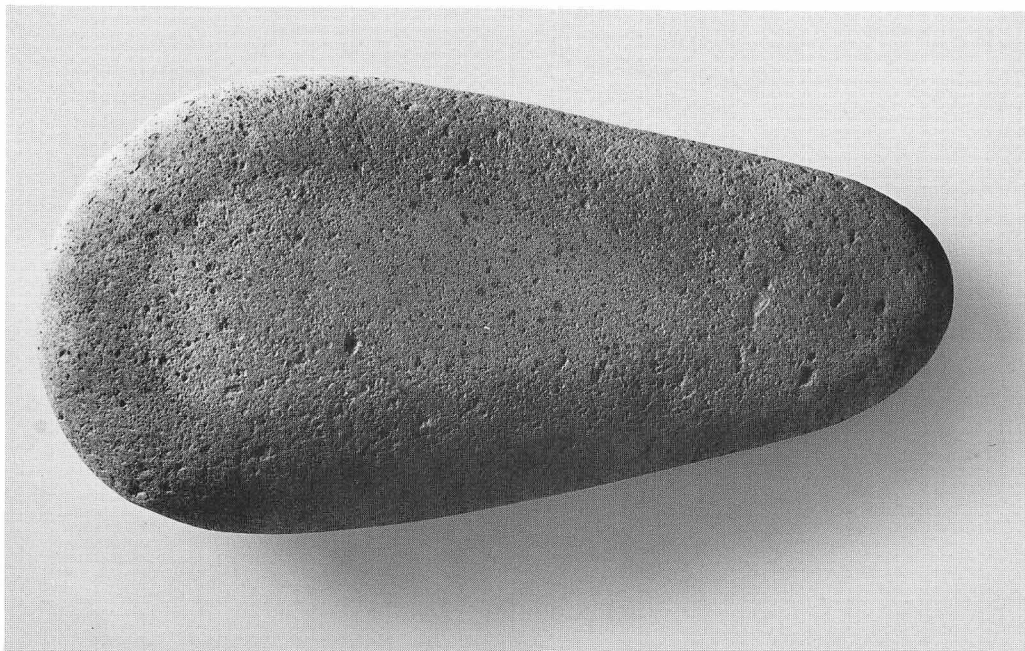
8

8

8

8

19



遺物 覆土中の土器はわずかで、V群b類のものは、風倒木により混入した可能性が強い。石器は、縄文時代早期後半に属すると思われる特徴をもつ石鏃、つまみ付きナイフ、スクレイパーが出土している。覆土最下部には、扁平礫が4個みられた。

床面出土の遺物は石器だけで、東側半分に分布している。石皿は、浅いピットの東側壁寄りにおかれていたものである。

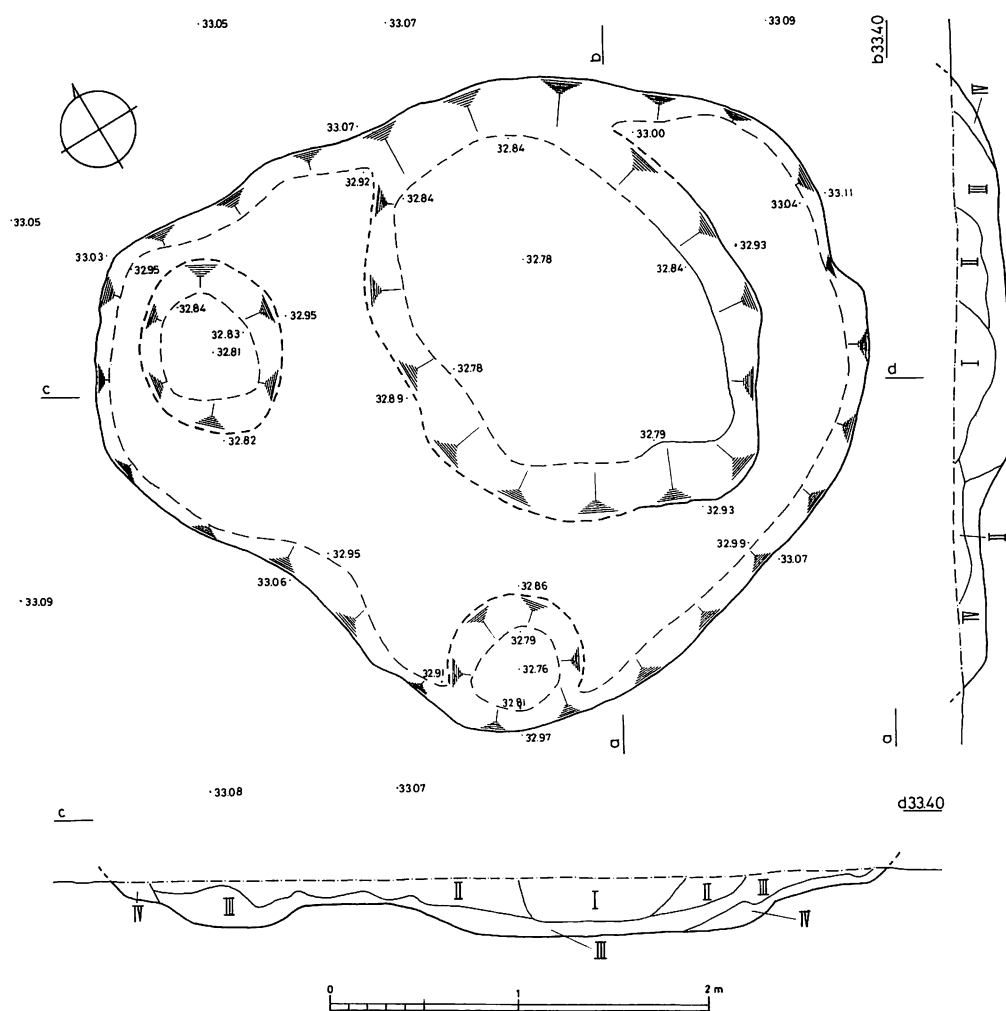
N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	I b-4	覆土			
2	"	III a	"			
3~7	"	V b	"			
8	石 鏃	I A 2 b	"	114×7×2	(0.1)	Obs.
9	つまみ付きナイフ	III A 1 a	床面	36×22×6	4.2	Sh.
10	"	"	覆土	39×26×6	5.9	"
11	"	"	"	59×24×6	9.4	"
12	"	"	"	42×18×5	3.8	"

N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
13	つまみ付きナイフ	III A-	覆土	117×15×4	(2.2)	Sh.
14	スクレイパー	III B 1 a	"	25×19×6	3.7	Aga-Sh.
15	"	"	"	33×18×8	4.5	Sh.
16	"	III B 7	床面	48×24×9	10.3	Obs.
17	たたき石	V A 3	"	84×112×41	520	And.
18	くぼみ石	V B 1	"	75×112×31	365	"
19	石 皿	VI B	"	110×118×90	12kg	"

時 期 縄文時代

備 考 東側にH-1が、北側に近接してT-5がある。

H-3



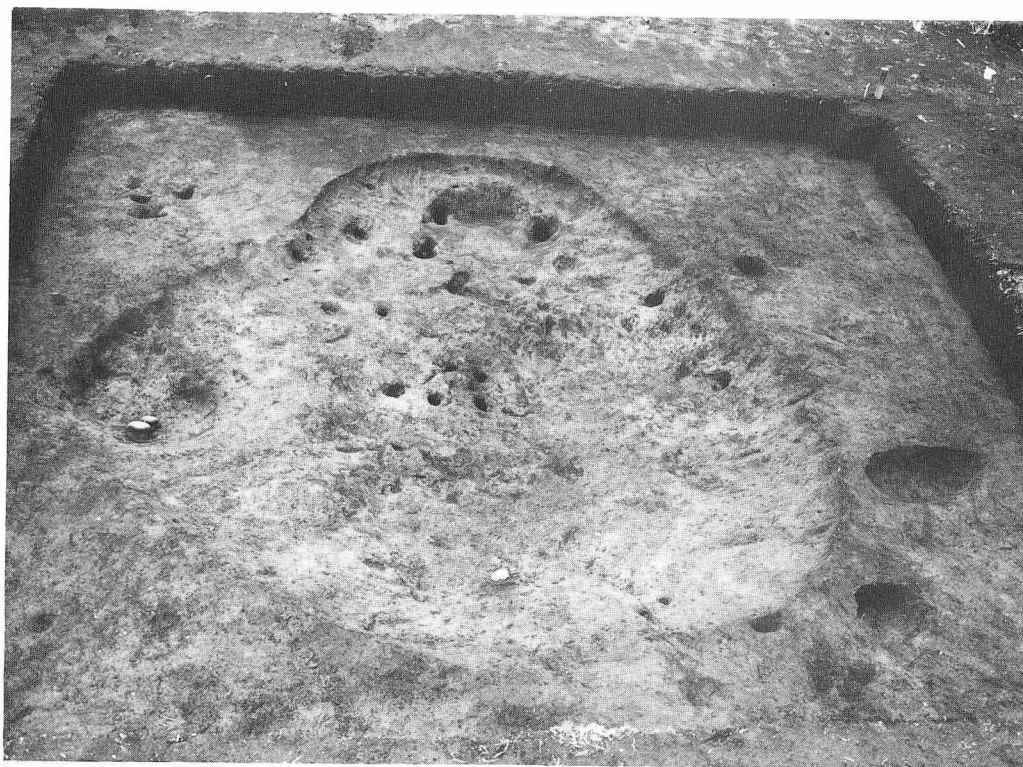
位置 M-19-a

形状 平面形は、確認面で4.07×3.39 mのほぼ東西に長い不整な長円形。床は黄褐色土層中に掘りこまれている。軟弱で凹凸がはげしく、とくに中央と西の壁際に3か所のくぼみがある。確認された壁の高さは最大31 cmで、立ちあがりは緩やかである。炉跡および柱穴と認められるものはない。

土層 I：黒色土，II：暗褐色土，III：暗茶褐色土，IV：暗黄褐色土

遺物 覆土中の遺物数は多く、I層よりまとまって出土している。土器は、縄文時代各時期のものがみられるが、III群が特に多い。一方、石器では、スクレイパーと破碎礫が多いのがめだつ程度である。

床面よりの出土遺物には、遺構の時期を決定する資料がない。



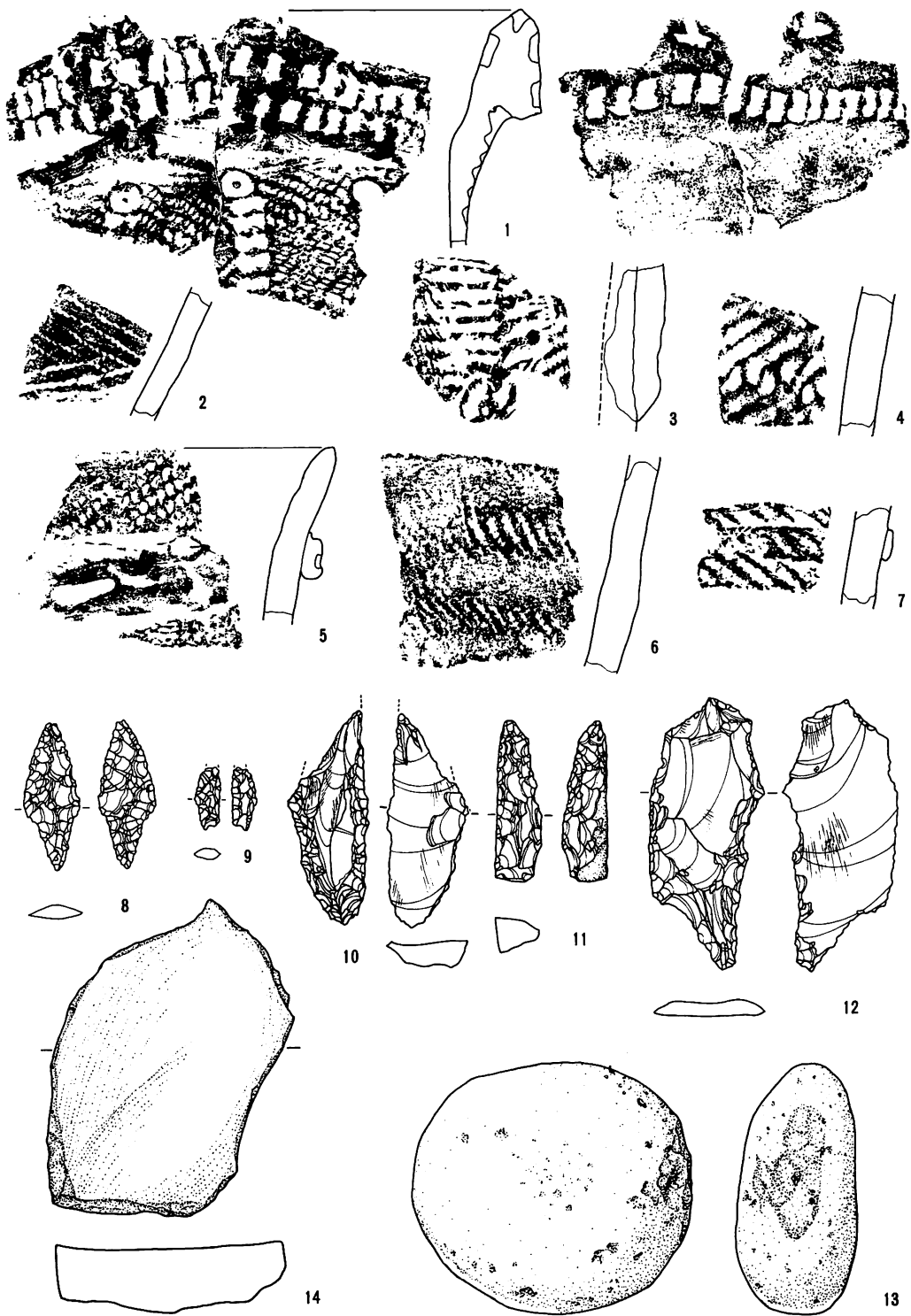
NO.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	Ⅲb-3	覆土			
2	"	I b-4	"			
3・4	"	Ⅲa	"			
5	"	Ⅲb-2	"			
6	"	Ⅲb-3	"			
7	"	Ⅳa	"			
8	石 鉄	I A 4 a	"	44×17×4	2.1	Obs.

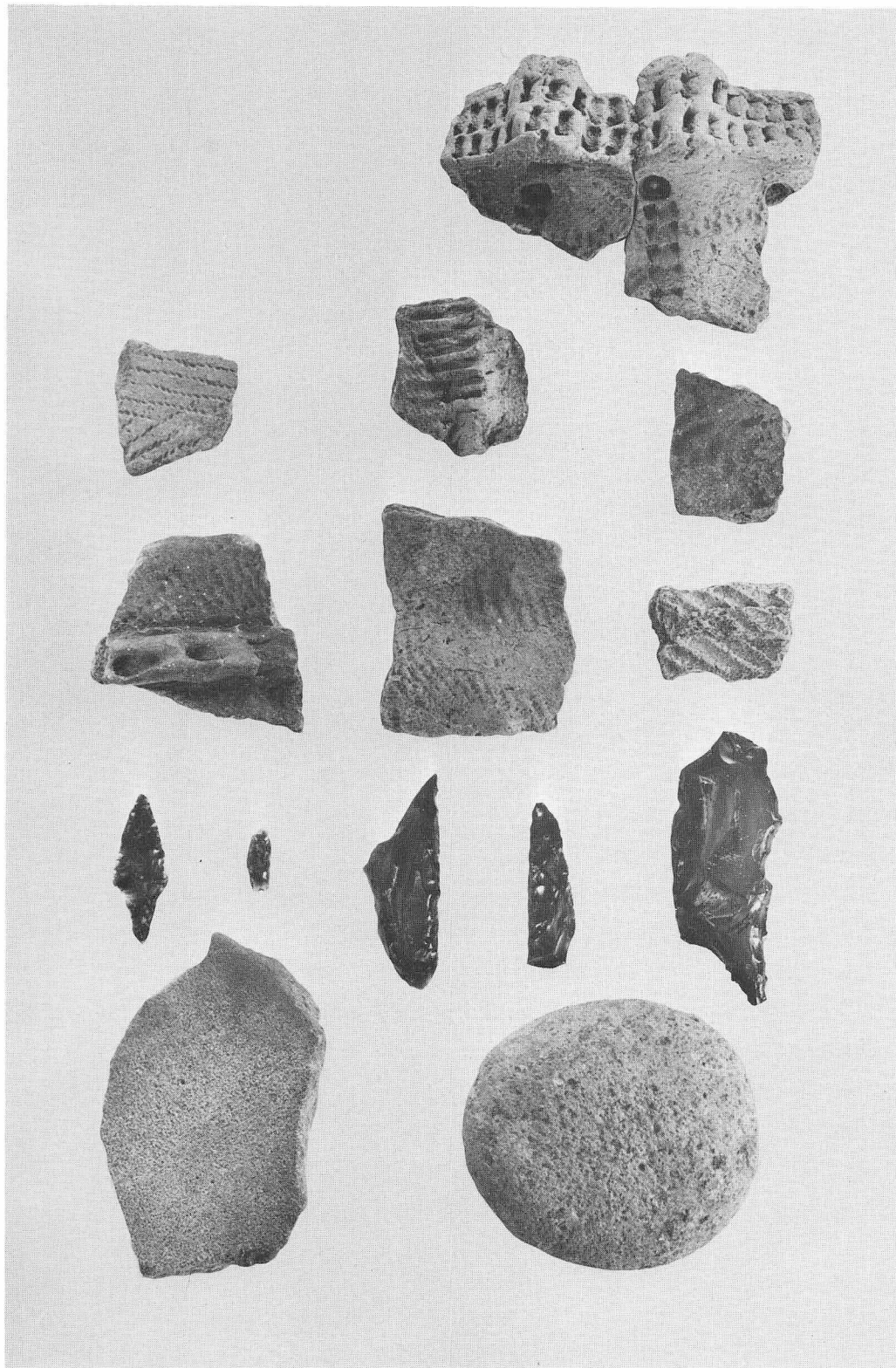
NO.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
9	石 鉄 (未)	I A -	覆土	119×8×4	(0.5)	Obs.
10	スクレイパー	ⅢB 4	"	122×23×8	(11.7)	"
11	"	"	"	48×15×12	7.4	"
12	"	ⅢB 7	"	80×33×8	18.2	"
13	たたき石	V A 2	床面	77×84×36	360	And.
14	砥 石	Ⅶ B 2	覆土	111×66×17	130	Sa.

時 期 縄文時代

備 考 北側に近接してH-1が、西側にH-2が、また東側には昭和54年度H-6がある。

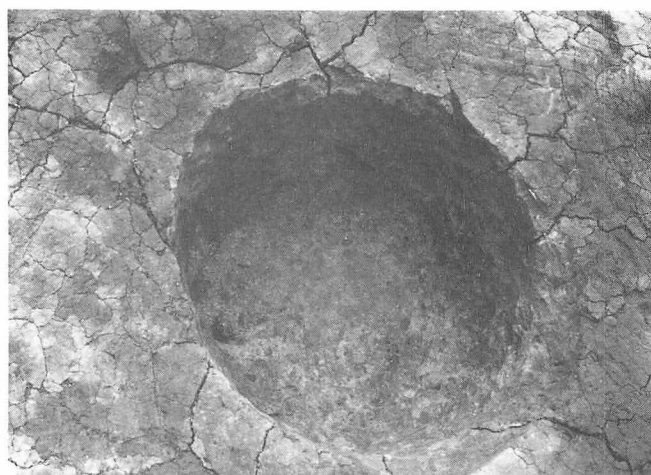
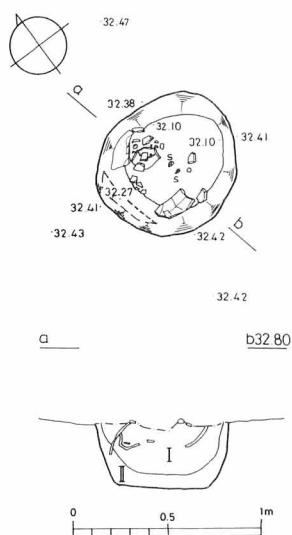
平面形、床面の状態、炉跡および柱穴の欠如などから判断して、居住跡ではない可能性もあるが、規模からみて一応住居跡に含めておく。





2. 墓

P-2



位 置 P-36-c

形 状 平面形は確認面で0.

77×0.70 m のほぼ円形。確認

面からの深さは 37 cm。黄褐

色土層中に掘りこまれ、壁は

急傾斜に立ちあがる。本遺構

は規模が小さく、遺骸は痕跡

も認められず、かつベンガラ等も検出されなかったが、2 個体の土器の出土状況から、一

応墓とした。上部が削平されていたため、不確実であるが、墓壙上部に献供された土器が

落ちこんだものと考えられる。

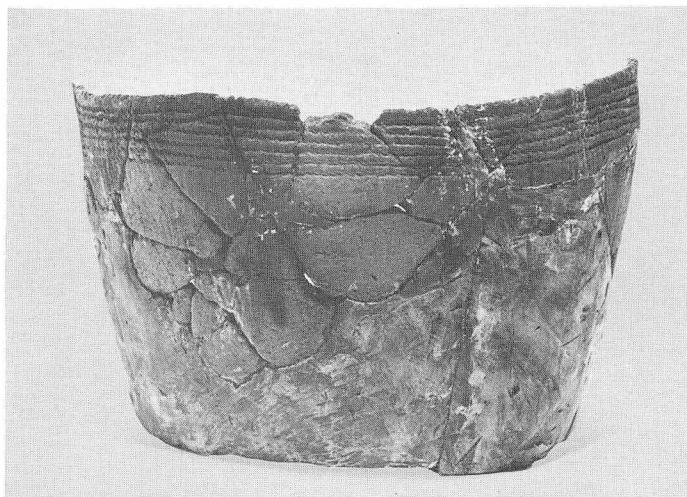
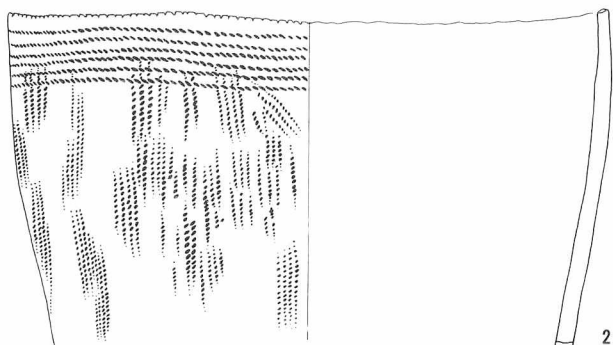
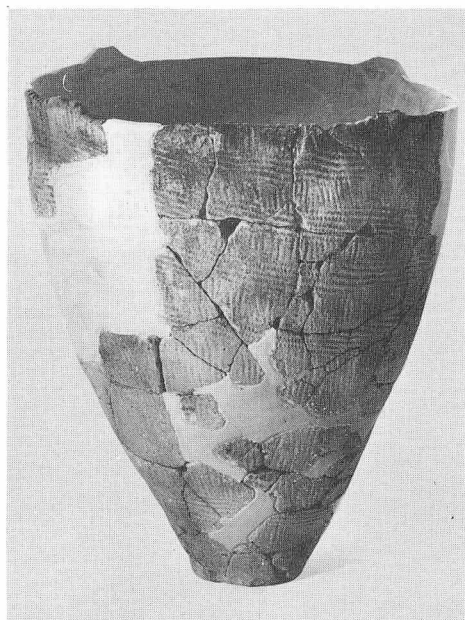
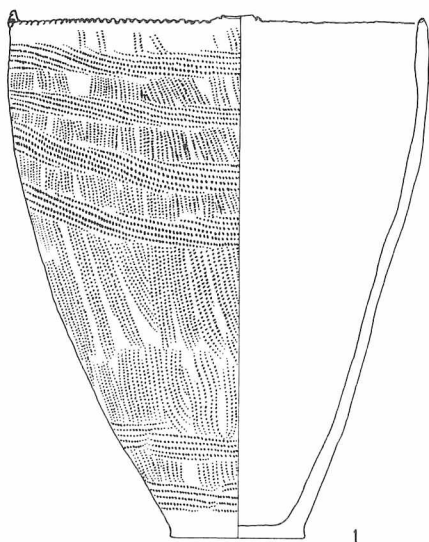
土 層 I：黒色土，II：暗茶褐色土

遺 物

NO.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	VI	覆土	φ 224×274		

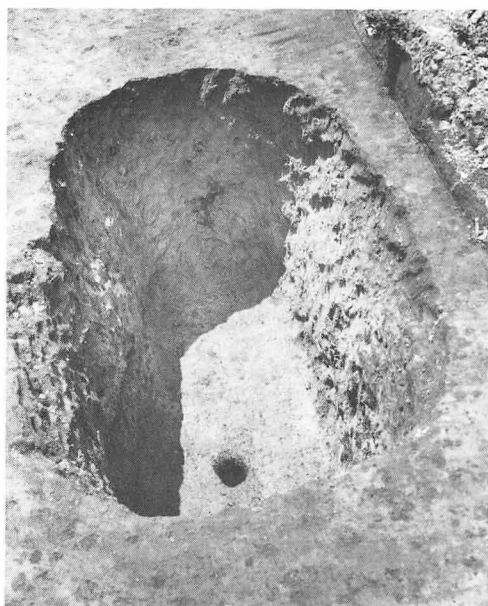
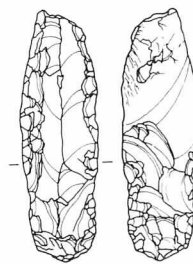
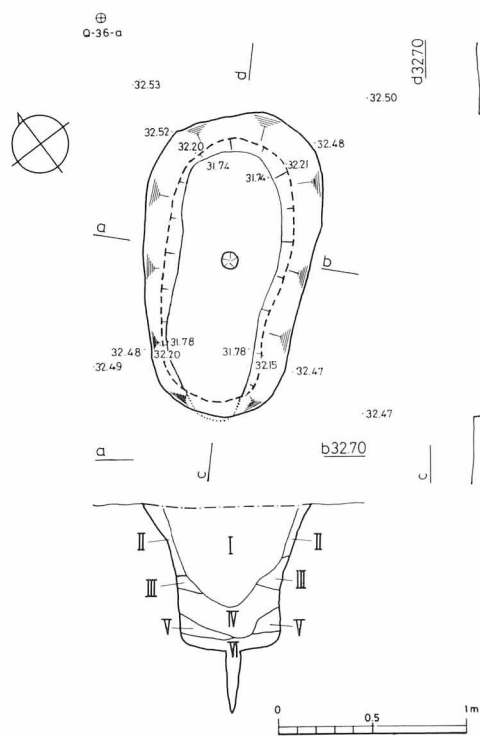
NO.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
2	土 器	VI	覆土	φ 319×-		

時 期 続縄文時代



3. Tピット

T-1



位置 Q-36-a

形状 平面形は小判形に近いが、両側縁は平行でない。確認面での長軸長 1.57 m、最大幅は北東の端寄りで 0.93 m。確認面からの深さは 76 cm。黄褐色土層に深く掘りこまれ、底は平坦で、中央に径 8 cm、深さ 36 cm の小ピットをもつ。壁の立ちあがりは急である。

長軸方向 N-44°-E

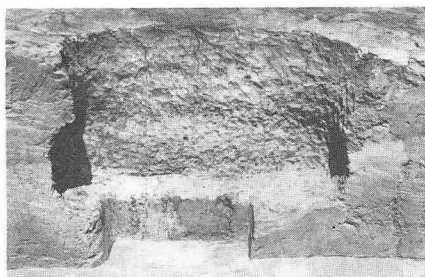
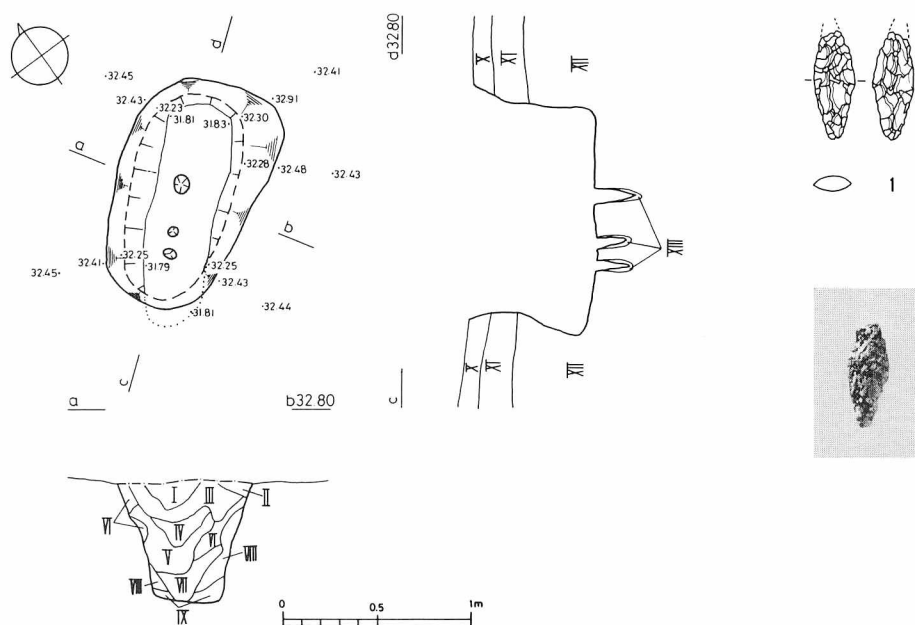
土層 I・VI：黒色土，II：褐色土，
III・V：黄褐色土，IV：暗褐色土

遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	スクレイパー	III B 7	覆土	66×21×11	(7.6)	Ha-Sh.

時期 不明

T-2



位置 Q-37-b, -c

形状 黄褐色土層中に深く掘りこまれ、平面形はT-1と同様の側縁の平行でない小判形。確認面での長軸長1.21m、最大幅0.79m。確認面からの深さは65cm。底面は平坦で、長軸上に3個の小ピットがある。壁は全周急角度に立ちあがり、南西端部では、若干オーバー・ハングしている。

長軸方向 N-45°-E

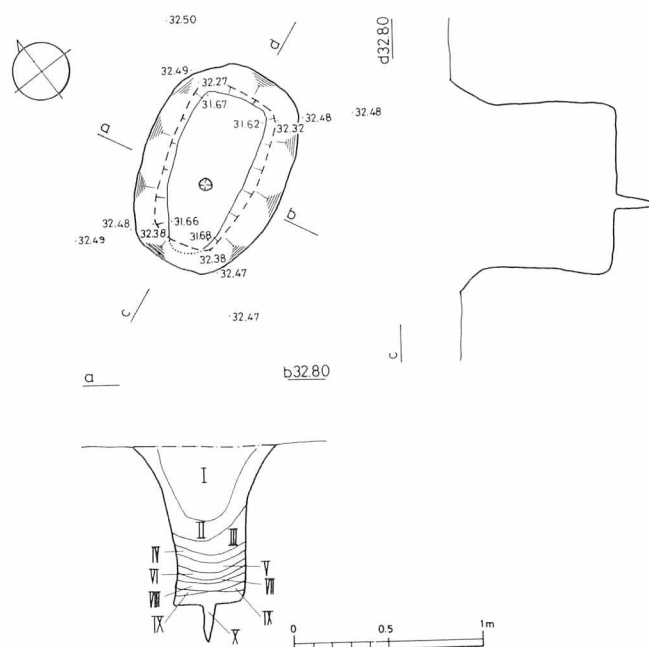
土層 I・IV：黒色土，II・VIII・XI：黄褐色土，III：茶褐色土，V：褐色土，VI：明褐色土，VII・X：暗褐色土，IX：黒褐色土，XII：淡灰色土，XIII：酸化鉄を含む橙色土

遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	石 鍬	IA-	覆土	28×12×6	(1.3)	Obs.

時期 不明

T-3



位 置 Q-44-b

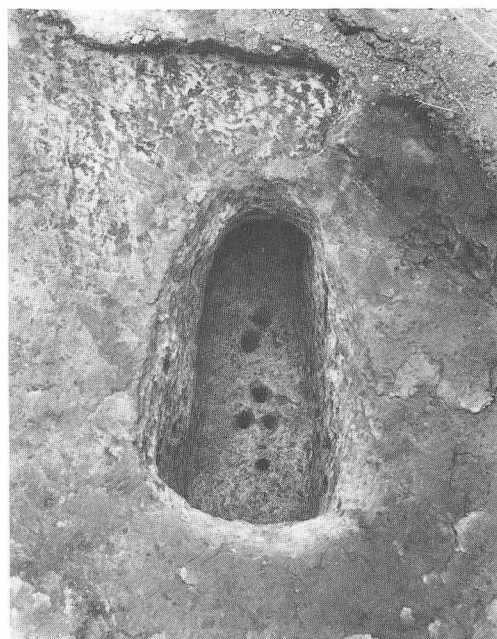
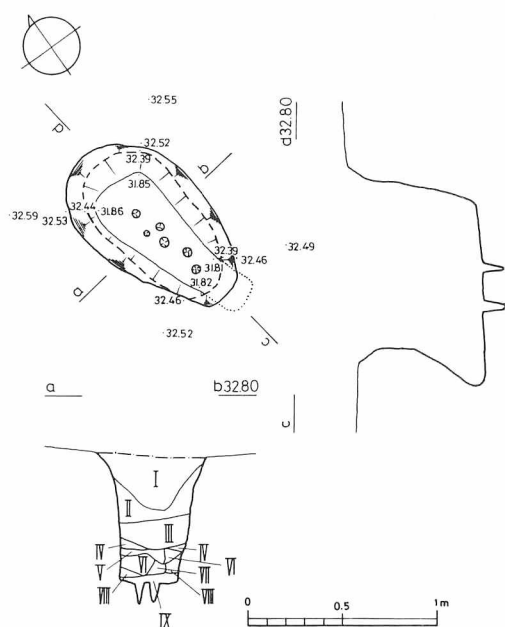
形 状 平面形は確認面で 1.10×0.77 mの
小判形で、確認面からの深さは83 cmであ
る。黄褐色土層中に深く掘りこまれ、底面
は平坦で長軸上中央に小ピット1個をも
つ。壁の立ちあがりは急で垂直にちかい。

長軸方向 N-57°-E

土 層 I・X：黒色土、II：暗茶褐色土、
III・IX：暗黄褐色土、IV・VII：黄褐色土、
V・VIII：黒褐色土、VI：茶褐色土

時 期 不明

T-4



位置 Q-43-b

形状 平面形は確認面で1.04×0.61mの南北に長く、最大幅がやや北側に寄った長円形。

確認面からの深さは67cm。黄褐色土層中に深く掘りこまれ、底面は平坦で長軸にほぼ沿って6個の小ピットがある。両側縁の壁の立ちあがりは急で垂直にちかいが、北端部ではやや緩やかで、南端部では逆にオーバー・ハングしている。

長軸方向 N-15°-E

土層 I・V・IX：黒色土，II・III：暗褐色土，IV・VIII：黄色土，VI・VII：明褐色土

時期 不明

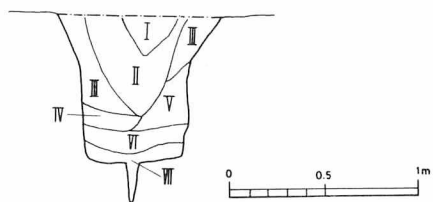
T-5

位置 M-18-c

形状 平面形は確認面で1.87×0.

87mの細長い小判形。確認面からの深さは77cm。黄褐色土層中に掘りこまれ、底面は平坦で、長軸線上中央に小ピット1個をもつ。壁は両端部がややオーバー・ハングするほか、垂直にちかく立ちあがる。

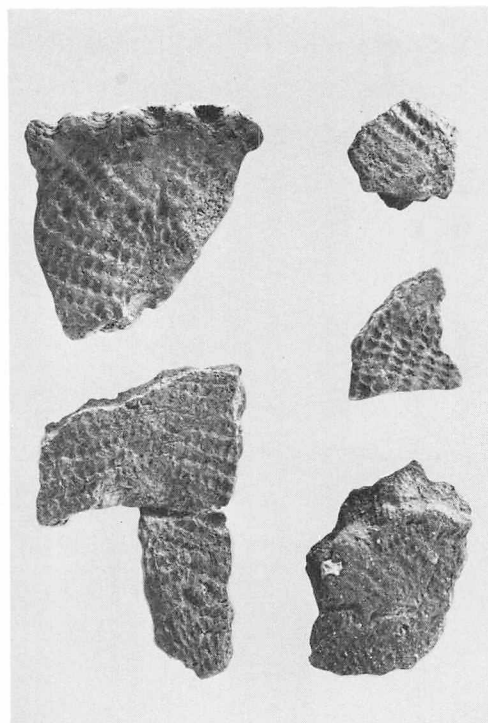
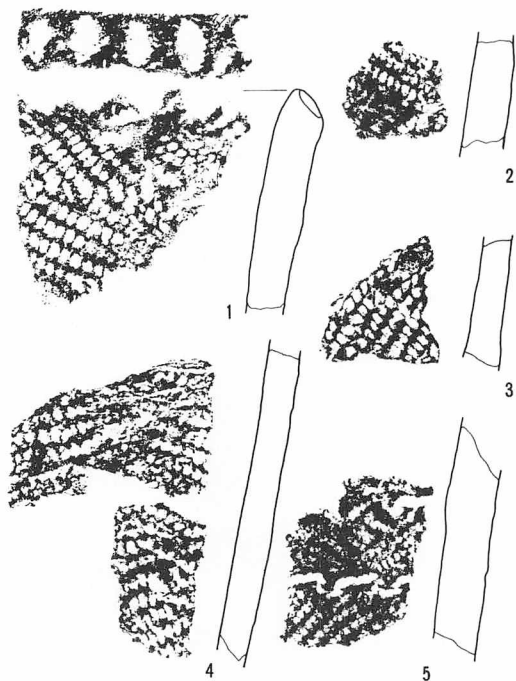




遺物

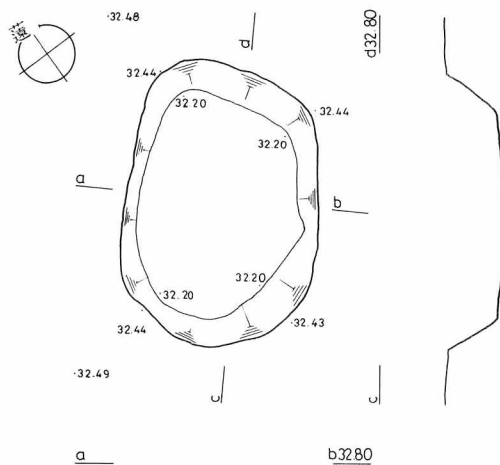
N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	Ⅲ b-1	覆土			
2	〃	Ⅲ a	〃			
3・4	〃	Ⅲ b-2	〃			
5	〃	Ⅲ b-3	〃			

時期不明



4. その他のピット

P-1



位置 N-36-c, N-37-b

形状 平面形は小判形にちかく、確認面で
1.47×1.02 m ほどの大きさである。確認面
からの深さは 29 cm。底は平坦。壁の立ちあ

がりはやや急である。底面付近から炭化物が検出されている。

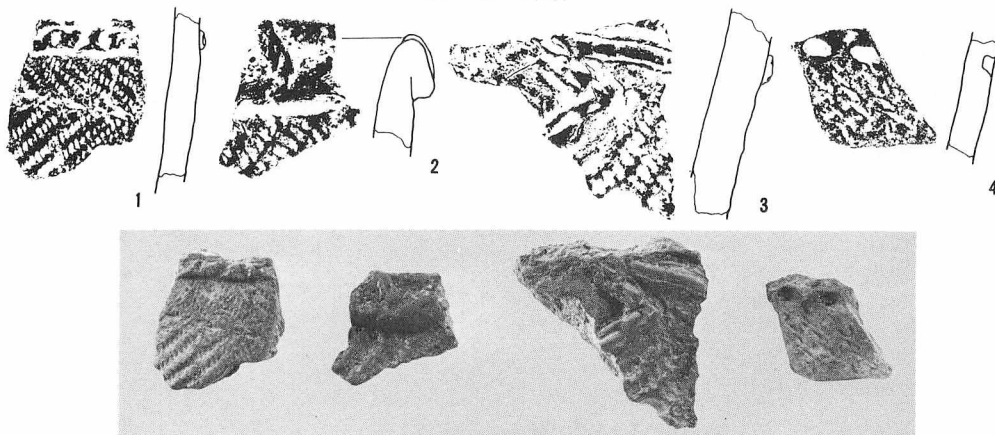
土層 I：暗褐色土，II：褐色土，III：明褐色土

遺物

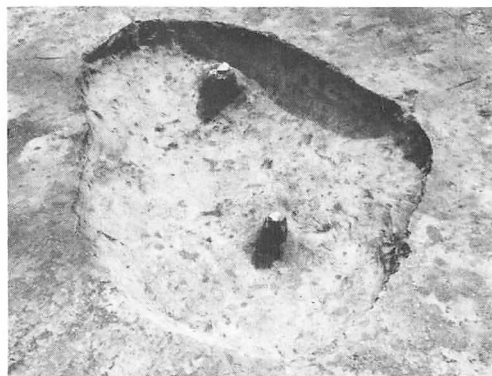
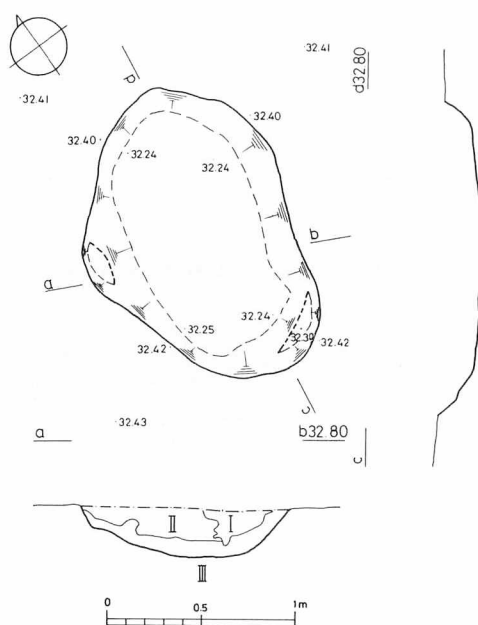
NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	I b-2	覆土			
2	"	III a	"			

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
3	土器	III b-1	覆土			
4	"	III b-2	"			

時期 縄文時代中期，III群 b-2 類土器の時期



P-3



位置 Q-37-b

形状 平面形は概ね長円形であるが、西と南に、張り出しがある。確認面で大きさは1.62 × 1.13 m、深さは24 cmである。底はほぼ平坦、壁の立ちあがりは緩やかである。

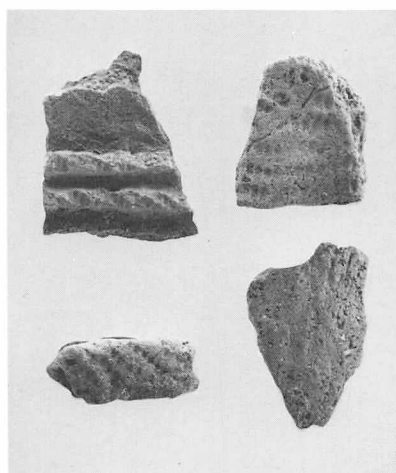
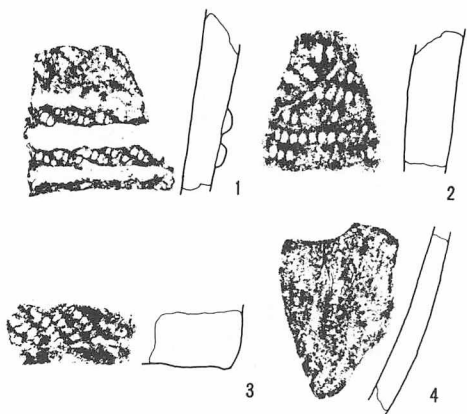
土層 I：黒色土、II：黒褐色土、III：褐色土

遺物

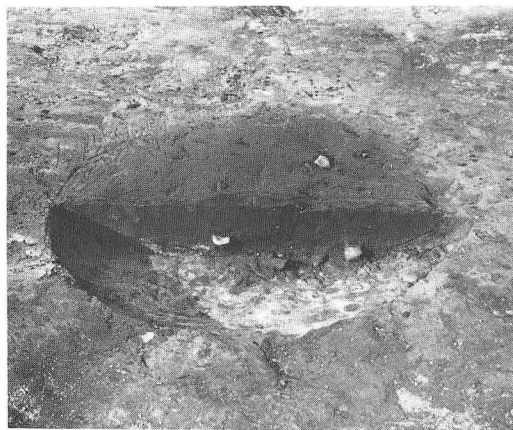
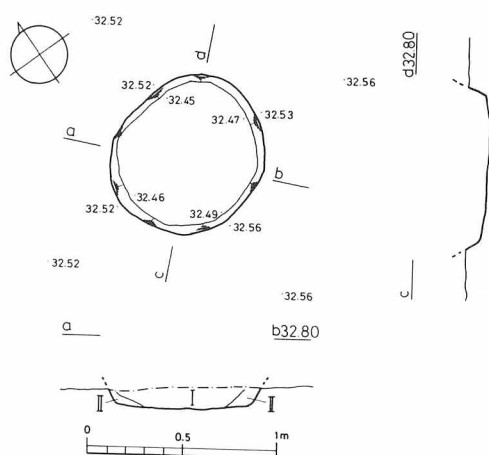
NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1・2	土器	Ⅲa	覆土			
3	"	Ⅲb-1	"			

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
4	土器	Ⅵ	覆土			

時期 不明



P-4



位置 Q-41-b

形状 平面形はほぼ円形。確認面での大きさは 0.86×0.77 m で、確認面からの深さは 11 cm。底面は平らで壁の立ちあがりは急である。

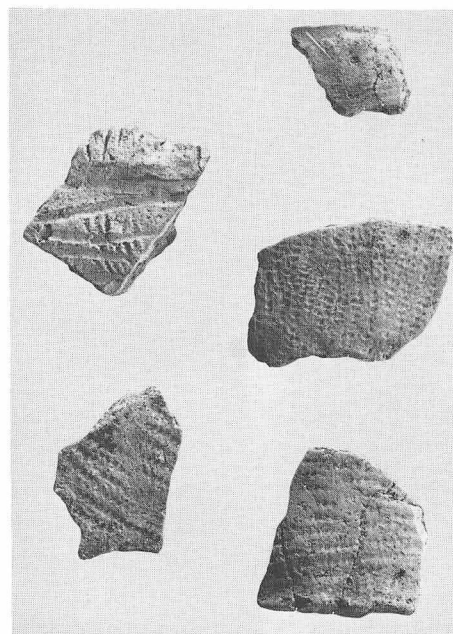
土層 I：黒色土，II：暗褐色土

遺物

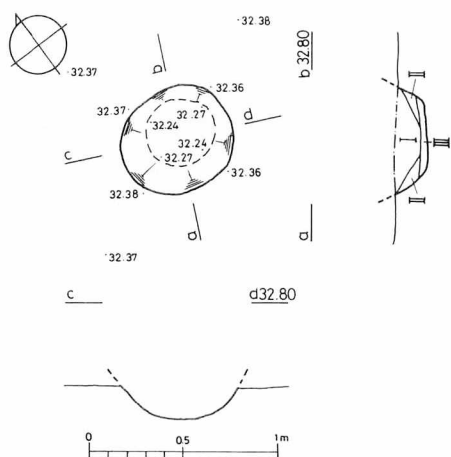
N0.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	Vb	底面			
2-4-5	"	VI	覆土			

N0.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
3	土器	VI	底面			

時期 続縄文時代



P-5



位置 Q-37-d, Q-38-a

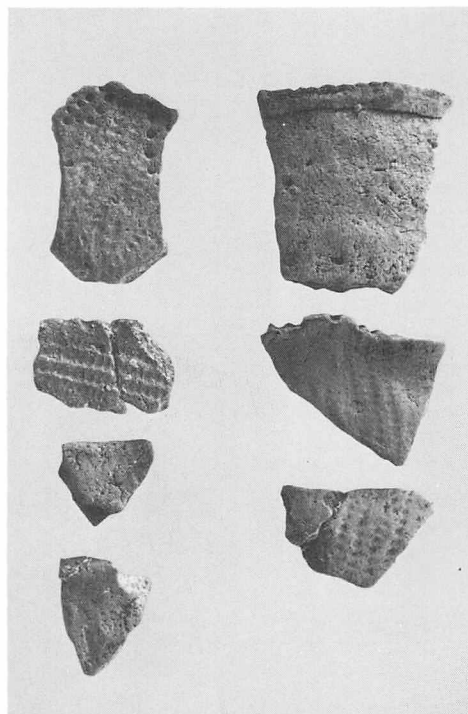
形状 平面形はほぼ円形。確認面での大きさは 0.60×0.53 mで、確認面からの深さは 18 cm。底の平らな部分は小さく、かつ壁の立ちあがりが緩やかで、碗形を呈する。

土層 I：黒色土，II：黒褐色土，III：暗茶褐色土

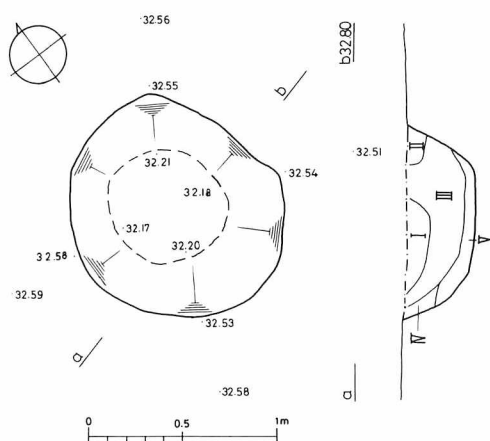
遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1~7	土器	VI	覆土			

時期 続縄文時代



P-6



位置 Q-41-c

時期 続縄文時代

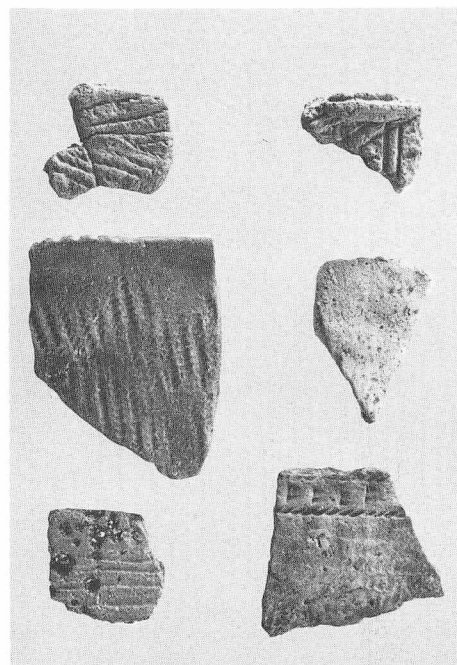
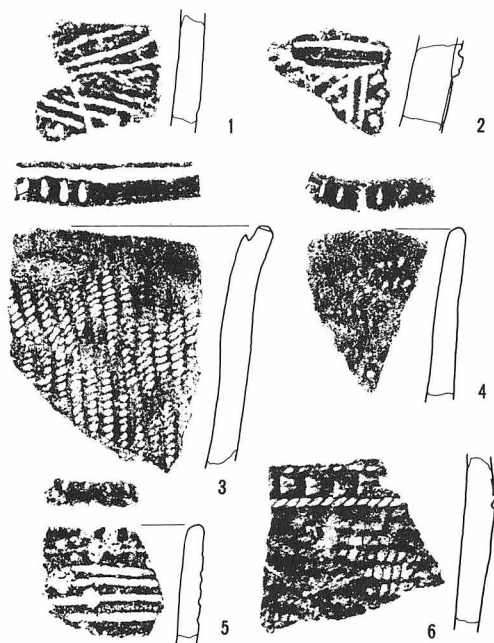
形状 平面形はややいびつな円形。確認面での大きさは1.18×1.06 mで、確認面からの深さは36 cm。壁の立ちあがりは緩やかで、底との境が不明瞭。

土層 I：黒色土，II：茶褐色土，III：暗褐色土，IV：褐色土，V：明褐色土

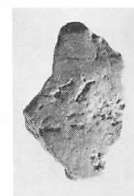
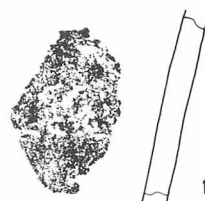
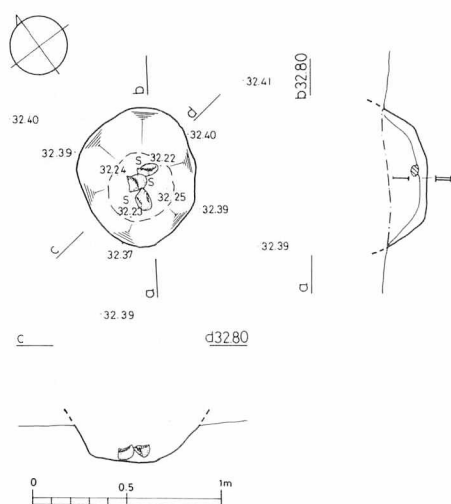
遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	I b-4	覆土			
2	"	III b-1	"			

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
3~6	土器	VI	覆土			



P-7



位置 Q-36-d

形状 平面形はほぼ円形。確認面での大き

さは0.73×0.61mで、確認面からの深さは21cm。壁の立ちあがりは緩やかで、底面との境が不明瞭。底から焼破礫が検出されている。

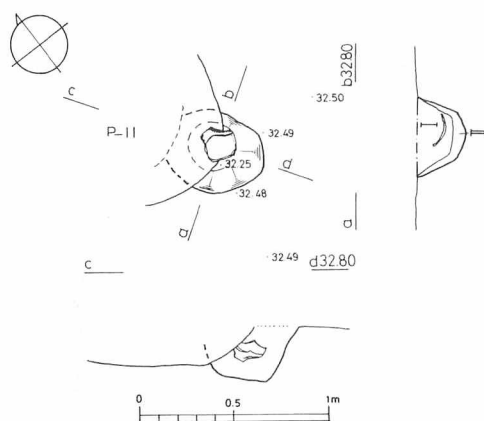
土層 I：暗褐色土、II：褐色土

遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	VI	覆土			

時期 続縄文時代(?)

P-8



位置 P-39-a

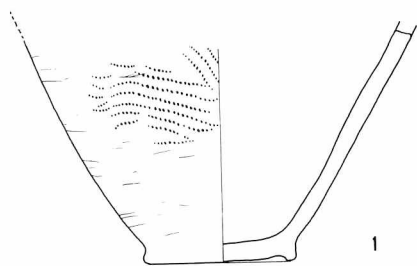
形 状 平面形は円形ないし長円形と思われる。P-11 に切られており、長径は不明であるが、短径は確認面で 0.43 m。確認面からの深さは 26 cm。碗形を呈する。

土 層 I：黑色土，II：褐色土

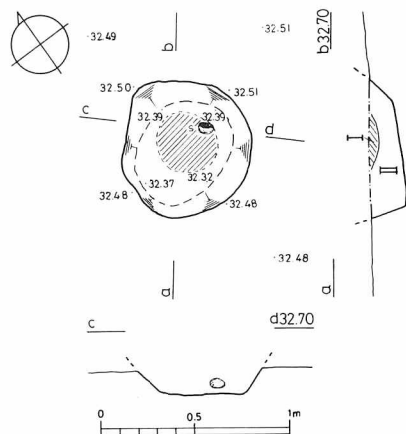
遺物

No.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	Ⅵ	底面			

時 期 続縄文時代



P - 9



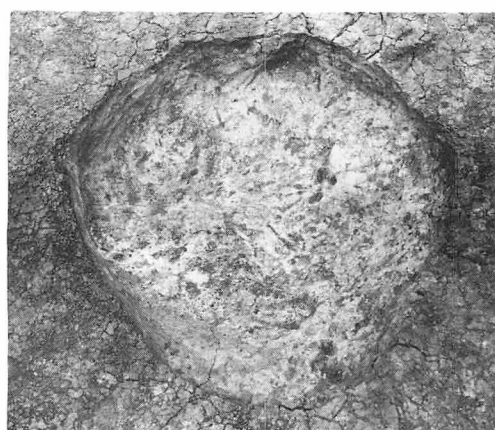
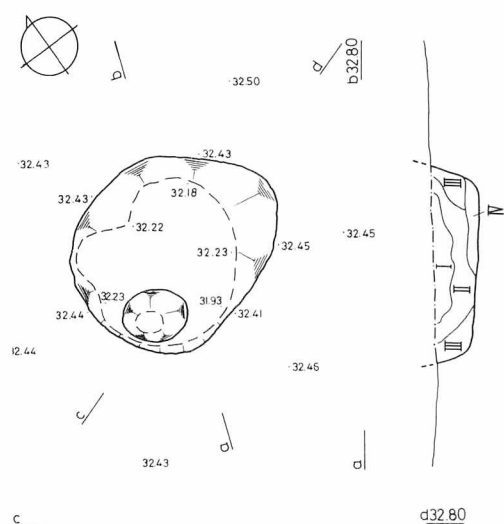
位置 Q-41-a

形状 平面形は円形。確認面での大きさは 0.71×0.72 m で、確認面からの深さは 18 cm。底面は平坦であるが、壁の立ちあがりは緩やかである。確認面付近で安山岩小礫を多数検出した（図の斜線部分）。

土 層 I : 黑色土, II : 褐色土

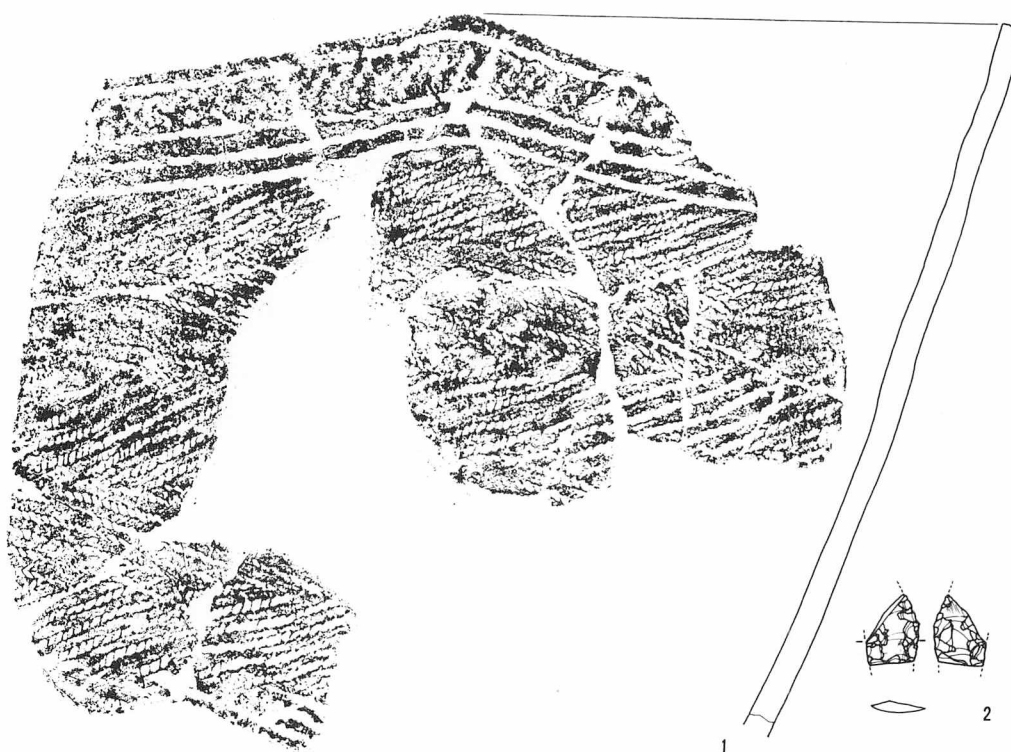
時期不明

P-10

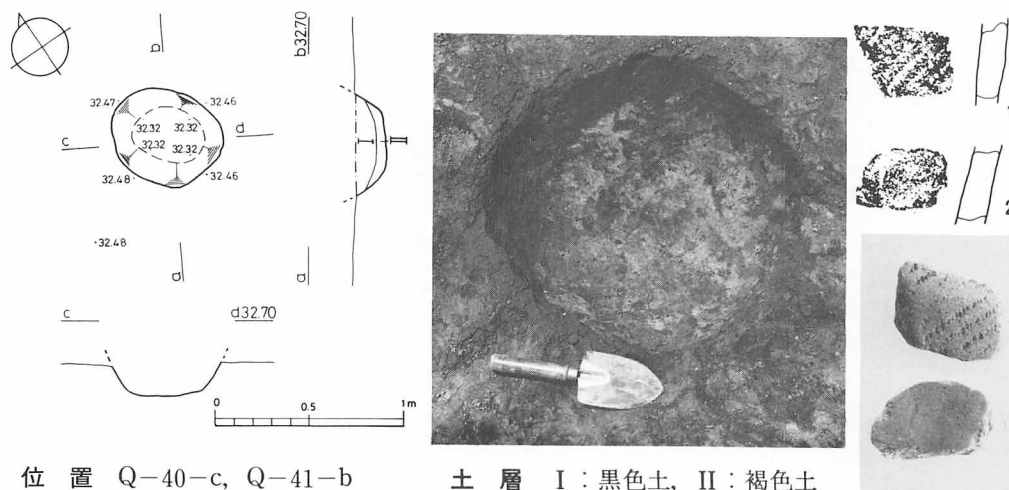


位置 P-44-a

形状 東側がやや拡張した円形。確認面での大きさは1.15×0.94 m。確認面からの深さ25 cm。底面はほぼ平らであるが、南西の壁際に掘りこみがある。壁は東側を除いてほぼ直立。



P - 12



位 置 Q-40-c, Q-41-b 土 層 I: 黑色土, II: 褐色土

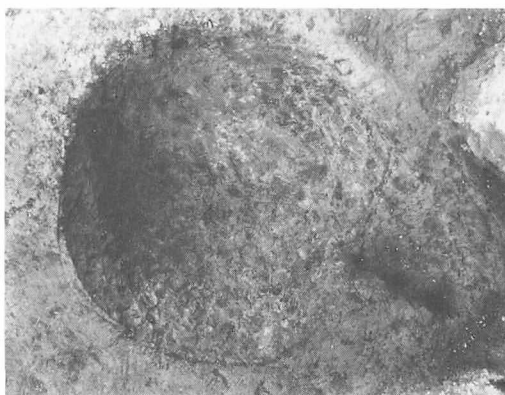
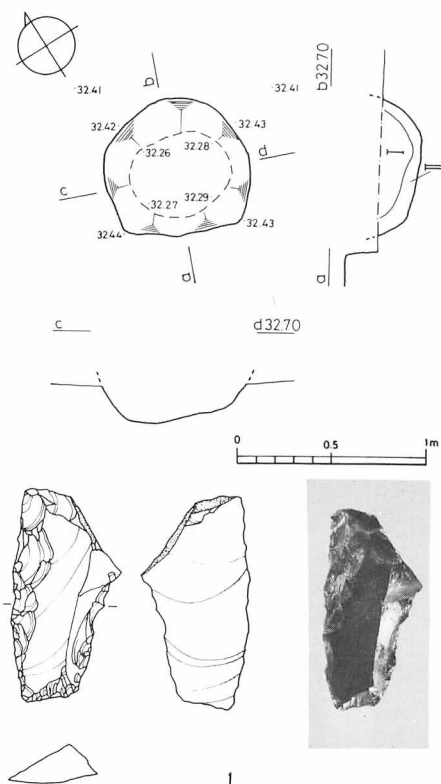
形 状 平面形は長円形。確認面での大きさは 0.60×0.50 m。確認面からの深さは 16 cm。

壁の立ちあがりは緩やかで、底面との境が不明瞭である。

遺物	NO.	名 称	分 類	屬位	大さきmm			重さg			材 質	時 期	続縄文時代(?)

NO.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1・2	土 器	VI	覆土			

P - 13



位置 P-15-a

形状 平面形は円形。確認面での大きさは 0.76×0.70 m。確認面からの深さは 21 cm。壁の立ちあがりは緩やかで、底面との境が不明瞭。

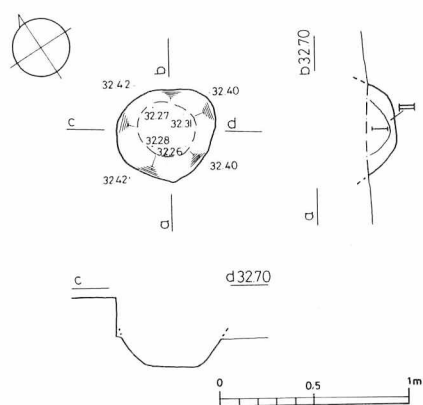
土 層 I：暗褐色土，II：淡黃褐色土

遺物

NO.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	スクレイパー	ⅢB7	覆土	57×29×15	17.8	Obs.

時 期 不 明

P-14



位置 P-14-d, P-15-a

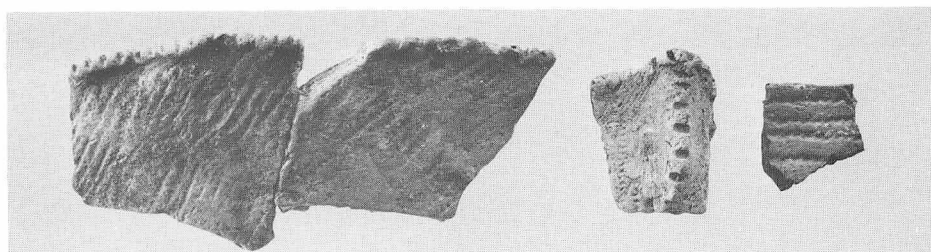
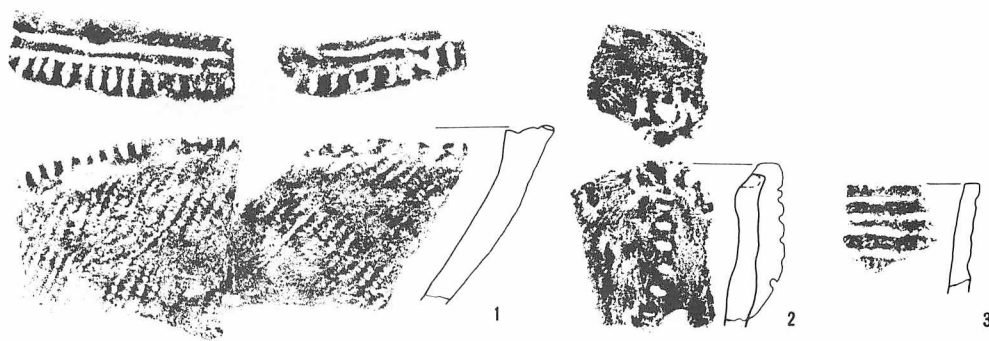
形状 平面形はややいびつな円形。確認面での大きさは 0.55×0.49 m。確認面からの深さは 15 cm。壁の立ちあがりは緩やかで、底面との境が不明瞭。

土層 I：暗褐色土，II：淡黄褐色土

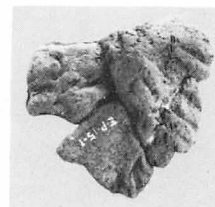
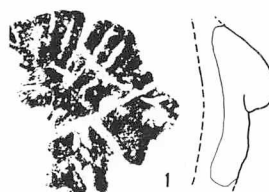
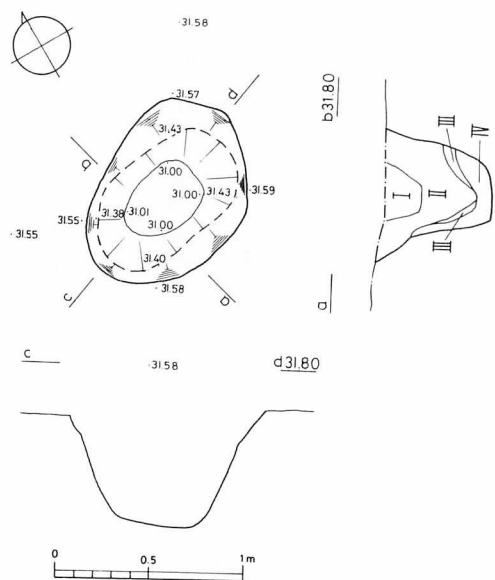
遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1~3	土器	Vb	覆土			

時期 縄文時代晩期，V群b類土器の時期



P-15



位置 H-8-b, I-8-a

形状 平面形は長円形。確認面での大きさは 1.00×0.73 m。確認面からの深さは 56

cm。底の平坦面は狭い。壁は比較的急に立ちあがっている。

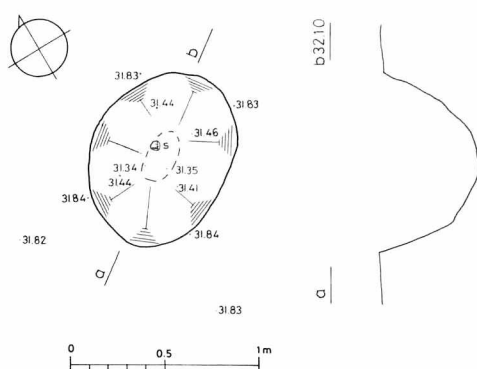
土層 I：黒色土, II：暗褐色土, III：淡褐色土, IV：淡茶褐色土

遺物

N0.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	Ⅲb-1	覆土			

時期 不明

P-16



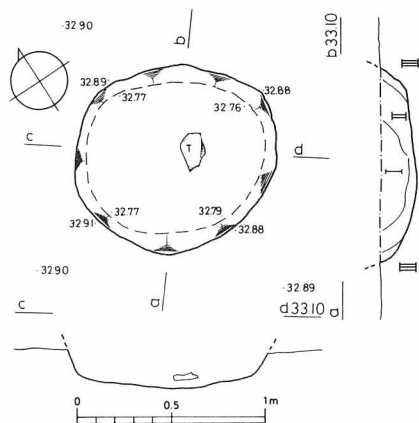
位置 J-9-d, J-10-a

形状 平面形は長円形。確認面での大きさは 0.94×0.73 m。確認面からの深さは 51 cm。

すり鉢形を呈し、ほとんど丸底。非人為的なものの疑いもある。

土層 I：黒色土, II：暗褐色土, III：淡黄褐色土 時期 不明

P-17



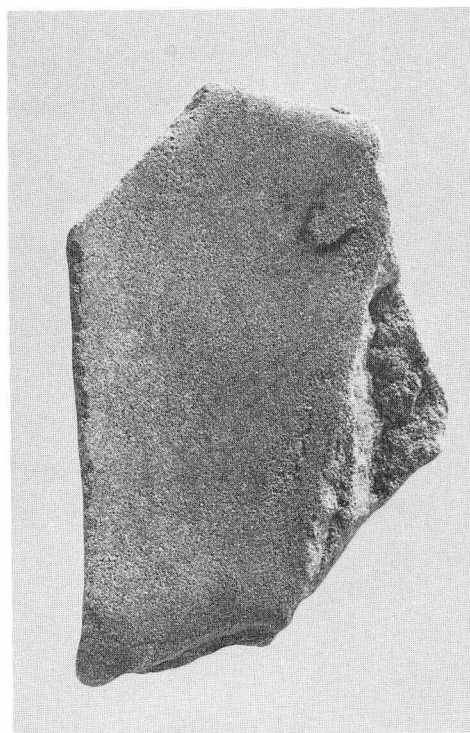
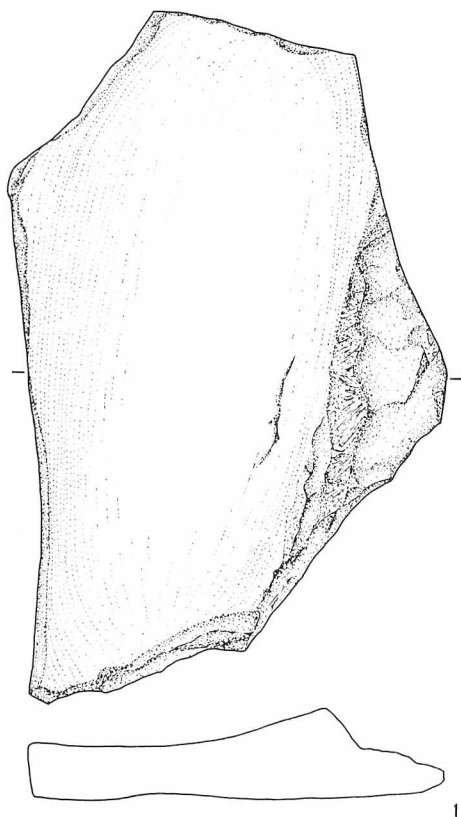
位置 N-18-a, -b

形状 平面形はほぼ円形。確認面での大きさは 1.09×0.97 m。確認面からの深さは 19 cm。
底は中心部が低く、ややいびつである。壁の立ちあがりは緩やかで、底との境が不明瞭なところもある。

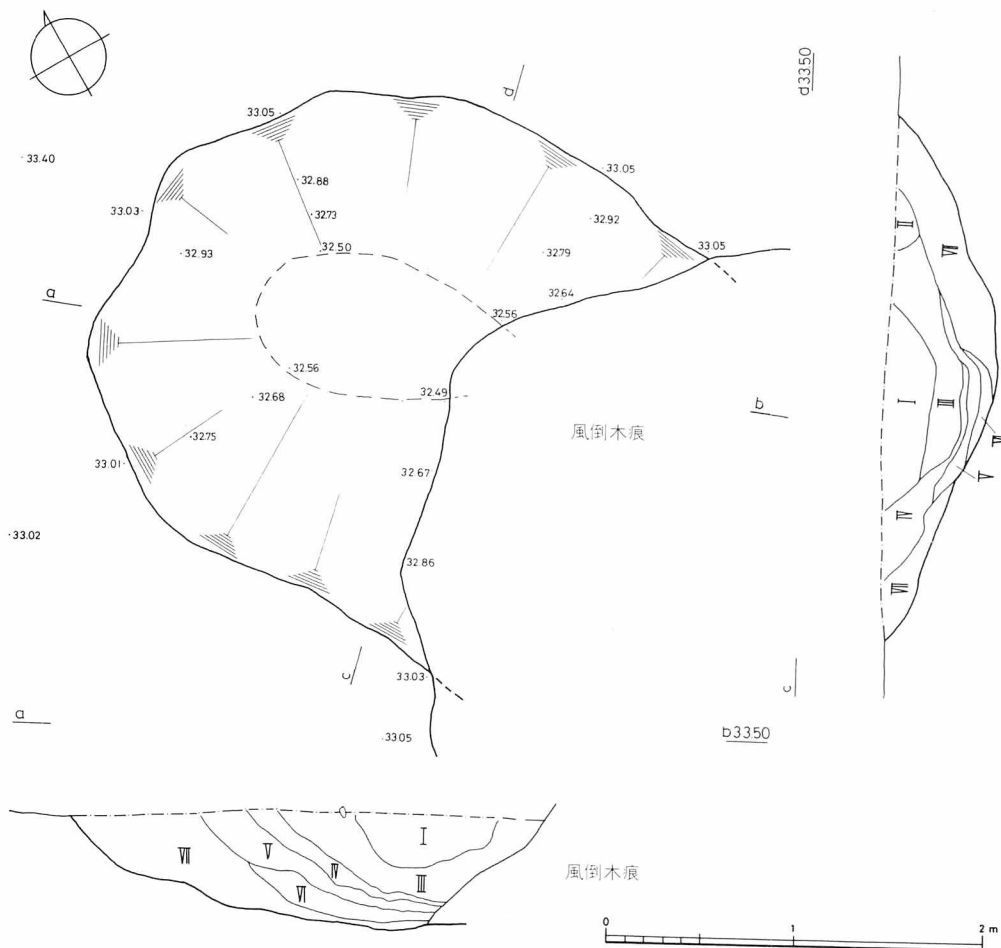
土層 I：黒色土，II：暗茶褐色土，III：暗黄色土 時期 不明

遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	砥石	石	ⅦB 2	覆土	183×112×18	580 Sa.



P-18



位置 M-18-c, -d 時期 不明
 形状 平面形は長円をなすものと思われる。
 南半は木根により攪乱を受けている。底と
 壁の境が不明瞭で、断面はすり鉢形を呈す
 る。非人為的なものの疑いもある。

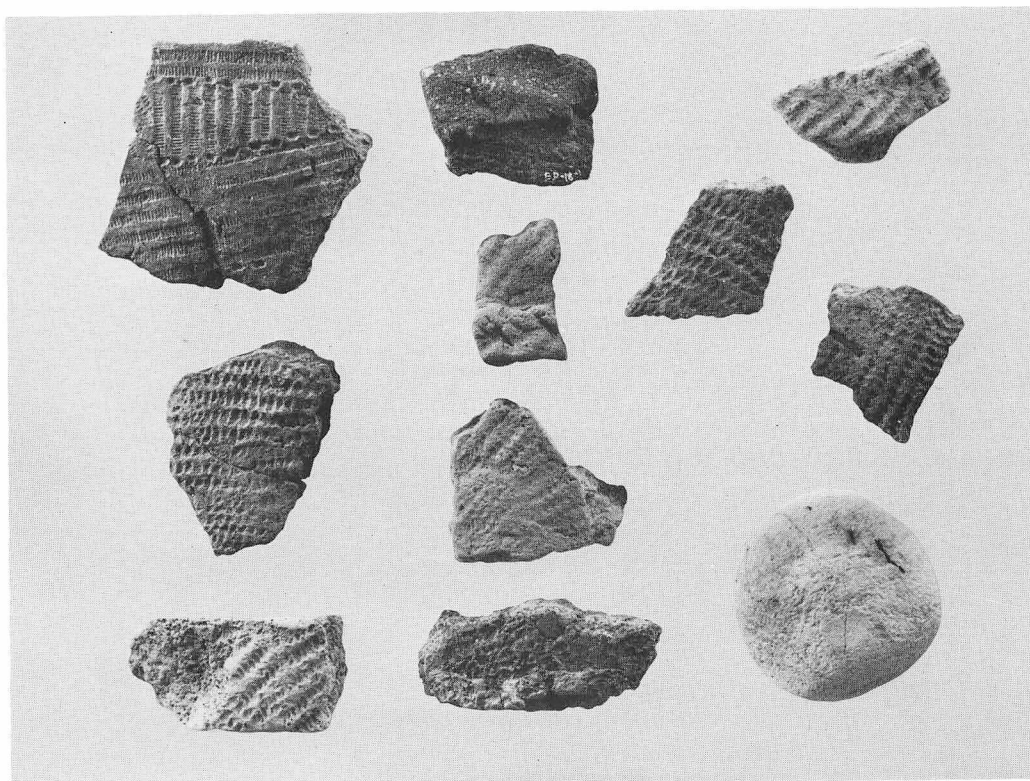
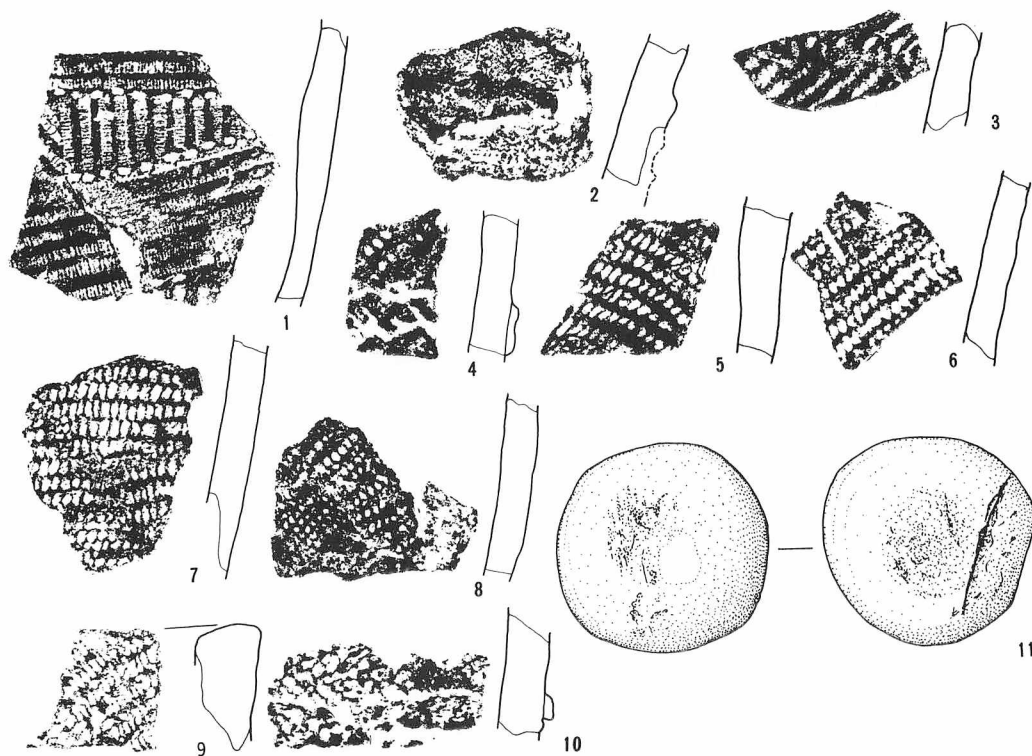
土層 I：黒色土, II：明褐色土, III：黒
 褐色土, IV：暗黄褐色土, V：暗茶褐色土,
 VI：黄褐色土, VII：暗褐色土

遺物

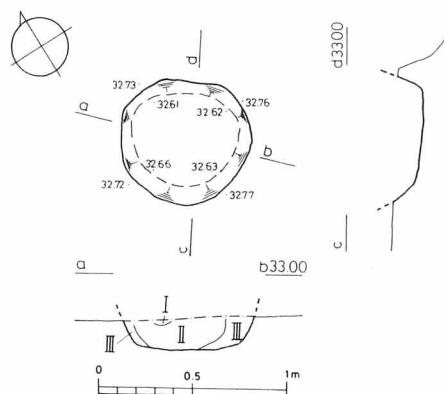
NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	Ib-2	覆土			
2	"	IIa-1	"			
3	"	IIIa	"			



NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
4~8	土器	IIIb-2	覆土			
9・10	"	IVa	"			
11	たたき石	V A 4	"	56×57×54	245	Sa.



P-19



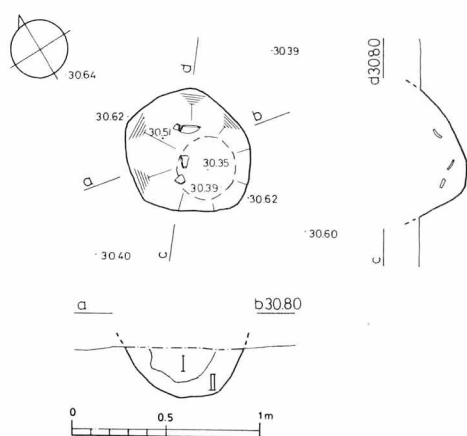
位置 N-19-c

形状 平面形は円形。確認面での大きさは 0.68×0.65 m。確認面からの深さは 16 cm。底は平ら。壁の立ちあがりはやや緩やかである。

土層 I：赤褐色土（火山灰？）、II：黒色土、III：暗褐色土

時期 不明

P-20



位置 I-3-d, I-4-a

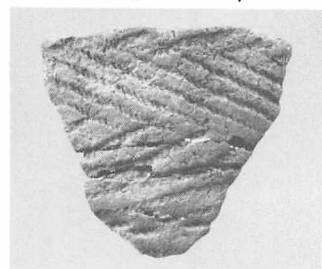
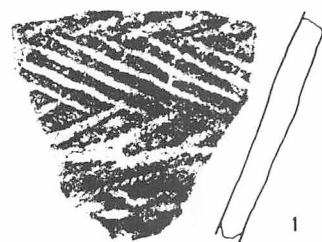
形状 平面形はほぼ円形。確認面での大きさは 0.72×0.66 m。碗形を呈し、確認面からの深さは 25 cm。覆土下部より炭化したクルミが検出された。

土層 I：暗褐色土、II：明褐色土

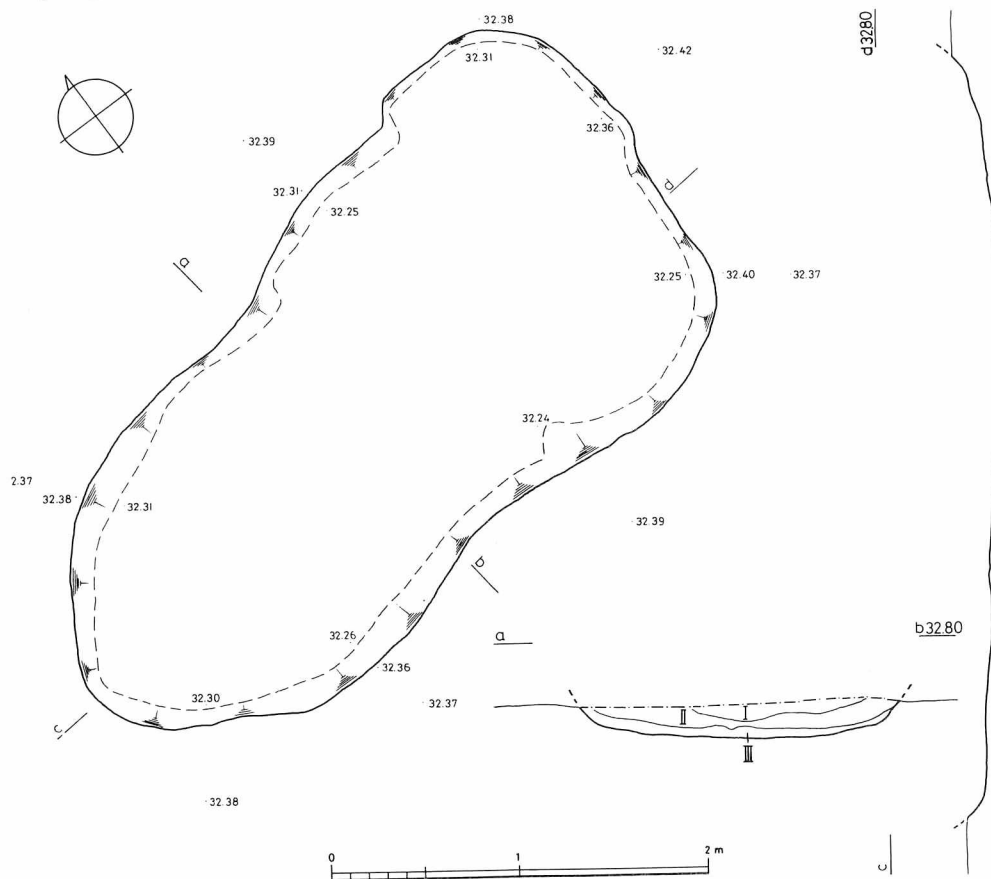
遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	Ib-4	覆土			

時期 縄文時代早期, I 群 b-4 類土器の時期



P-21



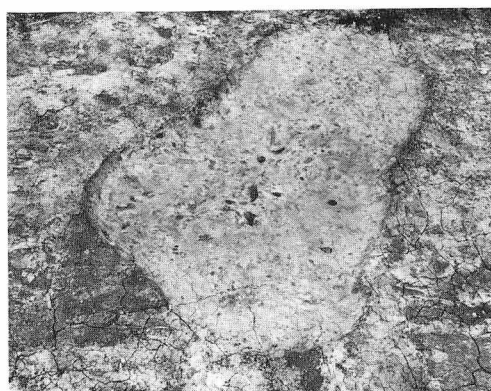
位 置 Q-38-c, Q-39-b

形 状 平面形は不整な長円形。確認面での大きさは、 4.11×1.67 m。2 個以上のピットの重複とも考えられる。底はほぼ平坦で、確認面からの深さは 18 cm。壁の立ちあがりは緩やかである。

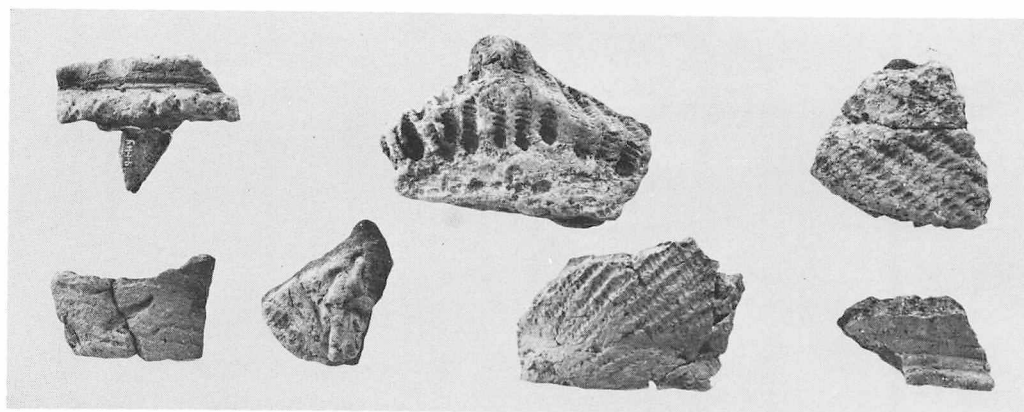
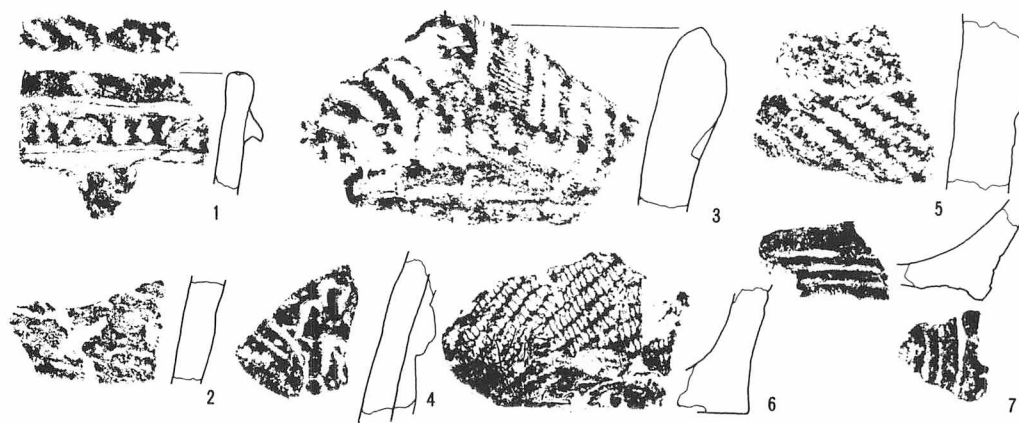
土 層 I：淡黒褐色土，II：黒色土，III：暗褐色土

遺 物

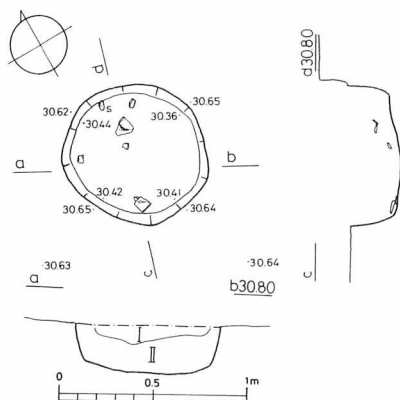
N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	I b-2	覆土			
2	"	I b-4	"			
3	"	III a	"			
4	"	III b-1	"			
5・6	"	IV a	"			
7	"	VI	"			



時 期 不明



P-22



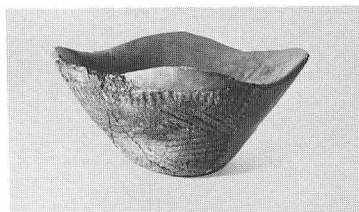
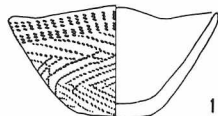
位置 H-3-c, I-3-d

形状 平面形は円形。確認面での大きさは 0.77×0.72 m。底面はほぼ平坦で、確認面からの深さは 25 cm。壁の立ちあがりは急で、垂直にちかい。覆土下部から炭化したクルミが検出された。

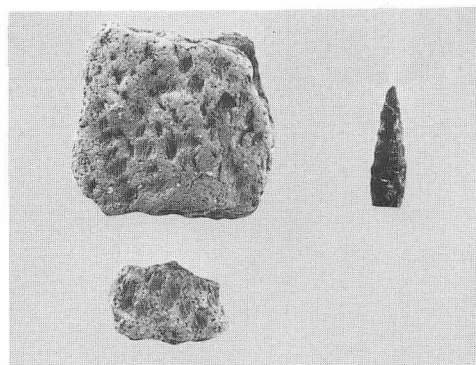
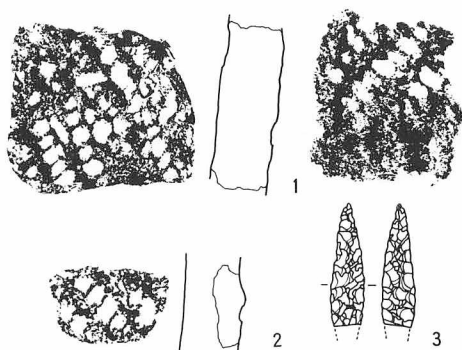
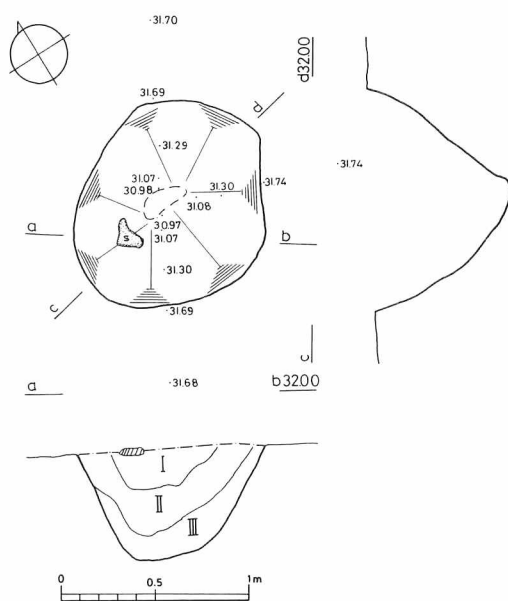
土層 I: 暗褐色土, II: 明褐色土

遺物	NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
	1	土器	I b-4	覆土	φ 112×59		
	2	"	"	"			

時期 縄文時代早期, I 群 b-4 類土器の時期



P-23



位置 I-9-b

時期 不明

形状 平面形はほぼ円形。確認面での大きさは 1.16×1.00 m。壁はすり鉢状に傾き、丸底となる。確認面からの深さは 74 cm。非人為的なものの可能性がある。

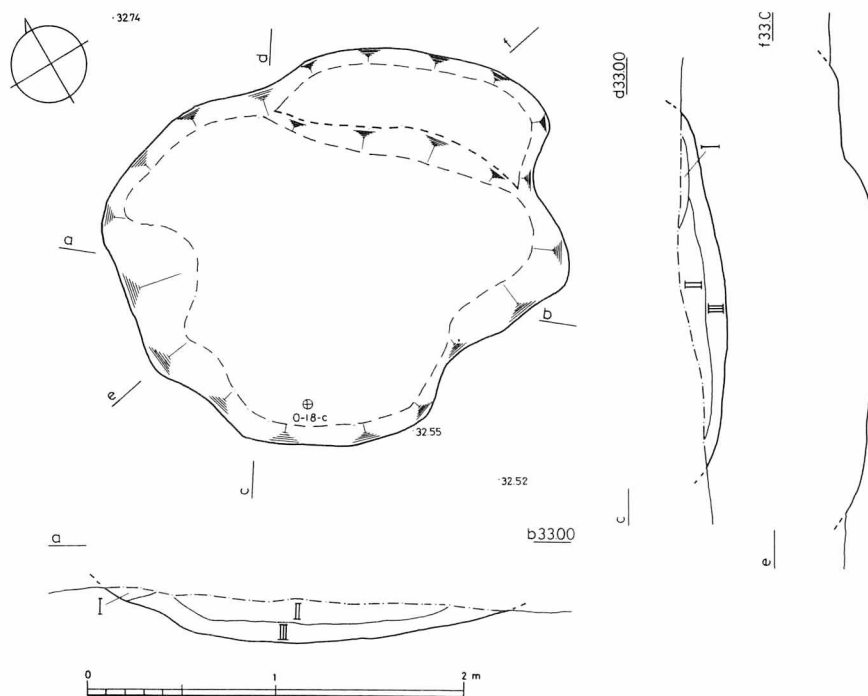
土 層 I：黒色土，II：暗褐色土，III：暗黄色土

遺 物

N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1・2	土 器	IV a	覆土			

N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
3	石 鍬	IA 2 a	覆土	330×10×4	(1.1)	Obs.

P-24



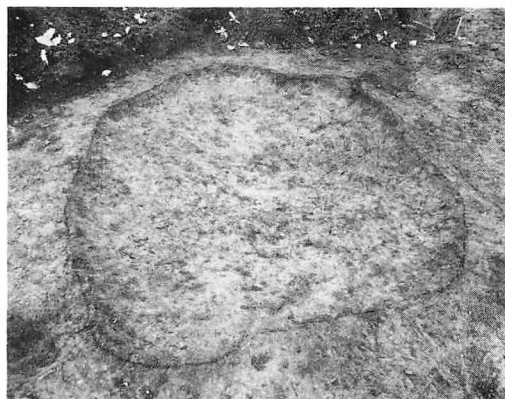
位 置 O-18-a, -b, -c, -d

形 状 平面形は不整形。確認面での大きさは2.44×2.10 m。底は中心部が低くたわみ、北東部に低い段をもつ。壁の立ちあがりは不明瞭で皿状を呈する。確認面からの深さは最大で24 cm。

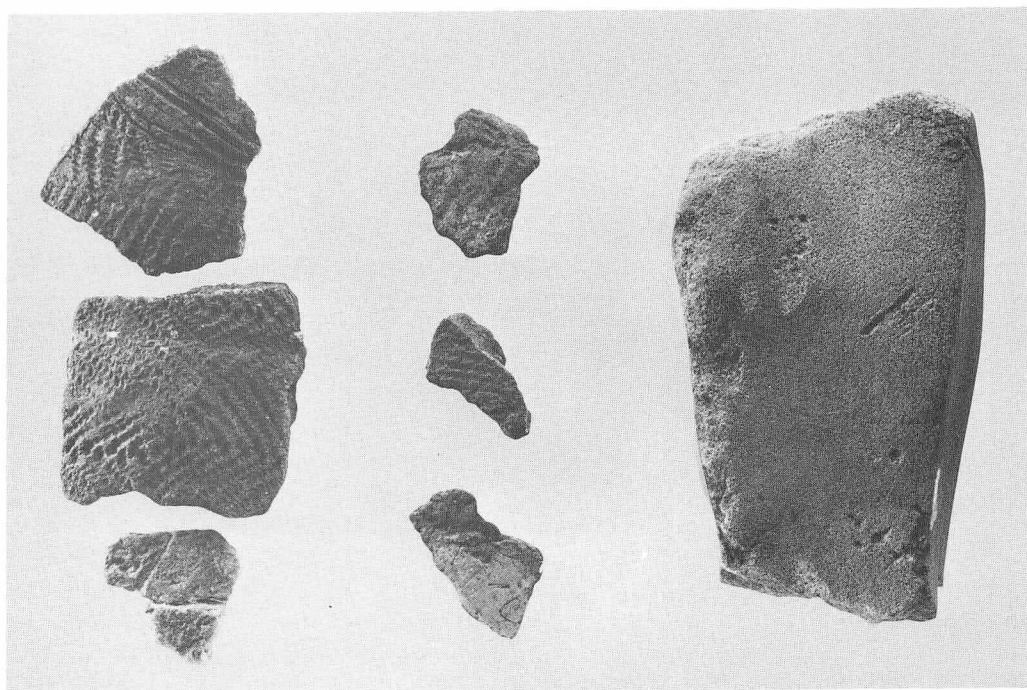
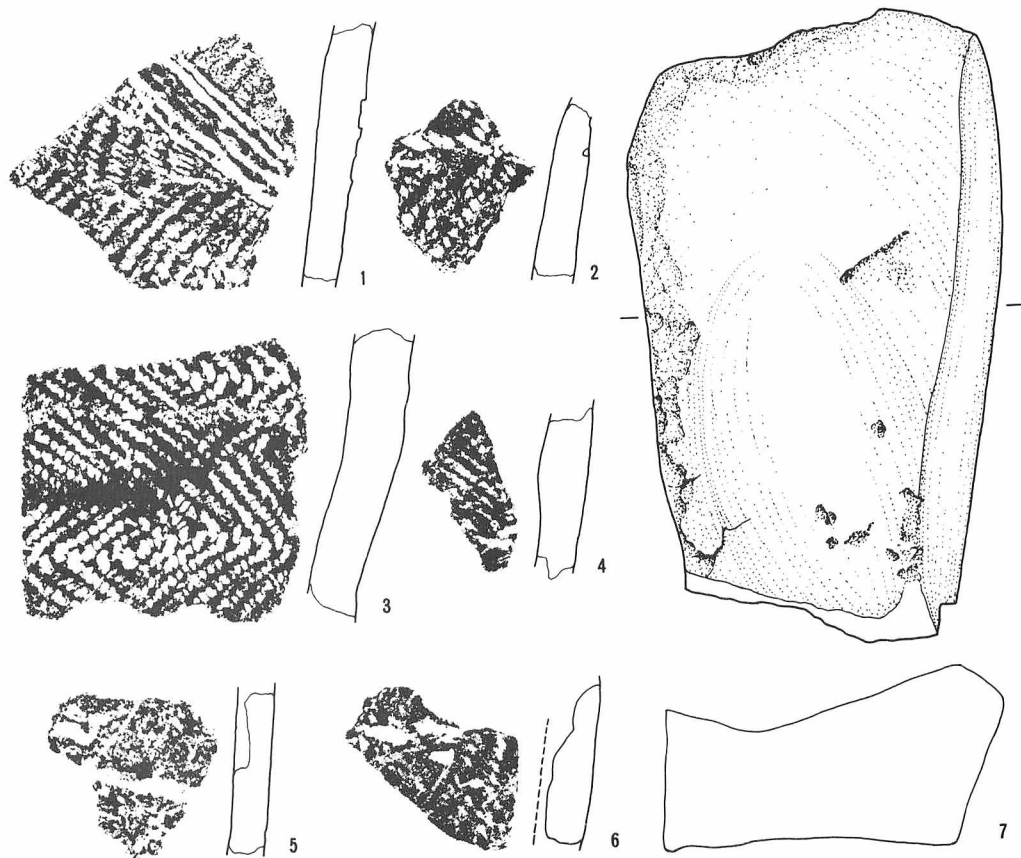
土 層 I：黒色土（粒状），II：黒色土，III：暗褐色土

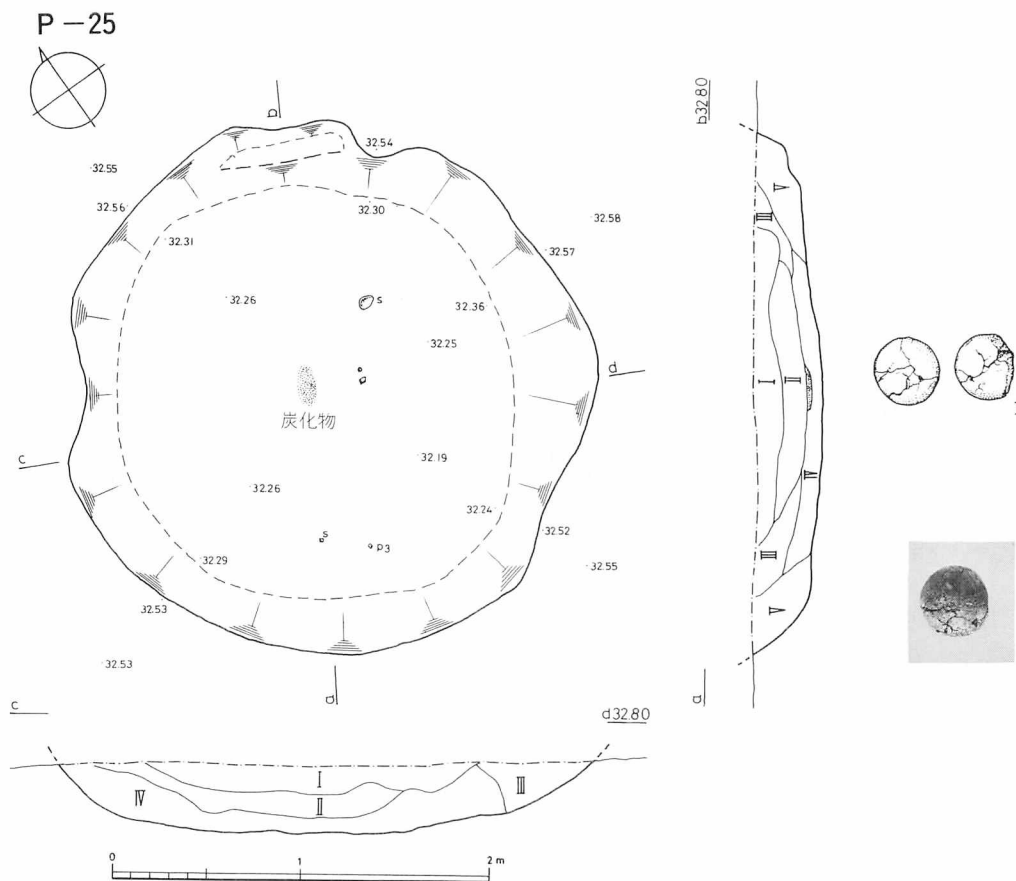
遺 物

N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	土 器	III b-1	覆土			
2・5	"	III b-2	"			
3・4	"	III b-3	"			
6	"	IV a	"			
7	砥 石	VII B 2	"	165×102×33	1,250	Sa.



時 期 不明





位 置 O-39-c

形 状 平面形は円形。確認面
での大きさは 2.82×2.72 m。

底面は皿状を呈し、壁の立
ちあがりも明瞭でない。確認
面からの深さは 37 cm。中央
部の覆土下部から炭化物がま
とまって検出された。

土 層 I・II：黒色土，
III：暗褐色土，IV：茶褐色土，
V：明褐色土

遺 物

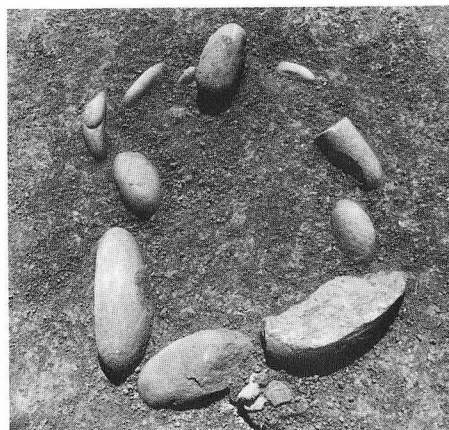
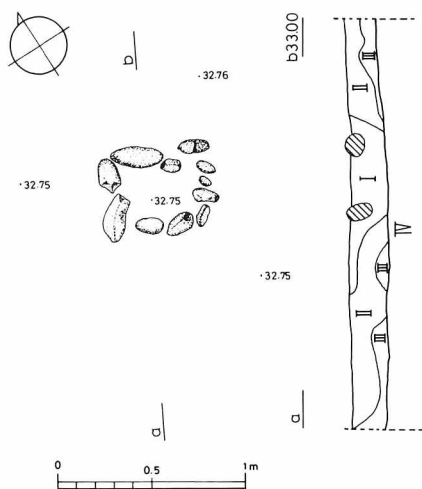
N0.	名 称	分 類	層位	大きさmm	重さg	材 質
1	玉		覆土	φ18	(3.7)	土 製

時 期 不明



5. 石囲い炉

S-1



位置 O-14-a

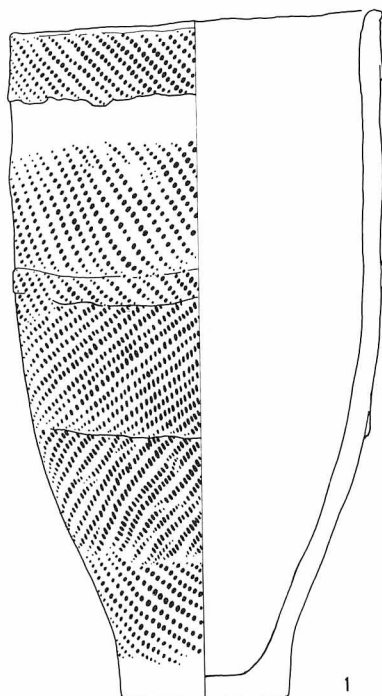
形状 平面形は、ほぼ方形。同一レベルで南西2mの位置に一括土器あり。

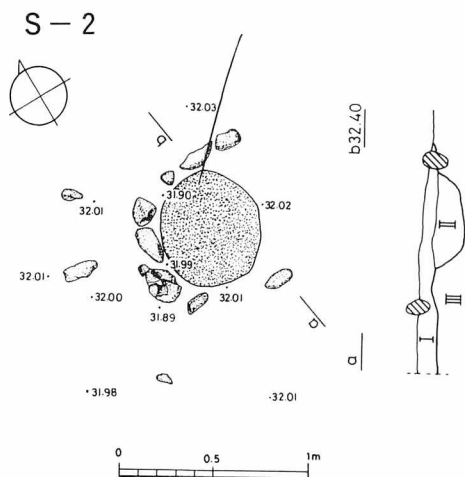
土層 I：暗褐色土（粒状），II：暗褐色 遺物

土，III：暗黄褐色土，IV：黄褐色土

時期 縄文時代後期，IV群a類土器の時期

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	IVa		φ198×342		





位置 O-12-b

形状 現存している部分は、コの字形。

深い所で厚さ 10 cm の焼土がある。石囲い
炉を中心に半径 3 m ほどの範囲に一括土
器、石器等が検出された。

土層 I：暗褐色土，II：黄褐色土

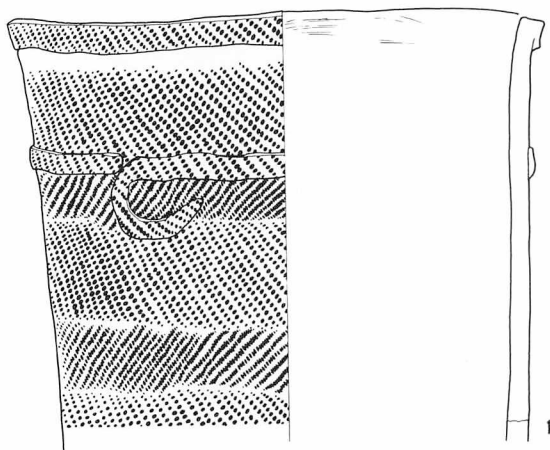
遺物

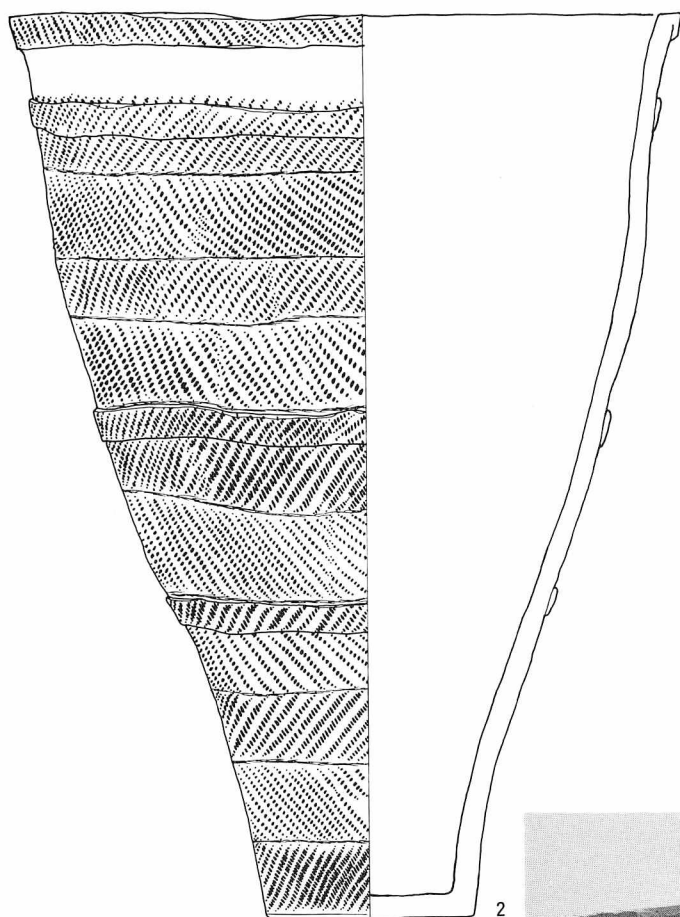
NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1	土器	IV a		φ 284×-		
2	"	"		φ 356×478		

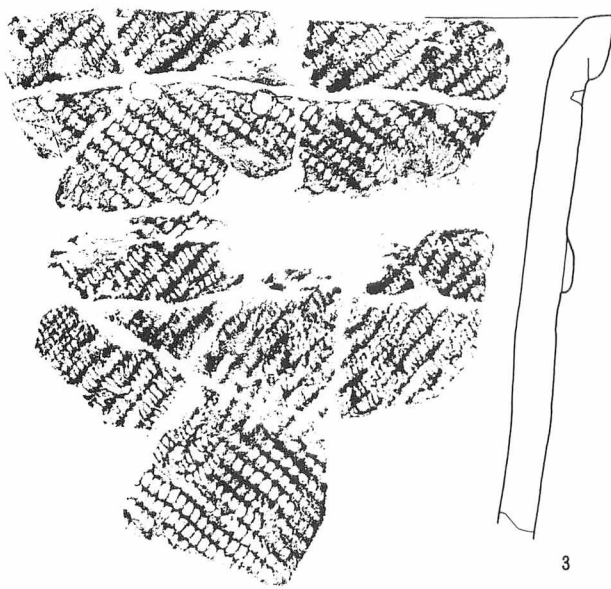
NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
3~6	土器	IV a				

時期 縄文時代後期，IV群 a 類土器の時期

備考 焼土中からイネ科と思われる植物の種子 3 個が検出された（注）。



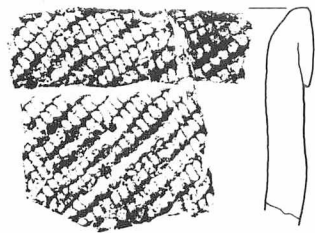




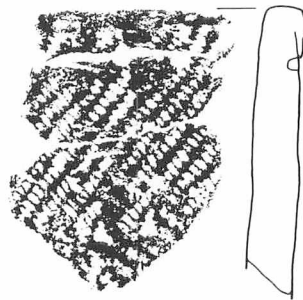
3



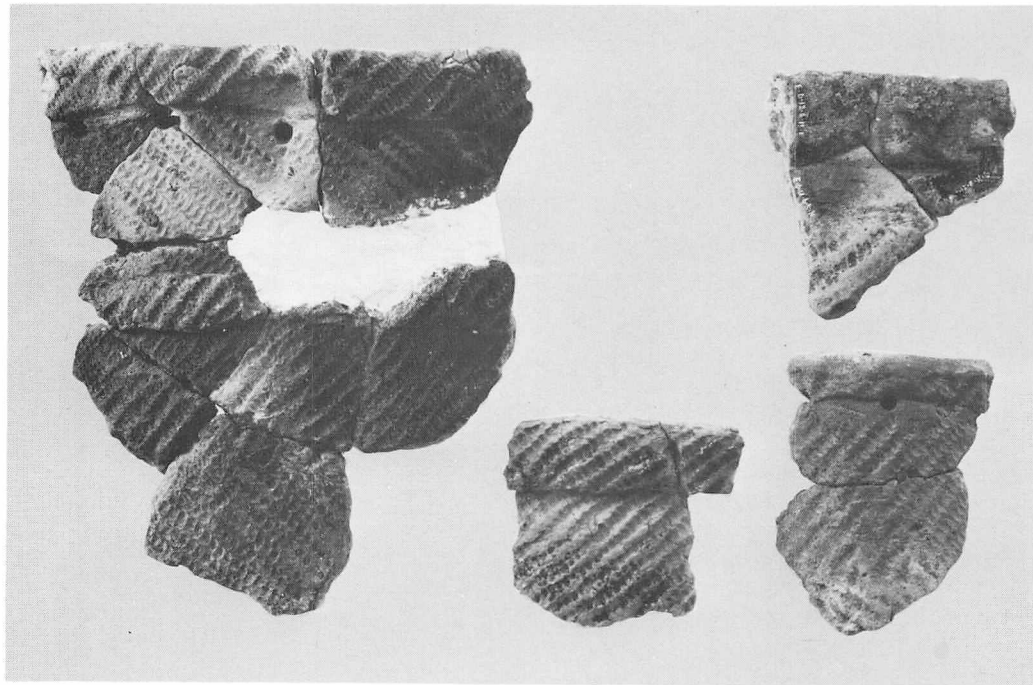
4



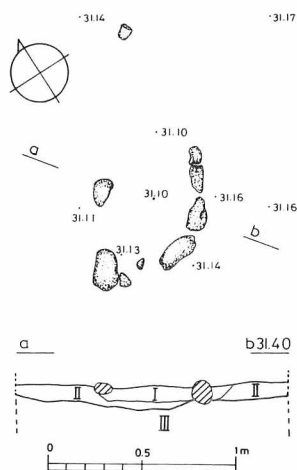
5



6



S-3



位置 N-9-b

形状 保存状態が悪く、礫の配置は不整形。石囲い中に焼土はないが、南東方向1.5 mに焼土(F-3)が発見されている。石囲いから、土器片、火を受けた剥片および石鏃片等が検出された。また周辺にも、土器片が散布している。

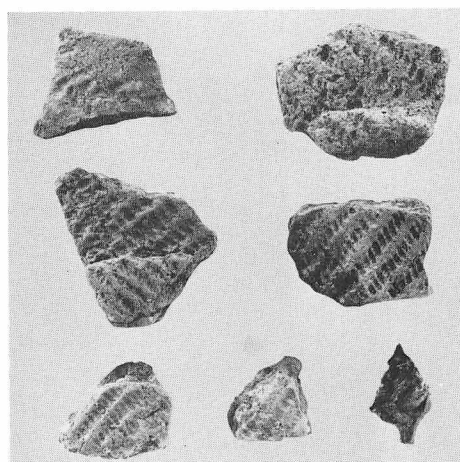
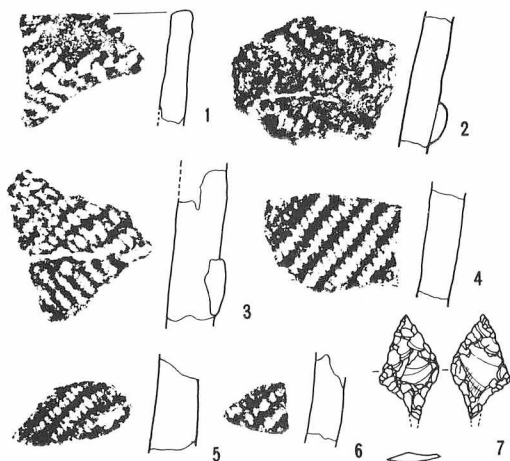
土層 I: 黒色土(粒状), II: 黒色土, III: 黄褐色土

遺物

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
1~6	土器	IV a				

NO.	名称	分類	層位	大きさmm	重さg	材質
7	石鏃	IA 4 a		20×17×3	(0.8)	Obs.

時期 縄文時代後期, IV群 a 類土器の時期

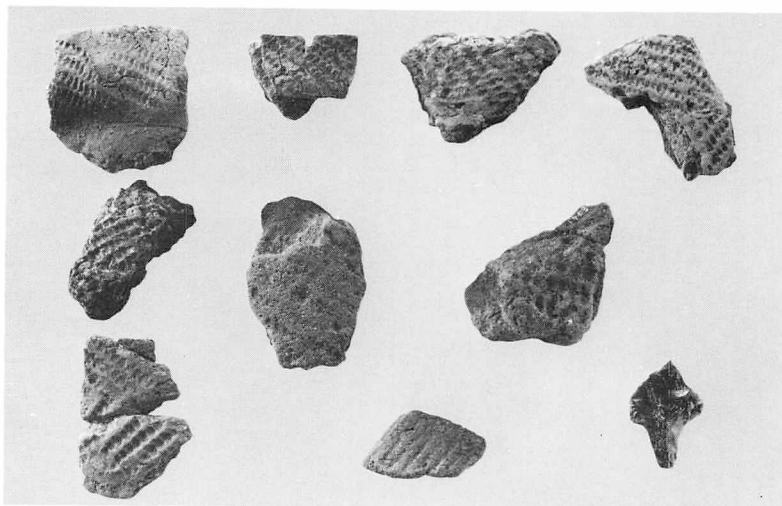
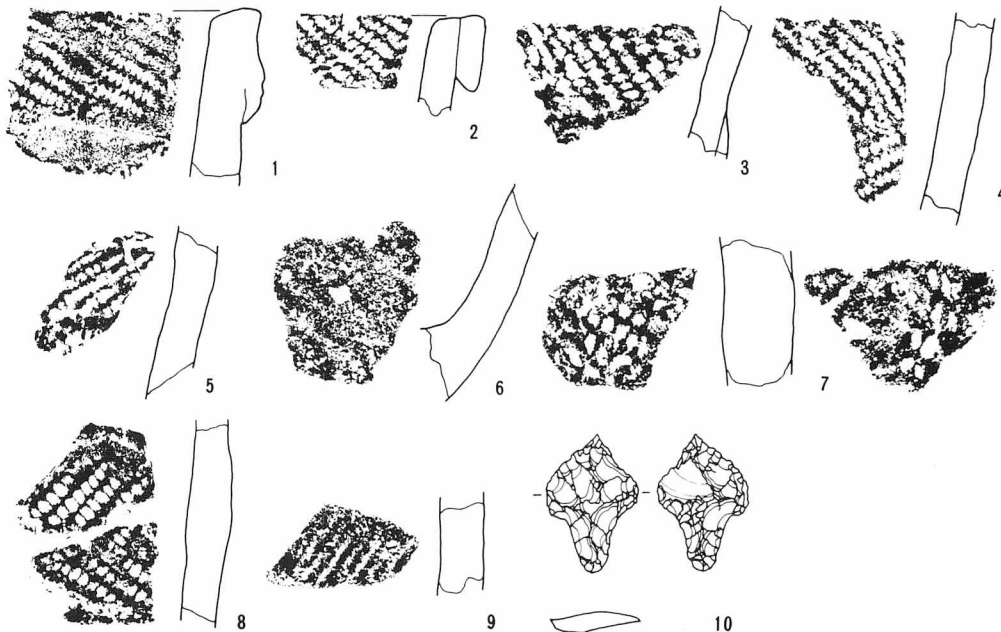


6. 焼土

第1地区に1、第2地区に3か所検出された。遺物を伴うものは、F-3とF-4で、いずれもIV群a類の土器の時期である。うちF-3は、S-3に近接している。F-1は、IV層上面が火を受けたもので上部が削平されているため性格は不明である。F-2からは、オニグルミの核の細片4個と、イネ科と思われる植物の種子5個が検出された（注）。

遺物

N0.	名 称	分 類	焼土名	大きさmm	重さg	材 質
7~9	土 器	IV a	F-4			
10	槍 先	IB Ia	"	36×25×6	3.1	Obs.



（注）北海道開拓記念館特別学芸員矢野牧夫氏による。

IV 包含層出土の遺物

包含層から出土した遺物には、土器、石器、土製品、石製品などがある。土器にはⅠ群a類からⅦ群のものまで認められるが、とりわけ、Ⅰ群b-1、b-4類、Ⅲ群a類、b-1～3類、Ⅳ群a類、Ⅴ群b類、Ⅵ群に属するものが多かった。

昨年度の調査結果もあわせて、Ⅰ群b-4類、Ⅲ群各類、Ⅳ群a類、Ⅴ群b類の分布傾向を遺構出土のものも含めて破片の点数で表示したのが図4-21～27である。Ⅰ群b-4類はP・Q-32・33付近に著しく集中し、O-23・24に若干まとまっている。Ⅴ群b類はⅠ-97～0付近に著しく集中し、L～P-12～23に比較的多く分布する傾向がある。Ⅲ群a・b各類及びⅣ群a類土器の分布については、著しい集中地区は見出されないが、それらの接近する時期の土器群の分布をより詳細に検討することから、土器の分類基準をみなおす手懸りが得られる可能性がある。同一時期の遺物が何か所かの地区に集中して出土することは経験的にも知られるし、このⅠ群b-4類やⅤ群b類の出土傾向からも明らかである。そこで、これらⅢ群a類からⅣ群a類までの分布を相互に比較してみると、Ⅲ群a類とⅢ群b-1類とはかなり重複する出土状況を示している。このことはⅢ群a類とⅢ群b-1類に分けた資料がかなりの部分で共伴する可能性を示唆するとともに、Ⅲ群a類のうちの相当の部分をⅢ群b-1類に含めるのが妥当であろうことを物語っているようである。便宜的ながら嵐山式相当の資料をⅢ群a類に含めていることに原因があるとみられ、将来検討を要することとなろう。Ⅲ群b-1類とb-2類との間、Ⅲ群b-2類とb-3類との間、Ⅲ群b-3類とⅣ群a類との間では、分布に微妙な変化がみられ、やや明瞭に出土傾向の違いがわかる。

これらの土器の分布と遺構との関係をみた場合、際立った一致を示すのはⅣ群a類の分布である。本類土器は住居跡、石囲い炉、あるいは焼土に伴うような状態でややまとまった資料が出土している。この出土傾向は周囲にあまり及ばず、個々独立した出土状態を示しているようで、今後の調査には注意を要することとなろう。

包含層出土の石器その他の遺物は、それぞれ各群の土器に伴うものと思われるが、伴出状況の確定できるものは少ない。石器の分類が形態分類によっているため、石器群と土器群の対比は困難なものが多いが、ⅠA2a、bの石鏃、ⅢA1aのつまみ付きナイフはⅠ群b類土器に、ⅥA3のすり石はⅠ群a類またはb類土器に、ⅠB1aの槍先の多くはⅢ群b類土器に、ⅧA2の石錘はⅠ群a類土器にそれぞれ伴うものとみられる。またⅥ群土器の分布は、第1地区にほぼ限られており、ⅠA3bの石鏃はこの群に伴うものであろう。

石器以外で注目されるものには、石斧原材料と焼成粘土塊とがある。石斧原材料は第2地区から一括して出土したもので、石質が滑石であることから、Ⅰ群b類土器の時期のものと思われる。同じく第2地区から焼成粘土塊がやや多く検出された。これには集中する出土地区と混和材からみてⅤ群b類土器に伴うとみなされるものがある。これらは土器製作の際の余剰粘土が偶然に焼けたものと思われる。

出土遺物一覧

土器 (第1地区)

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
土 器	I a	3	3
"	I b - 1	12	12
"	I b - 2	60	53
"	I b - 4	272	135
"	I b -	9	9
"	III a	140	127
"	III b - 1	362	318
"	III b - 2	86	64

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
土 器	III b - 3	6	5
"	IV a	90	56
"	IV b	1	1
"	V b	52	46
"	VI	1,214	927
"	不明	1,137	1,120
土 器 計		3,444	2,876

土器 (第2地区)

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
土 器	I a	3	3
"	I b - 1	180	179
"	I b - 2	77	70
"	I b - 3	17	17
"	I b - 4	353	271
"	I b -	132	128
"	II a - 1	2	
"	II a - 2	1	1
"	II b	16	16
"	III a	251	215
"	III b - 1	326	284

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
土 器	III b - 2	1,094	1,039
"	III b - 3	580	557
"	IV a	4,191	3,369
"	IV b	2	2
"	IV c	2	2
"	IV -	8	8
"	V b	4,947	4,869
"	VII	2	2
"	不 明	5,131	5,019
土 器 計		17,315	16,051

石器等 (第1地区)

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
石 鏃	IA 2 a	1	1
"	IA 2 b	1	1
"	IA 3 b	8	8
"	IA 3 -	1	
"	IA 4 a	7	7
"	IA 4 b	1	1
"	IA 5	1	1
"	IA 6	1	1
"	IA -	2	1
槍 先	IB 1 b	1	1
"	IB -	3	3
つまみ付きナイフ	III A 1 -	1	1
スクレイパー	III B 1 a	1	1
"	III B 1 b	1	1

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
スクレイパー	III B 3	2	1
"	III B 5	1	1
"	III B 6	2	2
"	III B 7	6	4
"	III B -	2	2
石 斧	IV A 2	4	4
石斧未製品等	IV A 6	4	4
石斧類破片	IV -	11	8
たたき石	VA 1	1	1
"	VA 2	1	1
"	VA 3	1	1
"	VA 4	1	1
くぼみ石	VB 1	1	1
ストーン・リタチャー	VB 2	1	1

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
台石類破片	V B 一	2	2
すり石	VI A 3	1	
石皿	VI B	2	2
砥石	VII B 2	2	2
"	VII B 一	7	1
石錘	VIII A 2	1	1
石核	IX	6	1

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
加・使剥片	X	50	38
礫		455	177
剥片		855	758
土製品		2	1
石製品		1	1
焼成粘土塊		1	1
石器等計		1,453	1,045

石器等（第2地区）

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
石 鏃	I A 2 a	9	9
"	I A 2 b	15	14
"	I A 2 一	8	8
"	I A 3 a	6	6
"	I A 3 b	4	4
"	I A 3 一	1	1
"	I A 4 a	70	67
"	I A 4 b	22	22
"	I A 4 一	3	3
"	I A 5	1	
"	I A 6	5	4
"	I A 一	49	46
槍 先	I B 1 a	21	19
"	I B 1 b	1	1
"	I B 1 一	2	2
"	I B 2 a	1	1
"	I B 3	1	1
"	I B 4	1	1
"	I B 一	26	25
刺 突 器	II A 2	1	1
"	II A 一	1	1
ドリル	II B 1	3	3
"	II B 2	1	1
つまみ付きナイフ	III A 1 a	21	17
"	III A 1 b	5	5
"	III A 1 c	4	4
"	III A 1 d	2	2
"	III A 一	5	4
スクレイパー	III B 1 a	2	
"	III B 1 b	1	1
"	III B 2 a	6	6
"	III B 2 b	2	2

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
スクレイパー	III B 2 一	2	2
"	III B 3	14	14
"	III B 4	9	7
"	III B 5	11	10
"	III B 6	8	7
"	III B 7	40	34
"	III B 一	15	15
石 斧	IV A 1	8	8
"	IV A 2	33	33
"	IV A 3	2	2
石斧未製品等	IV A 6	5	5
石 の み	IV B	6	6
石斧類破片	IV 一	215	197
たたき石	V A 1	15	15
"	V A 2	8	6
"	V A 3	8	7
"	V A 4	3	2
"	V A 一	19	17
くぼみ石	V B 1	2	1
台 石	V B 3	11	11
台石類破片	V B 一	18	17
すり石	VI A 1	3	3
"	VI A 3	12	12
"	VI A 4	1	1
"	VI A 5	1	
"	VI A 一	11	10
石 皿	VI B	10	7
石 鋸	VII A	4	4
砥 石	VII B 2	26	23
"	VII B 一	64	62
石 錘	VIII A 2	6	6
"	VIII A 一	4	4

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
石 核	IX	53	53
加・使剥片	X	338	327
礫		2,130	1,918
剥 片		6,913	6,657

名 称	分 類	数 量	
		総 数	包含層出土数
土 製 品		4	3
石 製 品		3	3
焼成粘土塊		68	68
石器等計		10,403	9,858

1. 土器 (図4-1~10)

(1) 第1地区 (図4-1・2)

第1地区出土の土器には、I群a類からVI群に及ぶものがあるが、I群b-3類、II群、IV群c類、V群a類、同c類は出土していない。また、III群b-3類、IV群b類、V群b類も少量のため図示記載を省く。

I群a類(1・2)：1には外面縦位、内面横位の条痕が認められる。2は内面のみ。

I群b-1類(3)：口唇が若干肥厚し、上面に撚紐の圧痕が認められる。器面の縄文は浅くb-2類の可能性もあるが、便宜的にここに含めておく。

I群b-2類(4~7)：4・5の器面には絡条体圧痕文と短縄文とが施されている。6には結束のある羽状縄文が施されているようにみえる。7には短縄文が認められる。

I群b-4類(8~10)：8・9には器面の撚糸文の原体とみられるものが押捺されている。

III群a類(11~15)：口唇上や貼付帯上に刻み目をつけたもので、器面に複節の縄文が施されたもの(12~13)もある。出土状況からみてIII群b-1類とに差がなく、施文にも共通するところが多い。本来III群b-1類に含められるものとみられるが、便宜的に区分しておく。

III群b-1類(16)：複節斜行縄文の施された器面に貼付帯があり、その上に半截竹管状工具による押し引き文が加えられたもの。

IV群a類(17)：口縁部の貼付帯上に縄文を施した後、縄線文をその上と貼付帯下の無文地の器面に付けたもの。

VI群(18~33)：18~32は続縄文時代初期のもので、口縁部に細い縄線文を施すもの(19)や口唇直下や頸部、底部近辺に爪形もしくは三角形の刺突を加えるもの(18・20・21・29・30)がある。器面の縄文には斜行、横走、縦行気味のものがみられ、この時期に特有の带状縄文の施されたもの(25)もある。33は続縄文時代中葉のもので、口唇の角に刻み目があり、带状縄文を沈線で区画した文様が認められる。

(2) 第2地区 (図4-3~10)

第2地区の土器にはI群a類からVII群に及ぶ各種のものがあるが、II群a-1類、V群a・c類、VI群は出土していない。また、I群a類、II群b類、IV群b・c類、VII群には良好な資料がなく、図示記載を省略した。

I群b-1類(34~42)：口縁部や体部、底部に短縄文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、短い貼

付文が施される。37 では内面にも縄文が施されている。

I 群 b - 2 類 (43) : 斜行縄文を区画するように刺突文を施したもの。

I 群 b - 3 類 (44) : 器面に微隆起線を付け、その間に短縄文を施したもの。

I 群 b - 4 類 (45~51) : 体部に羽状を構成する撚糸文が施され、口縁に沿って撚糸文の原体の圧痕や縄線文 (46) が施される。

II 群 a - 2 類 (52) : 器面に斜行縄文、内面に貝殻による条痕を付したもの。

III 群 a 類 (53~55) : 口唇上および貼付帯上に刻み目あるいは刺突文の加えられたもの。

III 群 b - 1 類 (56) : 半截竹管状工具により、弧を連ねた特色ある刺突文が施されたもの。

III 群 b - 2 類 (57~78) : 口唇、口縁部の器面および貼付帯上に、刺突文、縄線文、沈線文などを施したものがある。口唇上に刻み目を付けるもの (62) や口唇と貼付帯上に爪による刻み目を施すもの (63) も認められる。体部には付加条 (76) や異条 (78) の原体による縄文や撚糸文 (62) の施されたものもある。

III 群 b - 3 類 (79~90) : 口縁部に肥厚帯を設け、その下縁に刺突を加え内面に突瘤を形成するのが一般的である。ここでは顕著な肥厚帯を形成しないもの (79・80・86) が認められる。口唇上および口唇直下には斜方向からの刺突あるいは刻み目を施すものが多い。肥厚帯上に弧状の刻み目を施したもの (87・88) もある。

IV 群 a 類 (91~119) : 口縁部に貼付帯のある余市式とそれに関連する縄文の施された土器 (91~95・106~112・114・115)、無文の比較的厚手のもの (97・113)、入江式に相当するもの (116~119) およびその他の縄線文、沈線文、綾絡文、刺突文などの施されたものが含まれる。98・99 は内外面に縄文の施されているもので、99 の口唇上には指頭による圧痕がある。

V 群 b 類 (120~153) : 120~122 は大洞系の土器とみなされる。123 は大洞風の文様を施し、下縁に爪形文を付したもの。124~153 は在地系の土器とみられ、縄線文、沈線文による文様が施される。口唇上および口縁の突起部内面に縄線文を施したものがある。

掲載土器一覧 第1地区 (1~33) 第2地区 (34~153)

番 号	発 掘 区	分 類	番 号	発 掘 区	分 類
1	Q-39-c	I a	13	Q-35-d	III a
2	P-42-c	"	14	Q-39-b	"
3	P-39-d	I b-1	15	P-36-b	"
4	O-42-b	I b-2	16	O-39-b	III b-1
5	P-40-a	"	17	Q-36-b	IV a
6	Q-35-c	"	18	Q-38-d	VI
7	P-43-a	"	19	Q-37-d	"
8	P-46-d	I b-4	20	Q-39-d	"
9	P-46-c	"	21	P-38-a	"
10	P-43-a	"	22	Q-39-c	"
11	O-39-b	III a	23	Q-39-c	"
12	P-46-d	"	24	Q-37-c	"

番 号	発 掘 区	分 類
25	P-37-c	VI
26	Q-37-b	"
27	Q-41-d	"
28	Q-37-d	"
29	Q-38-c	"
30	Q-37-c	"
31	Q-41-d	"
32	Q-40-c	"
33	Q-44-c	"
34	O-17-a	I b-1
35	O-15-b	"
36	O-14-d	"
37	O-13-c	"
38	O-17-a	"
39	O-13-c	"
40	J-0-c	"
41	J-0-c	"
42	O-13-b	"
43	K-10-a	I b-2
44	I-97-a	I b-3
45	O-17-b	I b-4
46	O-16-d	"
47	O-17-a	"
48	K-2-a	"
49	O-17-c	"
50	J-2-a	"
51	O-17-c	"
52	M-18-d	II a-2
53	O-18-d	III a
54	O-13-b	"
55	O-11-b	"
56	N-8-c	III b-1
57	M-18-c	III b-2
58	L-6-b	"
59	M-9-a	"
60	K-0-a	"
61	P-12-a	"
62	M-8-c	"
63	I-96-d	"

番 号	発 掘 区	分 類
64	N-19-c	III b-2
65	O-13-b	"
66	M-8-c	"
67	O-8-a	"
68	O-14-a	"
69	N-19-b	"
70	K-0-a	"
71	O-11-c	"
72	O-13-b	"
73	N-8-d	"
74	N-8-c	"
75	L-6-b	"
76	O-11-b	"
77	P-12-a	"
78	O-12-c	"
79	O-16-d	III b-3
80	L-7-a	"
81	O-11-c	"
82	O-8-a	"
83	N-18-b	"
84	P-12-a	"
85	P-12-a	"
86	P-13-d	"
87	N-9-b	"
88	P-13-a	"
89	O-11-b	"
90	O-11-b	"
91	O-11-b	IV a
92	O-13-b	"
93	O-8-a	"
94	O-11-c	"
95	O-14-b	"
96	O-12-c	"
97	O-12-a	"
98	O-12-a	"
99	I-97-a	"
100	I-98-b	"
101	N-18-d	"
102	N-18-d	"

番 号	発 掘 区	分 類	番 号	発 掘 区	分 類
103	O-13-d	IV a	129	P-13-a	V b
104	N-19-a	"	130	K-2-d	"
105	O-12-a	"	131	P-14-d	"
106	I-99-d	"	132	I-97-a	"
107	I-96-d	"	133	I-97-a	"
108	J-3-a	"	134	J-1-c	"
109	I-97-d	"	135	I-97-a	"
110	I-98-a	"	136	J-1-c	"
111	O-8-b	"	137	I-97-a	"
112	L-5-d	"	138	O-13-b	"
113	N-7-d	"	139	O-14-b	"
114	K-1-d	"	140	O-14-a	"
115	O-12-b	"	141	O-13-b	"
116	O-12-c	"	142	P-14-d	"
117	M-7-a	"	143	O-14-a	"
118	O-12-c	"	144	I-0-b	"
119	O-12-c	"	145	I-97-a	"
120	O-13-b	V b	146	O-13-b	"
121	O-10-c	"	147	O-13-b	"
122	O-10-c	"	148	J-1-c	"
123	K-4-d	"	149	P-14-d	"
124	O-14-a	"	150	O-13-b	"
125	J-1-c	"	151	J-1-c	"
126	J-2-c	"	152	N-13-b	"
127	O-14-d	"	153	I-98-c	"
128	I-0-d	"			

2. 石器等 (図4-11~20)

掲載石器等一覧

第1地区 (1~28) 第2地区 (29~155)

番号	名 称	分類	発掘区	大きさ(mm)	重さ(g)	石 質
1	石 鏃	IA 2 a	Q-38-c	(27) × 10 × 4	(0.9)	Obs.
2	"	IA 2 b	O-45-d	(20) × 7 × 2	(0.2)	"
3	"	IA 3 b	Q-37-d	20 × 11 × 3	0.4	"
4	"	"	Q-41-b	22 × 11 × 3	0.5	"
5	"	"	Q-38-b	22 × 13 × 3	0.7	"
6	"	"	M-42-b	22 × 13 × 2	0.6	"
7	"	"	Q-40-a	20 × 12 × 2	0.5	"
8	"	"	Q-37-d	20 × 12 × 3	0.6	"
9	"	IA 4 a	Q-42-c	(22) × 10 × 3	(0.4)	"

番号	名 称	分類	発掘区	大きさ(mm)	重さ(g)	石 質
10	石 鏃	I A 4 a	R-36-a	(21) × 8 × 3	(0.4)	Obs.
11	"	"	Q-38-c	(20) × 14 × 2	(0.6)	"
12	"	"	Q-37-d	(20) × 12 × 4	(0.7)	"
13	"	"	Q-36-d	(17) × 11 × 2	(0.3)	"
14	"	"	Q-38-c	21 × 14 × 5	0.9	"
15	"	"	Q-38-d	27 × 13 × 4	1.2	"
16	"	I A 5	Q-35-c	(21) × 9 × 4	(0.7)	"
17	"	I A 6	Q-41-c	26 × 11 × 3	0.9	"
18	槍 先	I B 1 b	R-36-a	48 × 19 × 9	5.3	"
19	つまみ付きナイフ	III A 1 -	Q-41-d	37 × 14 × 7	2.8	"
20	スクレイパー	III B 7	Q-46-d	28 × 24 × 7	4.7	"
21	石 製 品		P-36-a	46 × 14 × 4	3.6	Mud.
22	土 製 品		Q-38-a		1.0	
23	た た き 石	V A 4	P-44-b	61 × 59 × 47	260	And.
24	石 斧	IV A 2	Q-39-c	(78) × 45 × 11	(71.1)	Mud.
25	"	"	Q-38-c	(62) × (40) × (14)	(58.6)	"
26	ストーン・リタチャー	V B 2	M-40-b	75 × 34 × 12	54.5	Gr-Mud.
27	砥 石	VII B 2	Q-38-d	55 × 28 × 18	50.5	Sa.
28	石 錘	VIII A 2	Q-37-d	70 × 60 × 12	96.2	And.
29	石 鏃	I A 2 a	L-8-b	24 × 11 × 3	0.8	Obs.
30	"	I A 2 b	I-3-d	15 × 8 × 2	0.2	"
31	"	"	N-18-d	15 × 7 × 2	0.1	"
32	"	"	K-0-d	17 × 7 × 2	0.1	"
33	"	"	K-4-d	13 × 5 × 2	0.1	"
34	"	"	I-96-a	30 × 12 × 3	1.2	"
35	"	I A 3 a	M-7-a	22 × 15 × 2	0.6	"
36	"	I A 3 b	O-19-a	17 × 12 × 3	0.4	"
37	"	"	L-5-a	30 × 15 × 3	0.8	"
38	"	I A 4 a	O-14-d	28 × 15 × 4	1.3	"
39	"	"	O-11-d	27 × 14 × 4	0.9	"
40	"	"	J-1-b	(29) × 15 × 5	(1.3)	"
41	"	"	I-98-c	33 × 18 × 5	1.8	"
42	"	"	N-9-b	(26) × 16 × 4	(1.0)	"
43	"	"	O-10-d	29 × 14 × 5	1.4	Sh.
44	"	"	N-11-b	32 × 14 × 4	1.4	Obs.
45	"	"	M-19-b	27 × 12 × 3	0.8	"
46	"	"	M-18-d	15 × 9 × 3	0.1	"
47	"	"	J-10-a	28 × 15 × 2	0.8	"
48	"	"	O-13-a	22 × 13 × 3	0.7	"
49	"	"	O-14-a	19 × 11 × 3	0.4	"

番号	名 称	分類	発掘区	大きさ(mm)	重さ(g)	石 質
50	石 鏃	I A 4 a	I-1-b	22 × 12 × 3	0.6	Obs.
51	"	"	N-9-b	35 × 11 × 5	1.1	"
52	"	"	P-13-d	(37) × 21 × 6	(3.0)	"
53	"	"	J-1-b	35 × 17 × 4	1.5	"
54	"	"	K-5-c	34 × 13 × 4	1.5	"
55	"	I A 4 b	O-14-b	38 × 14 × 4	1.7	"
56	"	"	N-19-c	34 × 13 × 6	2.0	"
57	"	"	O-15-b	33 × 15 × 5	1.9	"
58	"	"	N-18-b	34 × 11 × 4	1.2	"
59	"	"	J-3-d	29 × 10 × 4	0.9	"
60	"	"	L-7-c	27 × 8 × 4	0.7	"
61	"	"	N-7-c	23 × 9 × 4	0.5	"
62	"	"	I-99-c	20 × 8 × 3	0.4	"
63	"	"	O-14-d	23 × 8 × 3	0.4	"
64	"	"	O-11-c	(21) × 9 × 3	(0.4)	"
65	"	"	N-7-d	26 × 15 × 3	0.9	"
66	"	"	O-14-d	19 × 11 × 3	0.5	"
67	"	"	I-98-c	22 × 12 × 3	0.4	"
68	"	"	O-13-a	18 × 10 × 2	0.2	"
69	"	I A 6	O-19-a	24 × 10 × 2	0.7	"
70	"	"	K-8-a	31 × 12 × 3	1.1	"
71	槍 先	I B 1 a	O-11-d	72 × 24 × 7	8.7	"
72	"	"	M-18-d	72 × 26 × 11	15.3	"
73	"	"	M-18-c	62 × 28 × 8	8.8	"
74	"	"	N-9-b	58 × 24 × 7	7.5	"
75	"	"	O-8-a	55 × 36 × 7	7.4	"
76	"	"	N-9-c	41 × 20 × 9	4.9	"
77	"	"	N-18-b	53 × 20 × 8	6.2	"
78	"	"	O-11-a	47 × 17 × 8	4.9	"
79	"	"	O-9-d	72 × 28 × 12	17.3	"
80	"	"	O-13-a	77 × 29 × 8	12.6	"
81	"	I B 3	J-0-a	71 × 32 × 7	14.6	"
82	"	I B 4	O-12-a	60 × 22 × 6	6.5	"
83	ドリル	II B 1	L-7-d	22 × 6 × 3	0.3	"
84	"	"	O-8-a	28 × 6 × 5	0.8	"
85	"	"	P-13-a	22 × 7 × 3	0.5	"
86	つまみ付きナイフ	III A 1 a	O-17-c	36 × 22 × 5	4.2	Sh.
87	"	"	I-98-c	(56) × 22 × 7	(7.4)	"
88	"	"	K-2-a	61 × 20 × 7	10.7	Ha-Sh.
89	"	"	N-19-a	55 × 21 × 6	6.9	"

番号	名 称	分類	発掘区	大きさ(mm)	重さ(g)	石 質
90	つまみ付きナイフ	III A 1 a	I - 0 - b I - 97 - d	124 × 38 × 7	37.0	Sh.
91	"	"	J - 2 - a	37 × 20 × 6	4.9	Ha-Sh.
92	"	"	N - 19 - b	34 × 20 × 6	4.1	Sh.
93	"	"	J - 1 - b	41 × 20 × 6	4.9	"
94	"	"	N - 18 - a	48 × 17 × 5	5.8	Ha-Sh.
95	"	"	N - 18 - a	48 × 18 × 6	5.5	Che.
96	"	III A 1 c	M - 19 - b	37 × 16 × 5	3.2	Sh.
97	"	"	O - 13 - a	46 × 20 × 5	4.3	Che.
98	スクレイパー	III B 2 b	O - 12 - d	55 × 23 × 9	12.5	Sh.
99	"	III B 2 a	O - 10 - d	66 × 38 × 18	45.5	"
100	"	III B 3	O - 14 - d	56 × 46 × 18	9.2	Obs.
101	"	"	K - 2 - a	36 × 35 × 9	10.2	"
102	"	"	J - 2 - b	28 × 27 × 12	8.8	"
103	"	"	K - 5 - d	27 × 26 × 11	5.2	"
104	"	III B 4	P - 15 - d	78 × 23 × 7	11.5	"
105	"	"	K - 4 - c	80 × 20 × 8	14.0	Sh.
106	"	"	N - 8 - c	64 × 27 × 16	21.3	Obs.
107	"	"	L - 10 - a	(62) × 34 × 8	(13.3)	"
108	"	III b 5	N - 12 - c	47 × 23 × 11	11.2	"
109	"	"	K - 4 - d	29 × 28 × 10	7.8	"
110	"	III B 6	I - 4 - b	25 × 13 × 4	0.9	"
111	"	"	P - 13 - a	27 × 14 × 4	0.8	"
112	"	III B 7	O - 13 - c	64 × 30 × 8	12.7	"
113	"	"	K - 5 - d	50 × 17 × 5	3.7	"
114	"	"	L - 5 - a	38 × 23 × 8	5.9	"
115	"	"	J - 5 - a	33 × 22 × 8	4.6	"
116	石 斧	IVA 2	O - 14 - c	99 × 41 × 16	110	Sch.
117	"	"	N - 9 - b	(80) × 46 × 20	125	"
118	"	"	O - 10 - c	(72) × 42 × 11	(47.9)	Sh.
119	"	"	O - 8 - d	121 × 29 × 15	87.1	Mud.
120	"	"	J - 1 - a	115 × 35 × 14	87.2	Gr-Sch.
121	"	"	L - 9 - b	(93) × 49 × 12	(100)	Mud.
122	"	"	N - 9 - a	(63) × 48 × 15	(75)	Gr-Sch.
123	"	"	M - 7 - b	(71) × 31 × 8	(30.5)	Gr-Mud.
124	"	"	N - 8 - a	87 × 34 × 15	72.9	"
125	"	"	O - 10 - a	71 × 26 × 9	22.2	Gr-Sch.
126	石 の み	IV B	O - 11 - a	55 × 18 × 5	5.8	"
127	"	"	M - 9 - a	(70) × 24 × 15	(41.6)	Gr-Mud.
128	すり切り残片	IVA 6	I - 4 - a	105 × 36 × 20	90	Ser.
129	たたき石	VA 2	O - 14 - c	98 × 63 × 31	260	And.

番号	名 称	分類	発掘区	大 き さmm	重さ(g)	石 質
130	た た き 石	V A 1	L - 9 - d	128 × 62 × 30	350	And.
131	く ぼ み 石	V B 1	J - 3 - a	117 × 91 × 37	585	"
132	す り 石	VIA 3	O - 18 - d	53 × 120 × 39	385	Sa.
133	"	"	L - 8 - b	103 × 156 × 56	1070	"
134	"	VIA 4	J - 1 - b	64 × 191 × 53	995	And.
135	石 鋸	VII A	O - 17 - d	42 × (34) × 11	(21.6)	Sa.
136	砥 石	VII B 2	I - 2 - a	76 × 58 × 46	160	"
137	"	"	O - 10 - a	64 × 61 × 10	46.3	"
138	"	"	O - 13 - d	86 × 98 × 15	27.7	"
139	"	"	N - 8 - c	285 × 185 × 58	3kg	"
140	石 錘	VIII A 2	J - 2 - b	76 × 74 × 17	145	And.
141	"	"	O - 12 - c	76 × 63 × 22	155	"
142	"	"	O - 17 - d	70 × 60 × 17	100	"
143	"	"	K - 7 - c	63 × 50 × 16	83	"
144	"	"	N - 19 - b	64 × 57 × 19	117	"
145	"	"	I - 98 - b	59 × 59 × 17	75	"
146	石 核	IX	O - 14 - d	40 × 25 × 68	23.7	Obs.
147	"	"	N - 7 - d	35 × 47 × 11	22.7	"
148	"	"	O - 18 - a	36 × 27 × 22	25.2	Che.
149	石 製 品		O - 10 - a	16 × 12 × 11	3.8	Ta.
150	"		N - 18 - a	22 × 17 × 4	2.2	Jad.
151	"		M - 18 - c	38 × 19 × 20	20.9	Mud.
152	土 製 品		I - 99 - c	11 × 24 × 8	2.4	
153	"		I - 0 - b	22 × 58 × 11	7.3	
154	焼 成 粘 土 塊		I - 98 - b	22 × 36 × 18	7.0	
155	土 製 品		J - 4 - a	28 × 20 × 11	6.7	

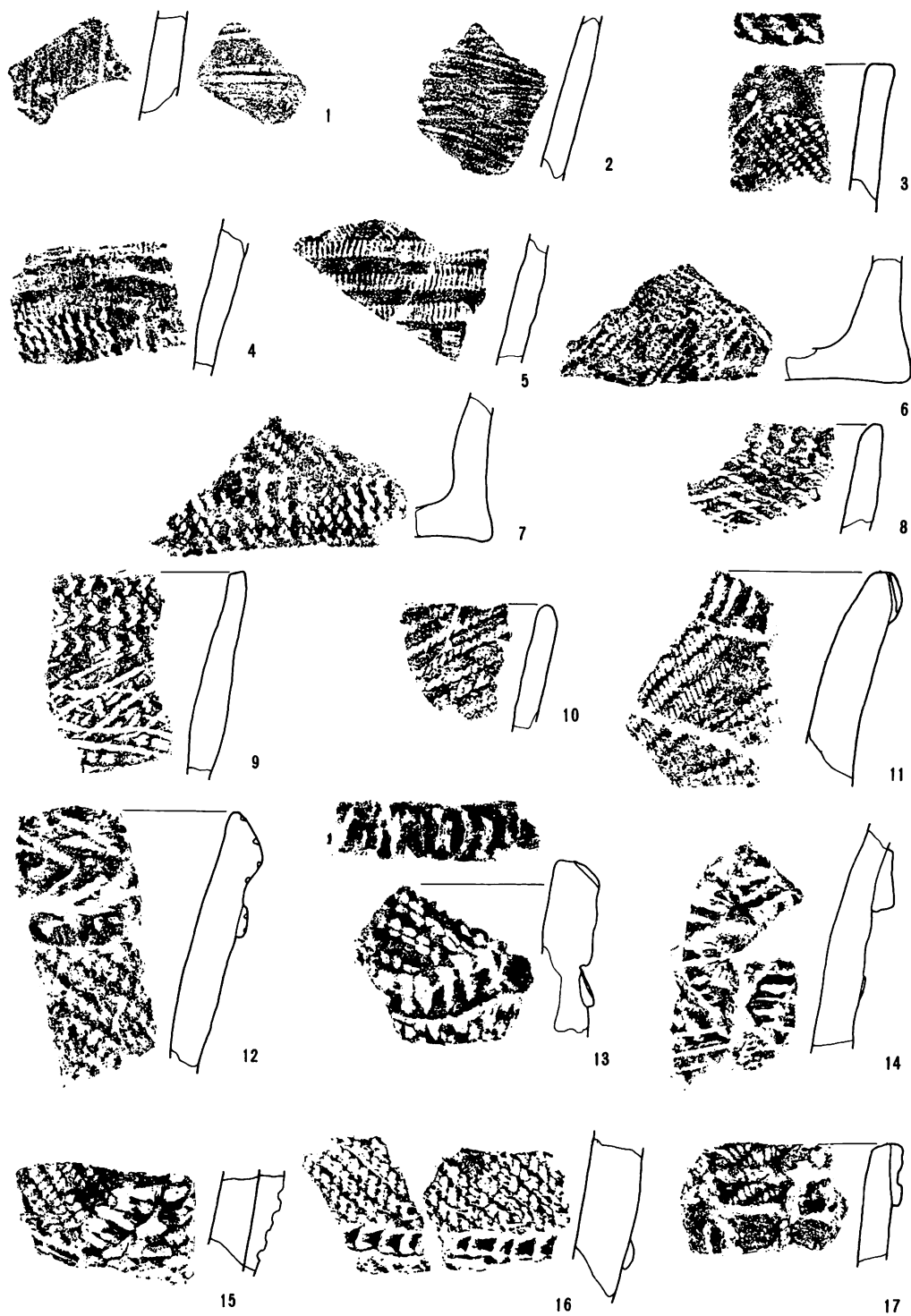
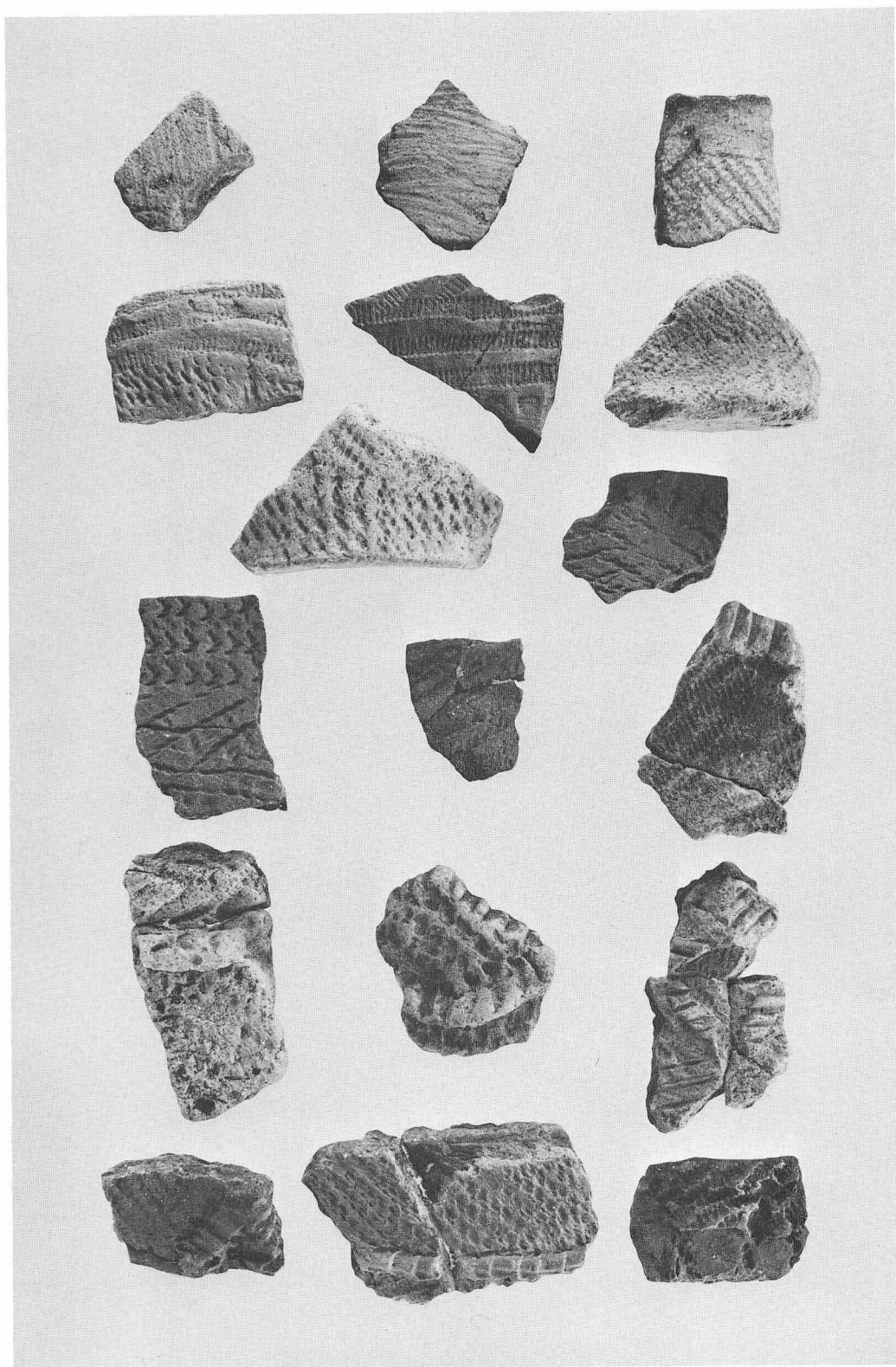


図4-1 包含層出土の土器(1)



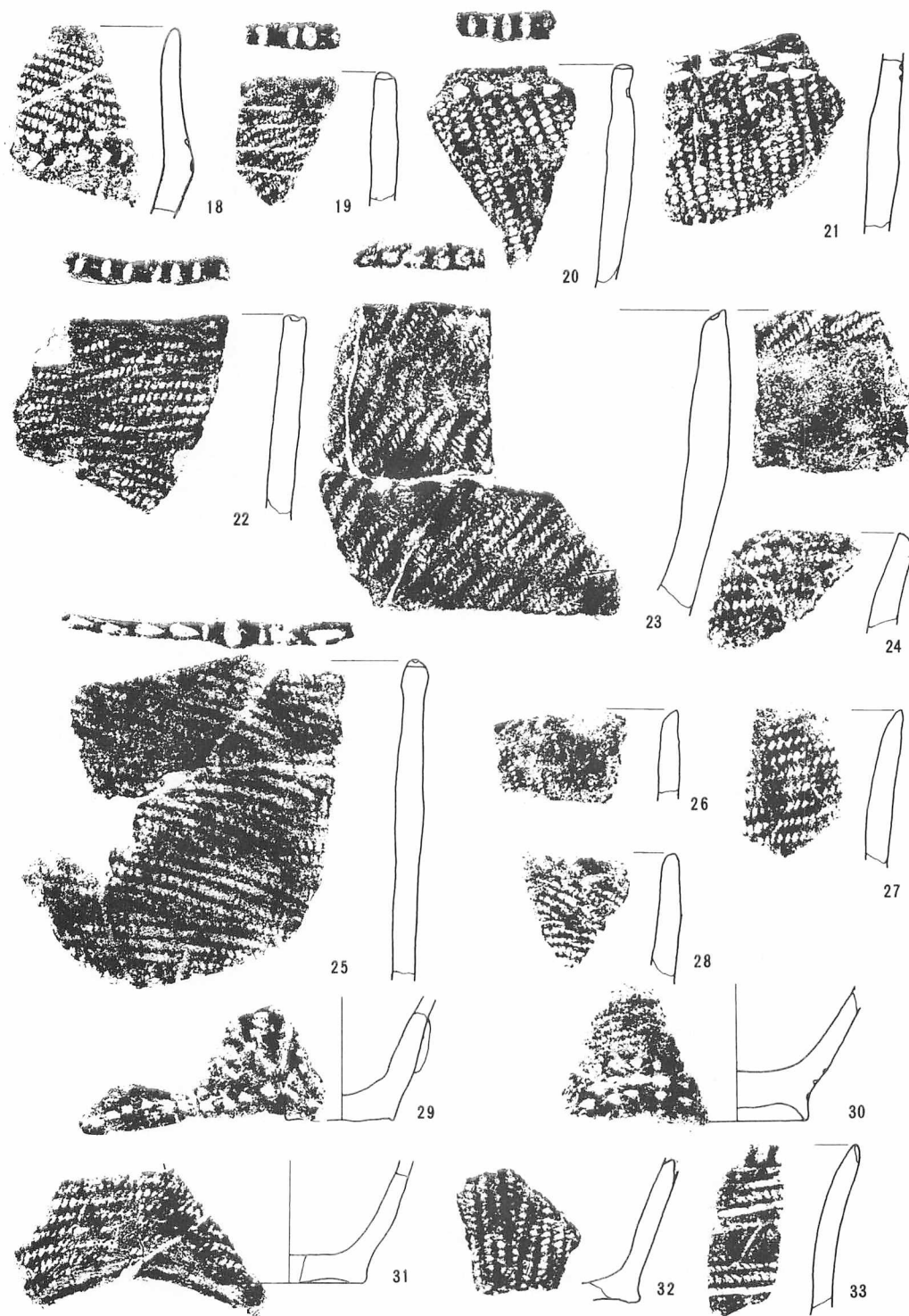


図4-2 包含層出土の土器(2)

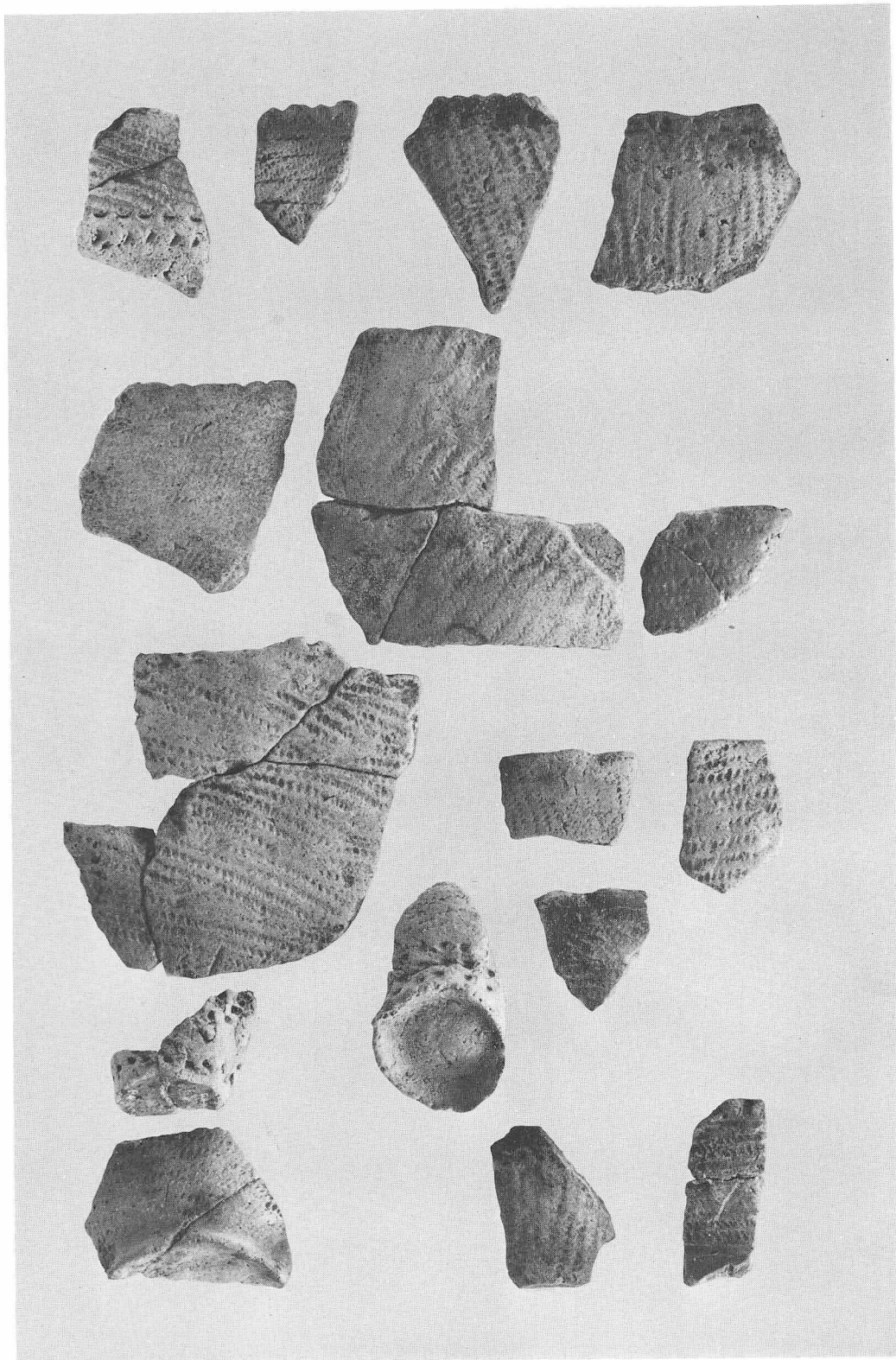
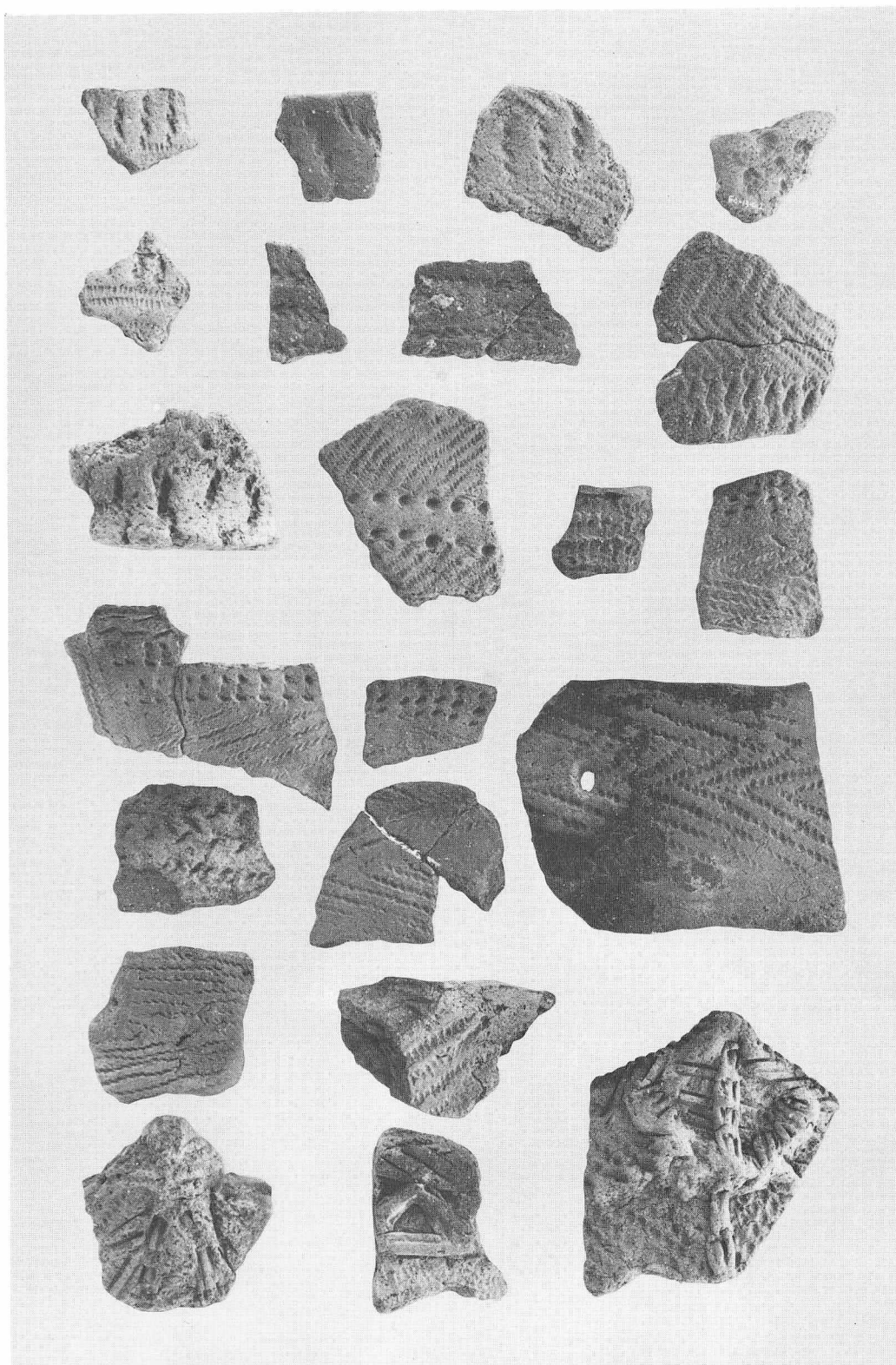




図4-3 包含層出土の土器(3)



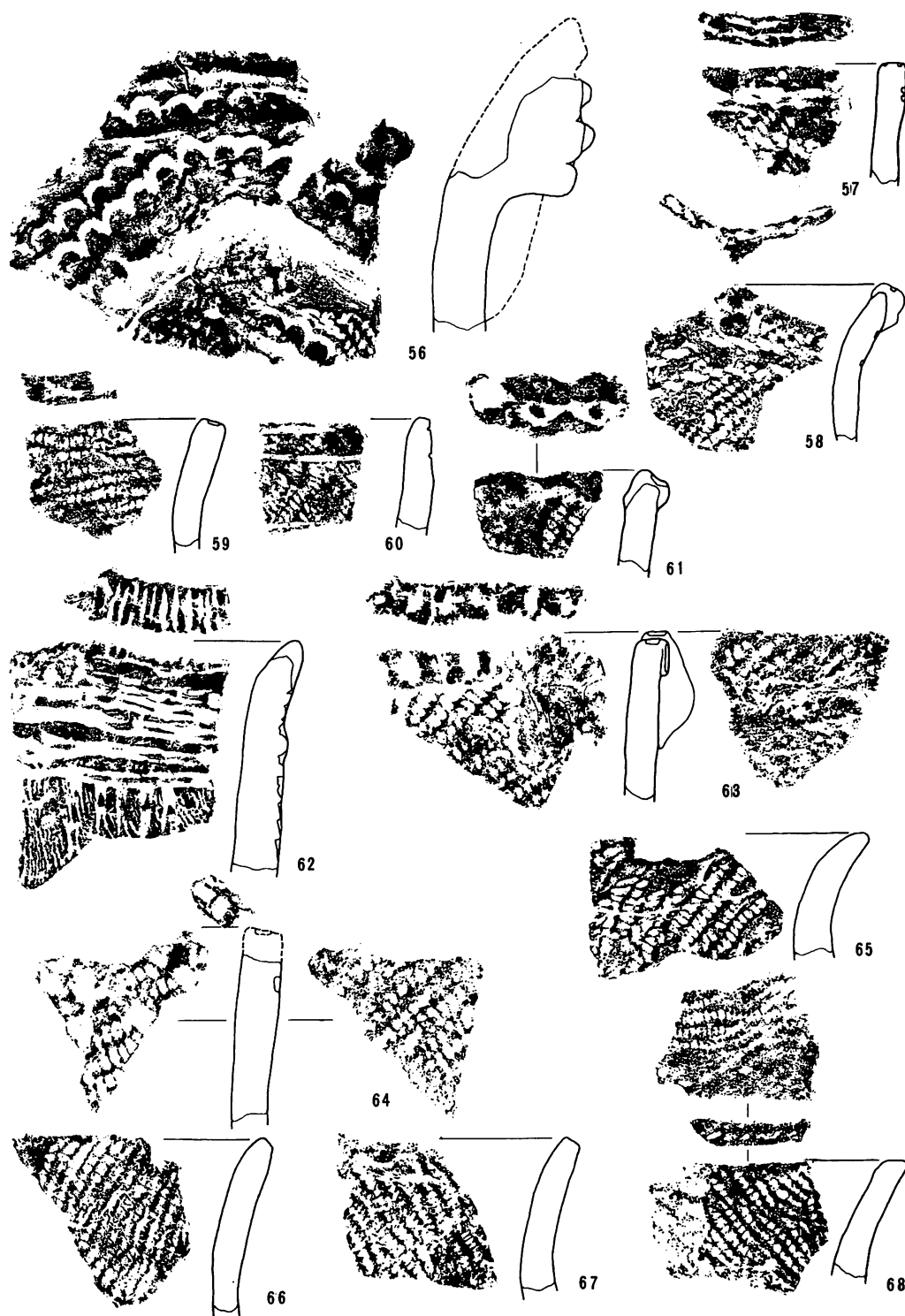
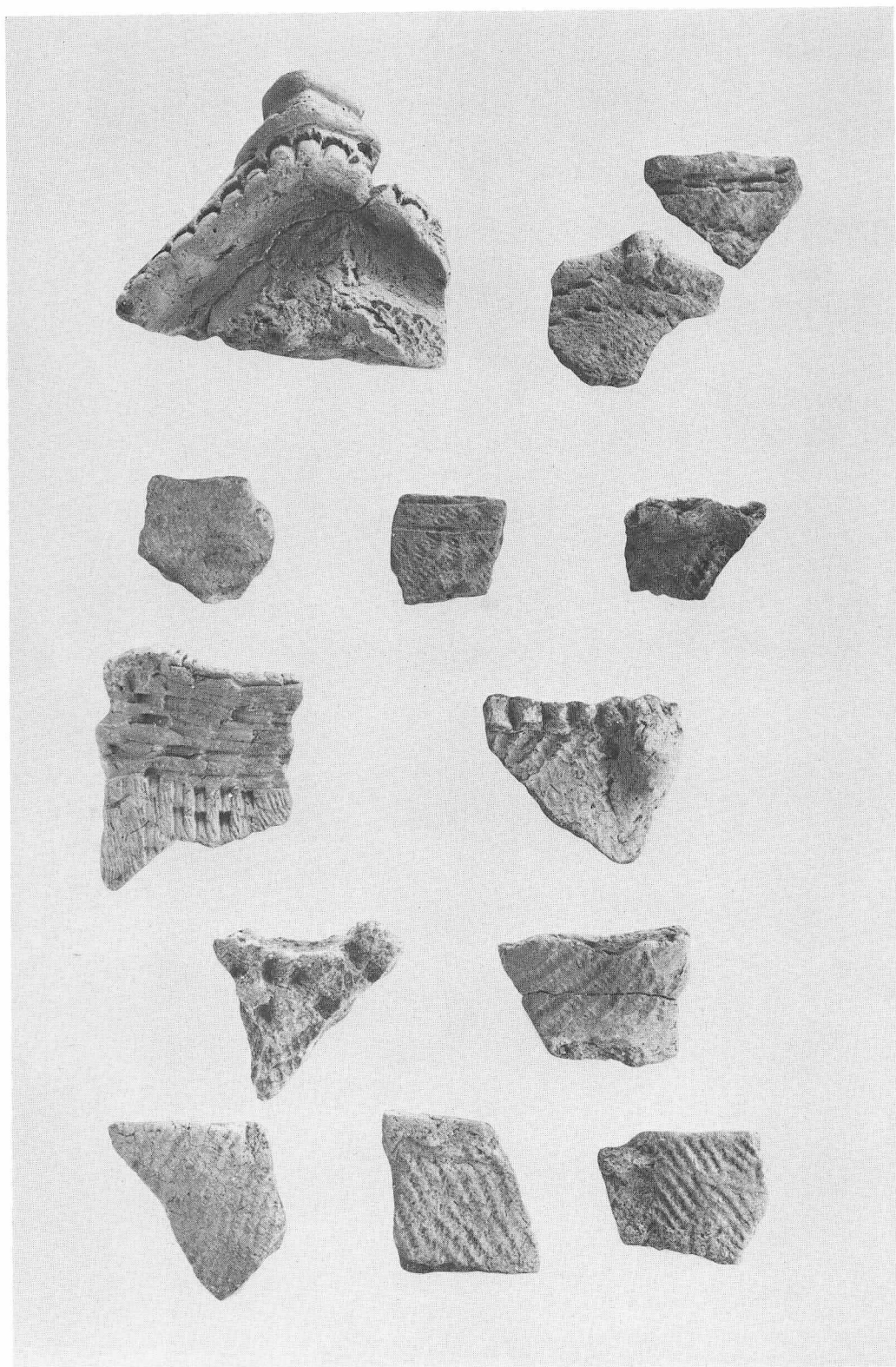


図4-4 包含層出土の土器(4)



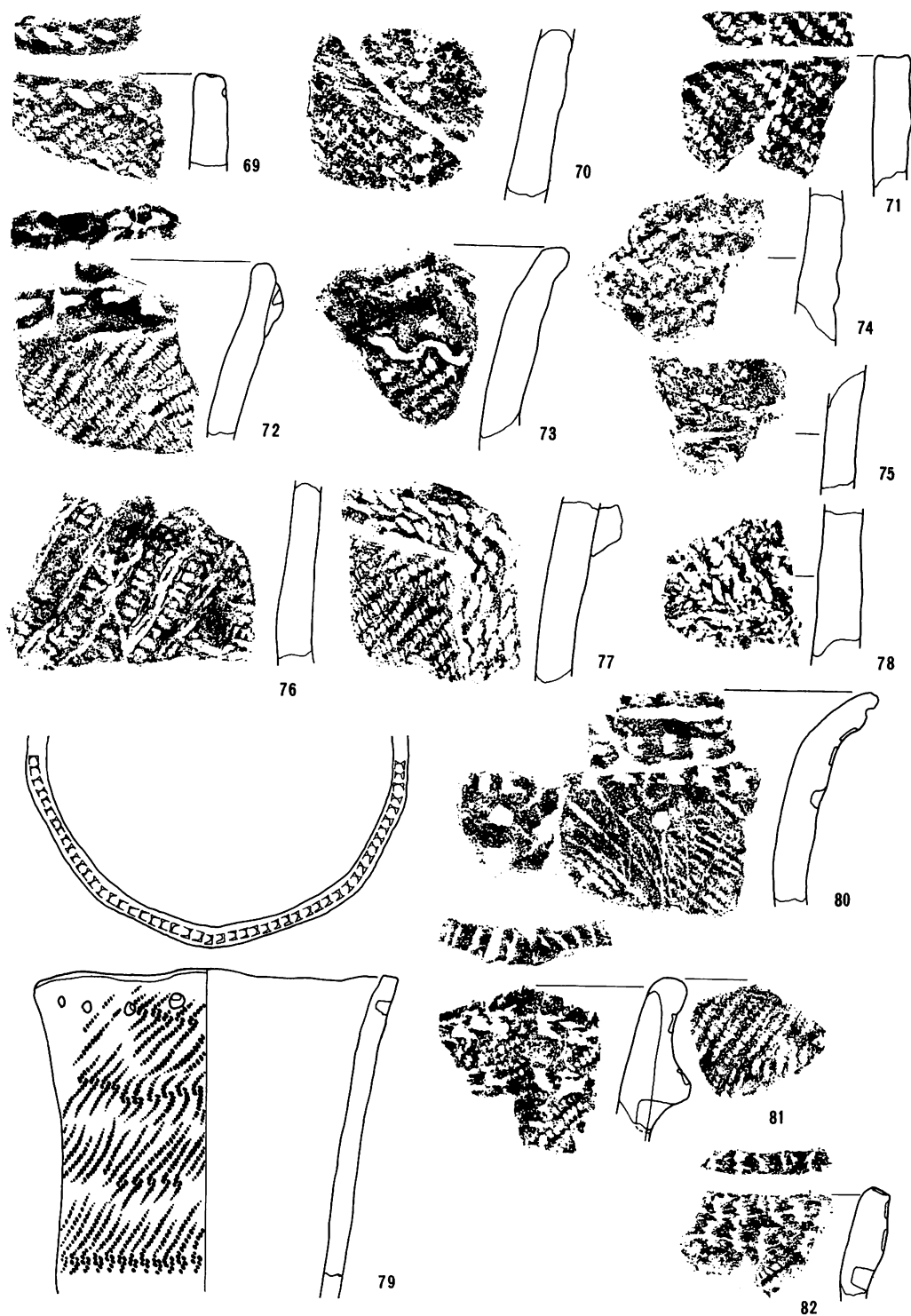
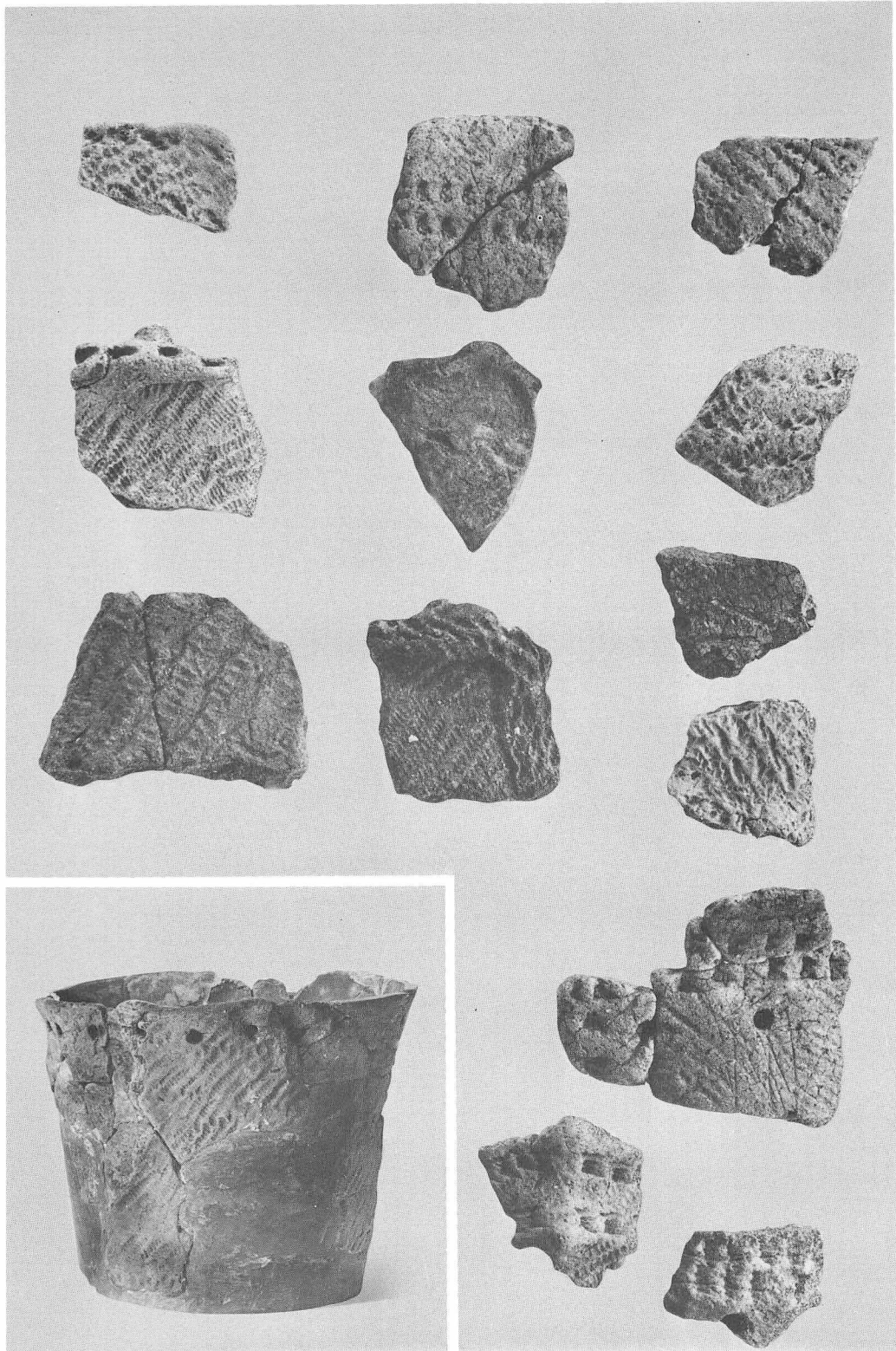


図 4 - 5 包含層出土の土器(5)



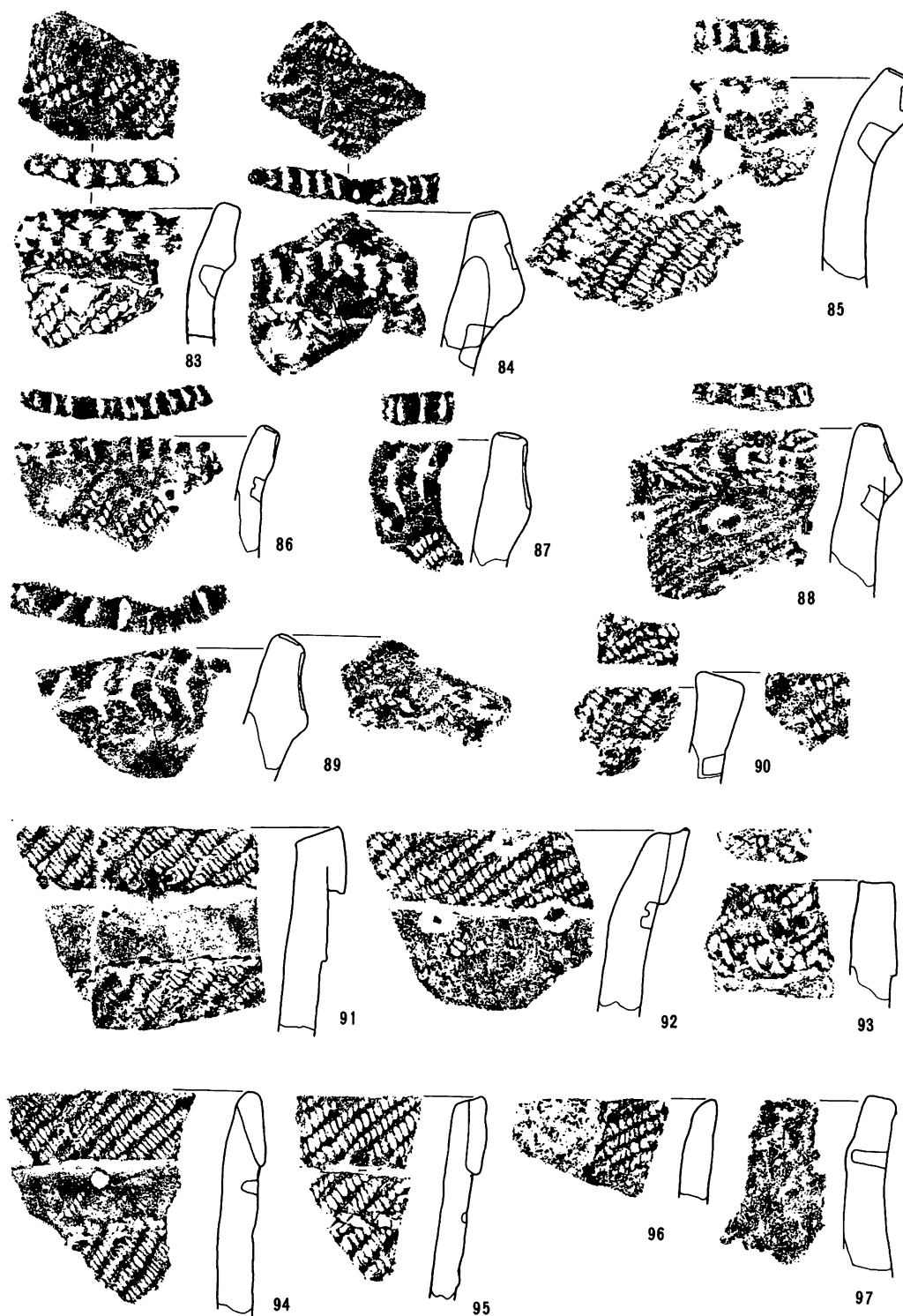
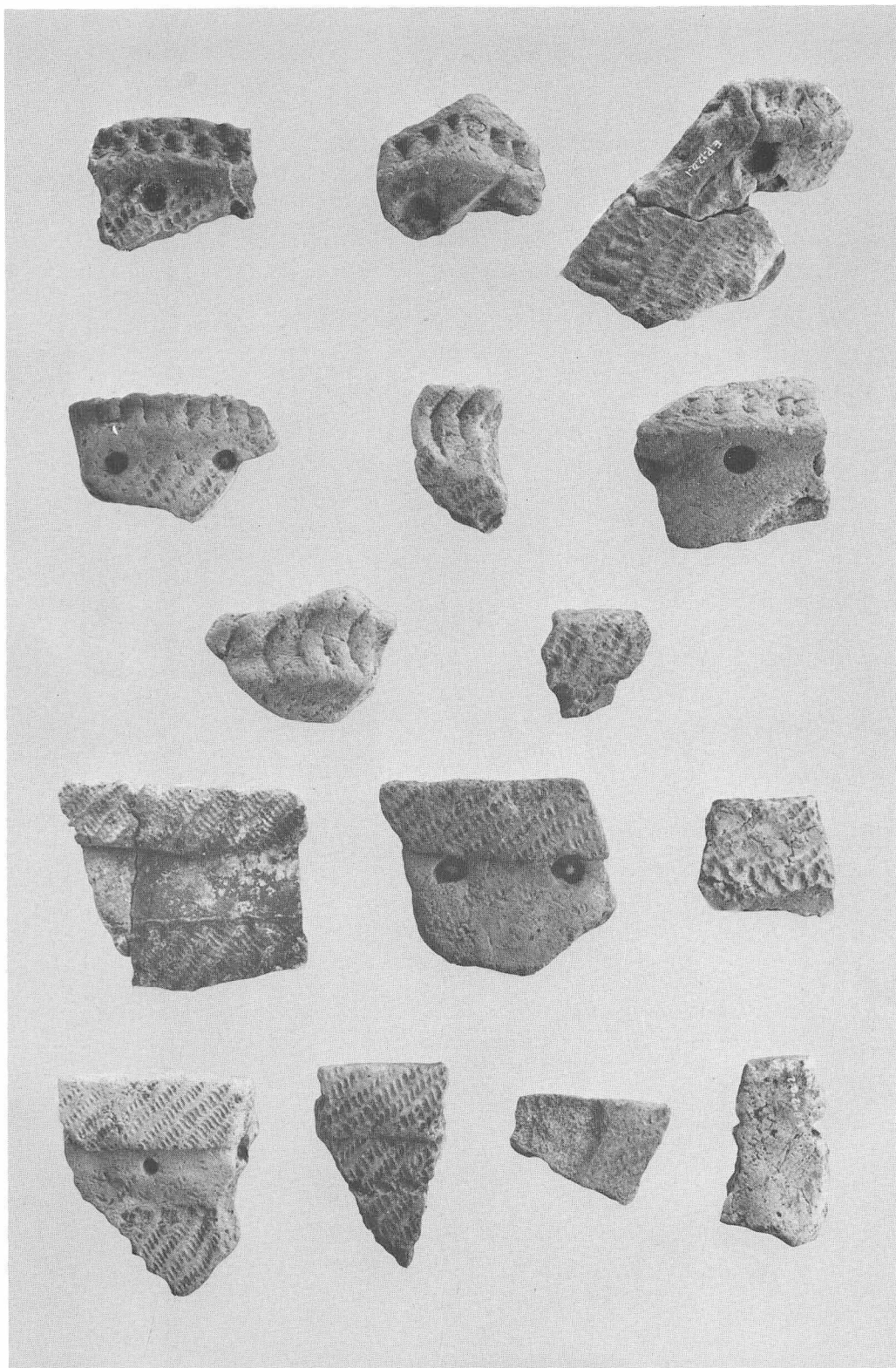


図4-6 包含層出土の土器(6)



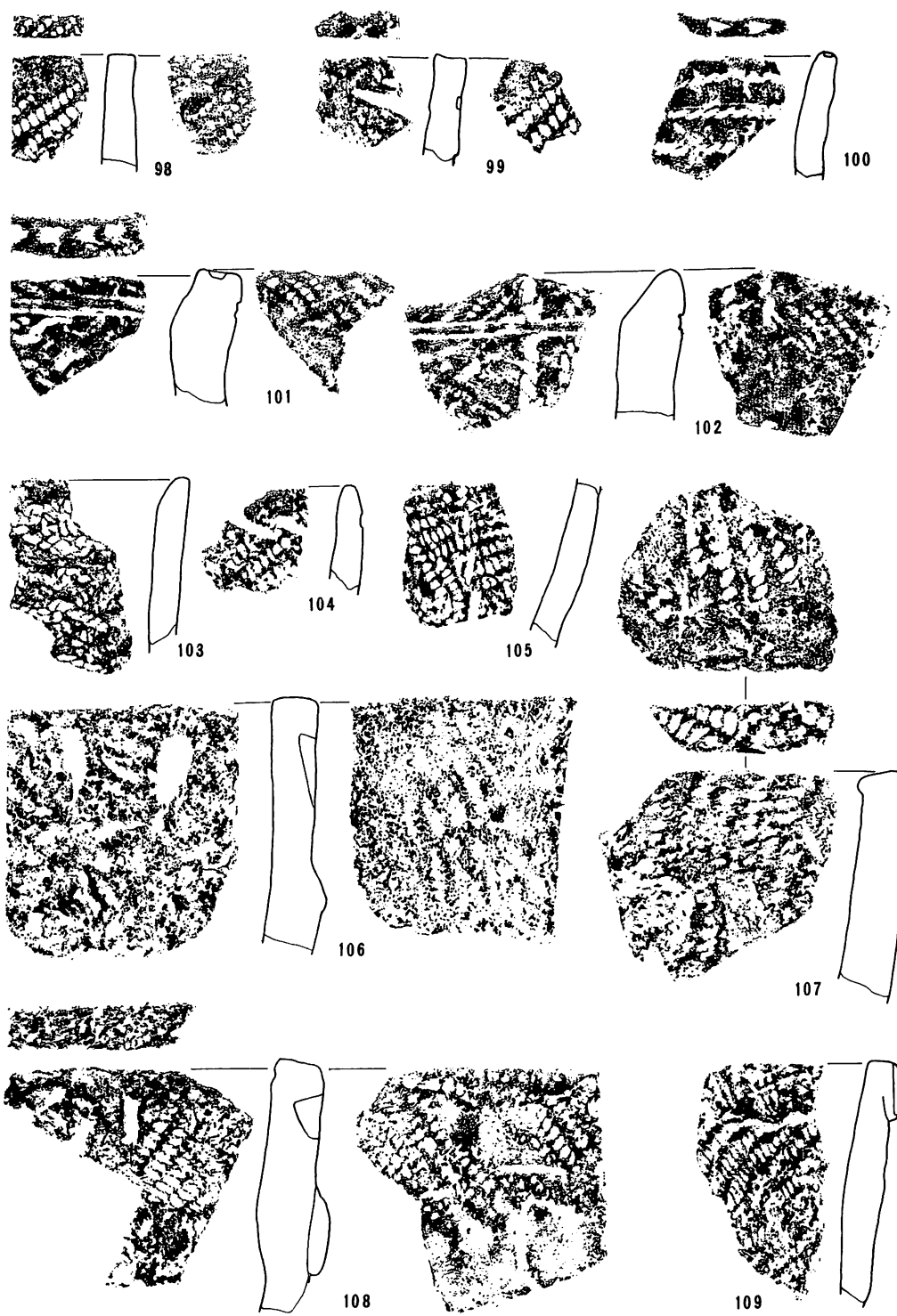
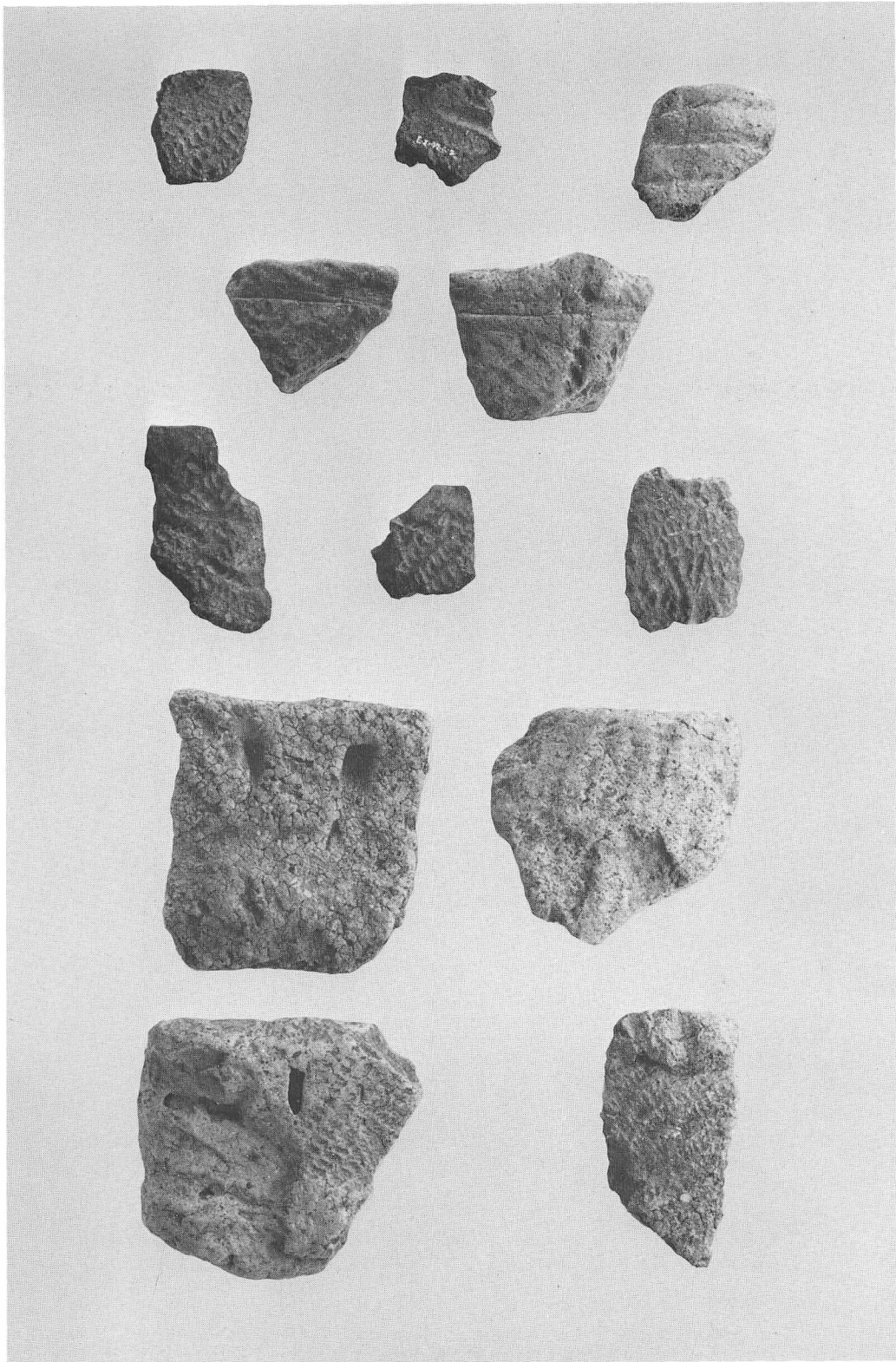


図4-7 包含層出土の土器(7)



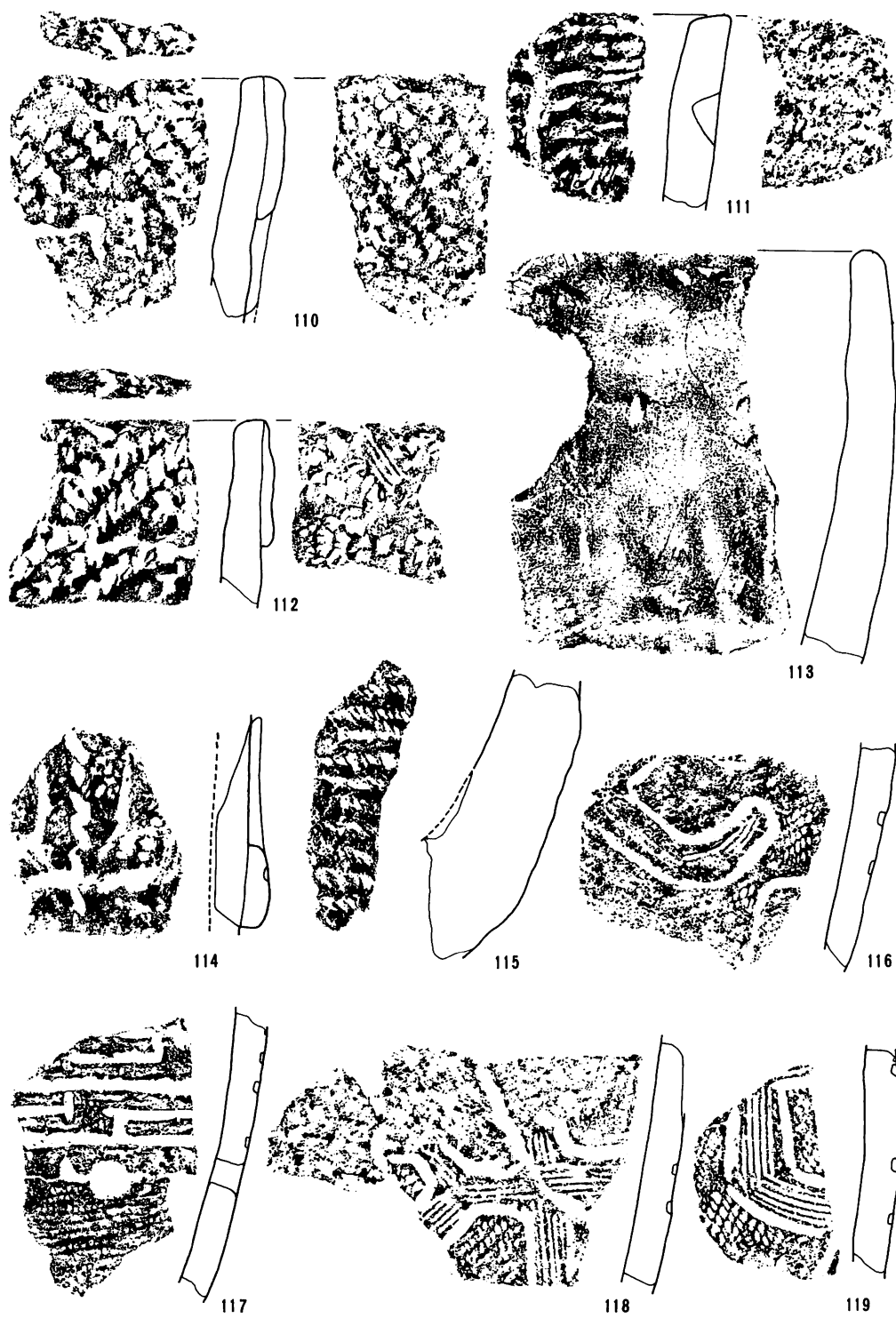


図 4 - 8 包含層出土の土器(8)



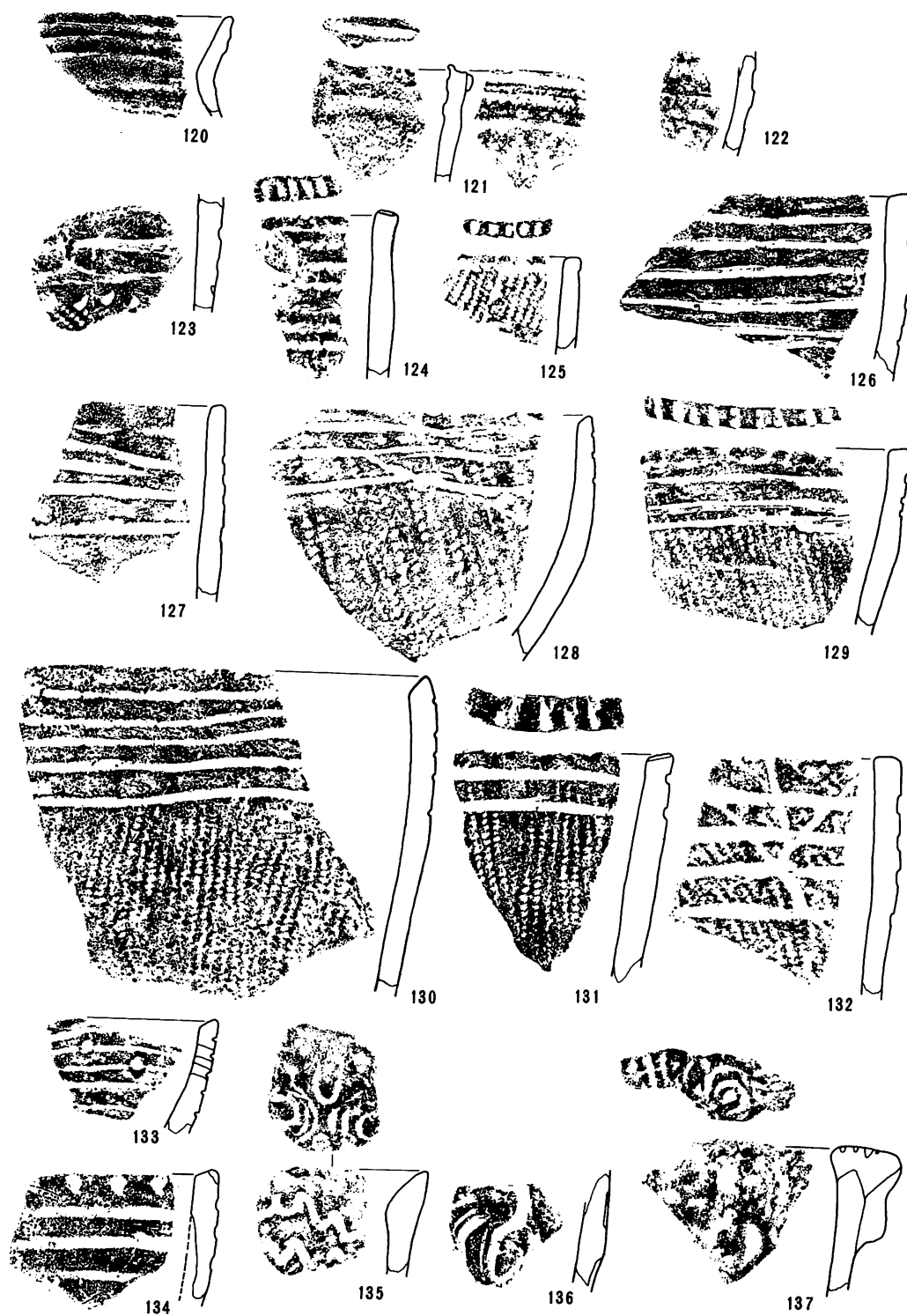
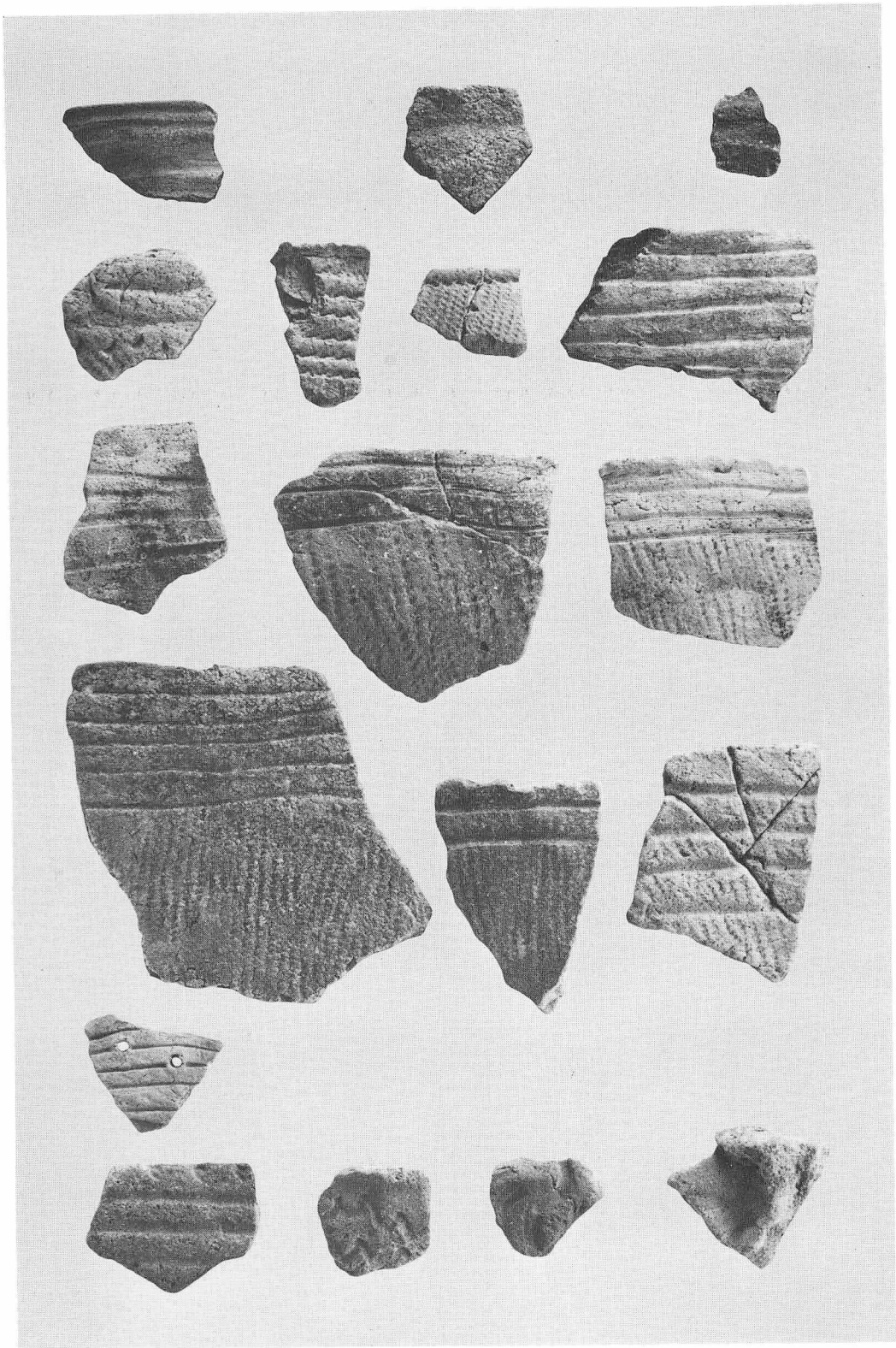


図4-9 包含層出土の土器(9)



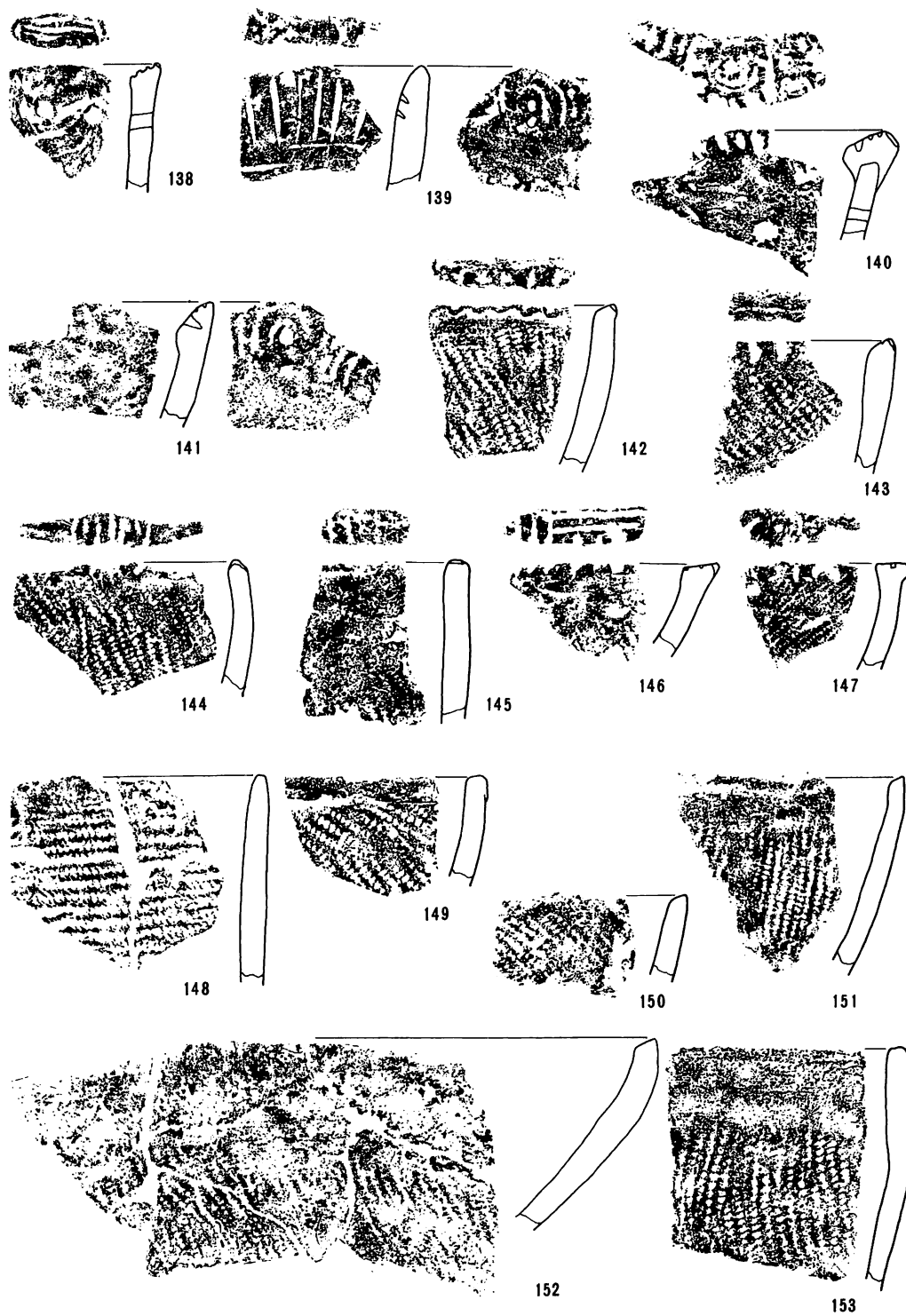


図 4 - 10 包含層出土の土器(10)

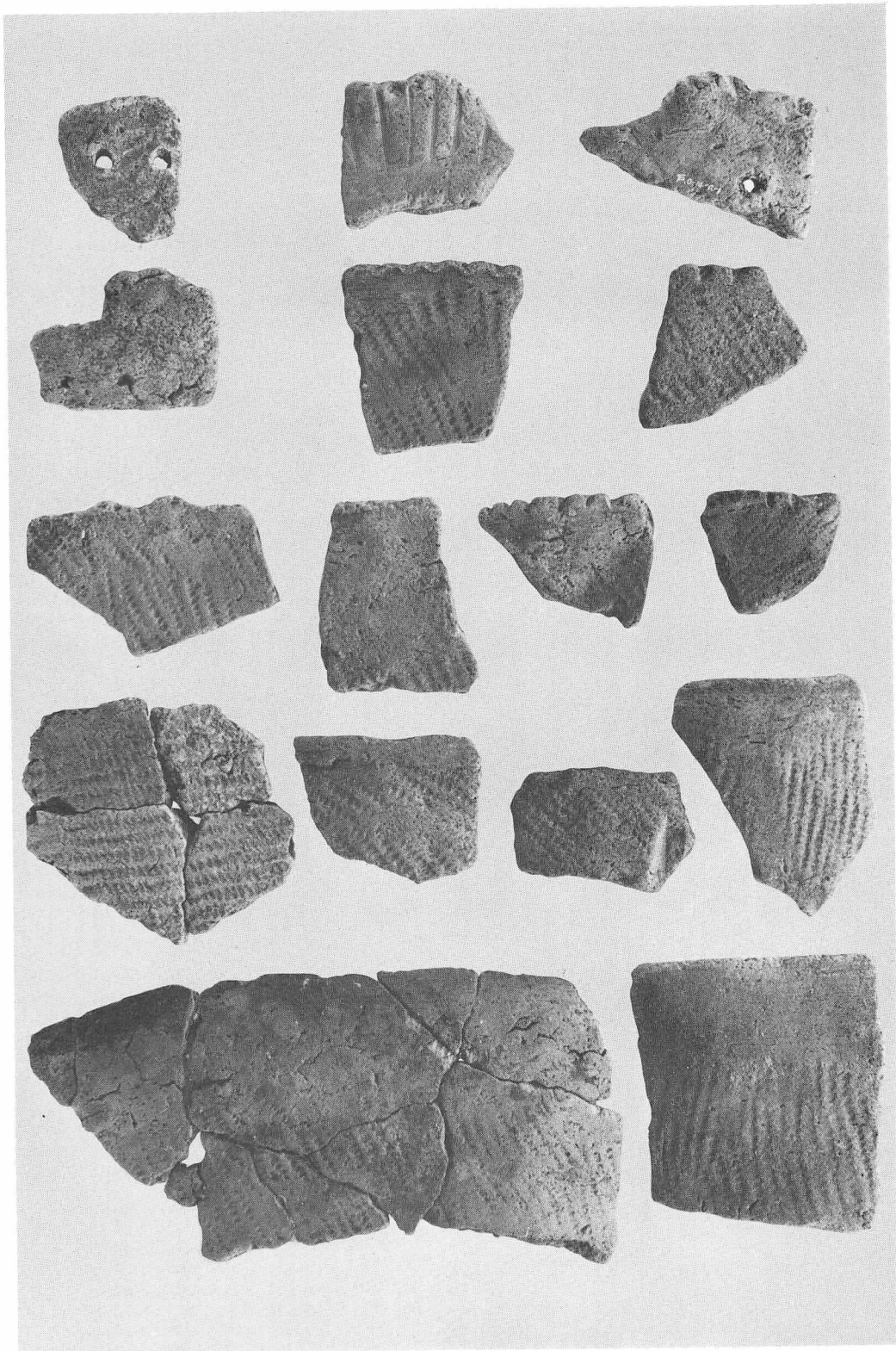
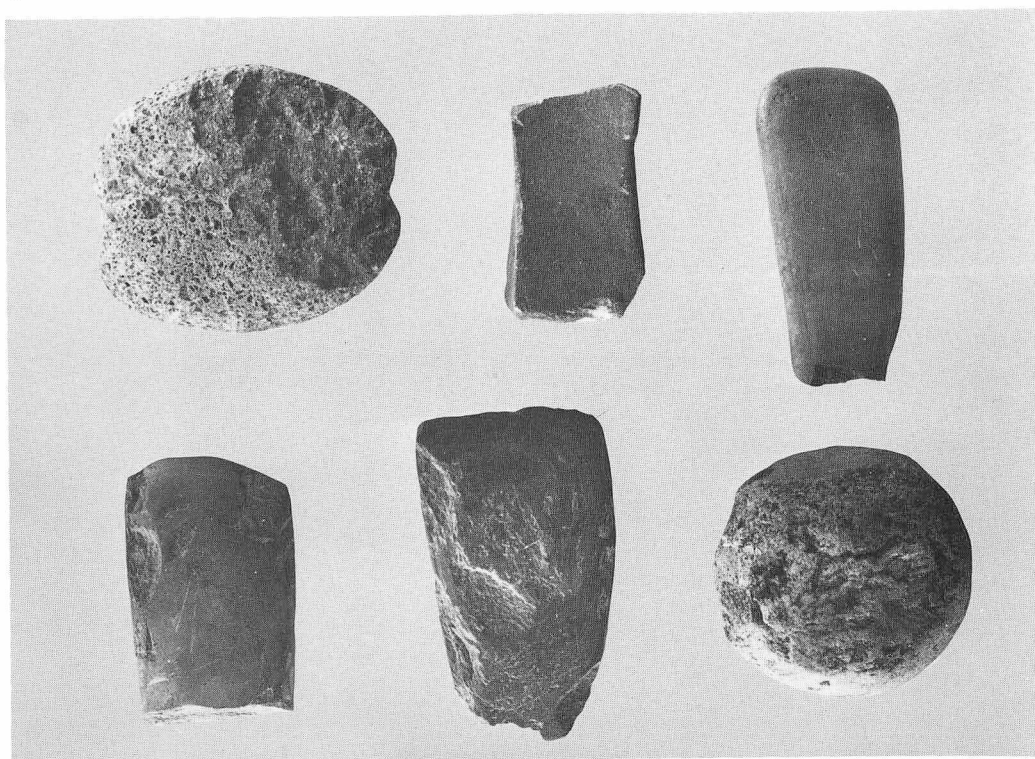
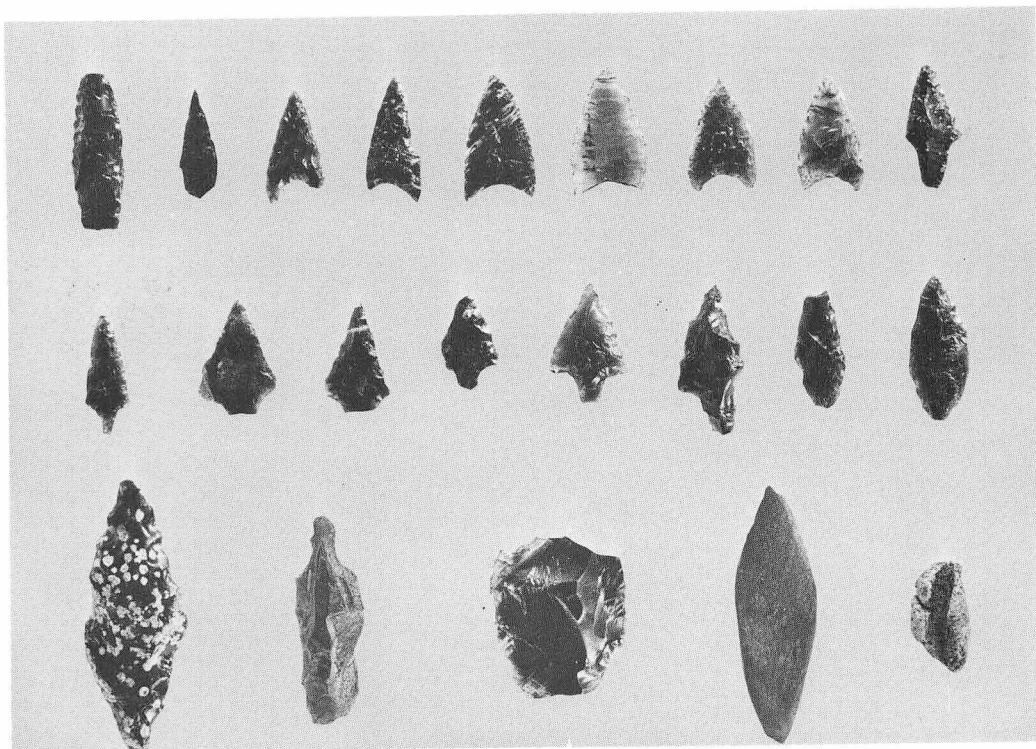




図4-11 包含層出土の石器等(1)



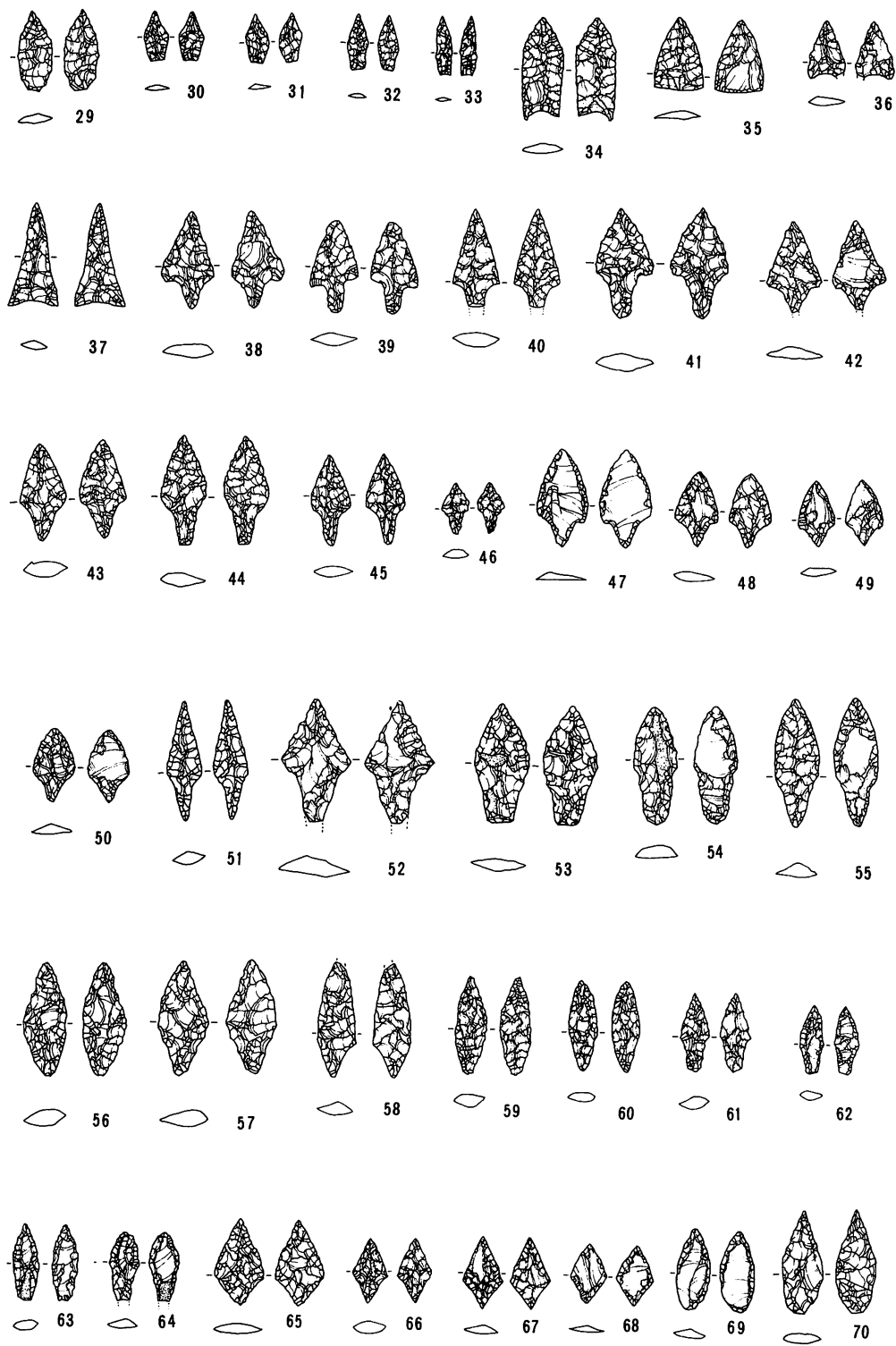
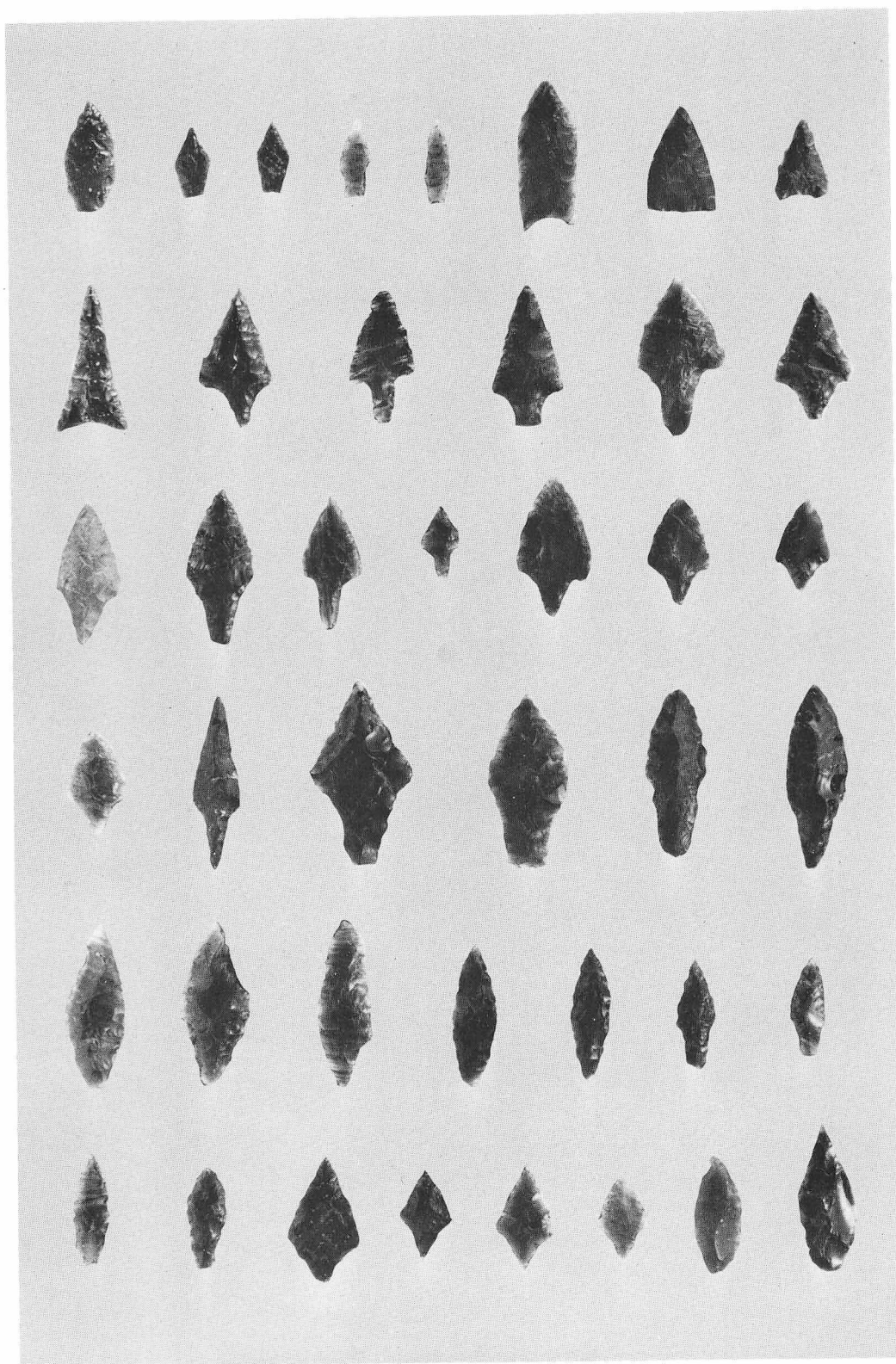


図4-12 包含層出土の石器(2)



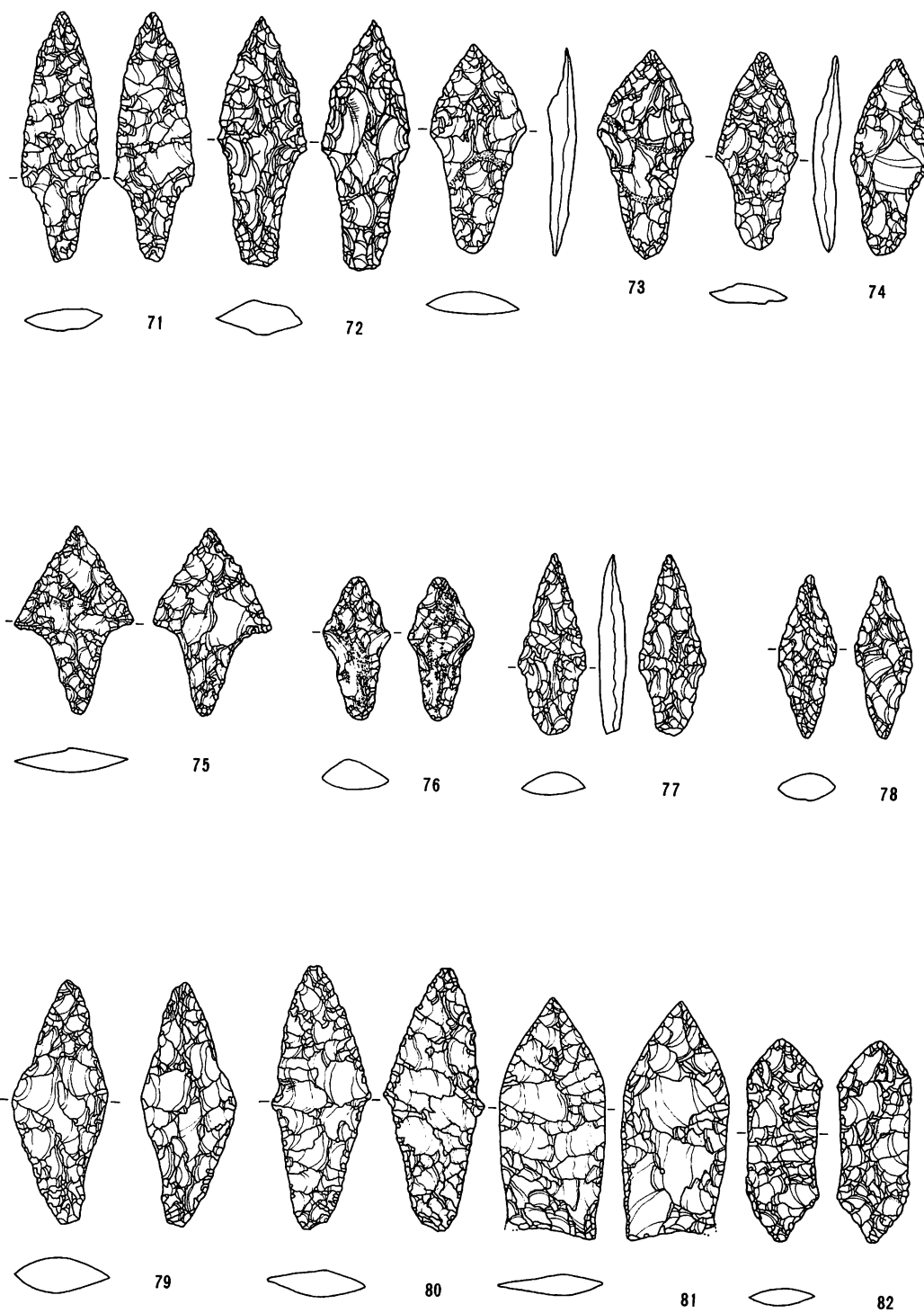
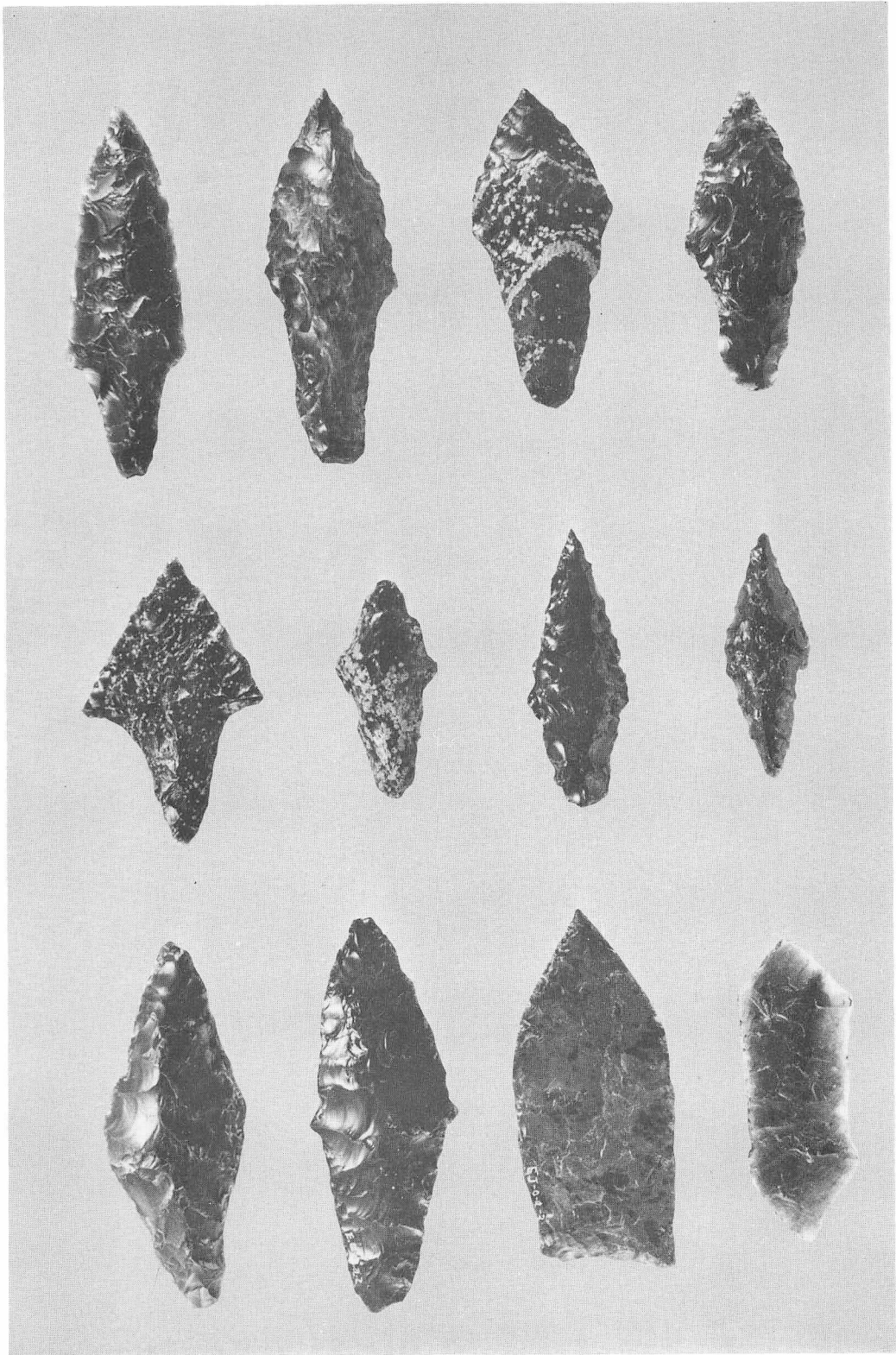


図 4-13 包含層出土の石器(3)



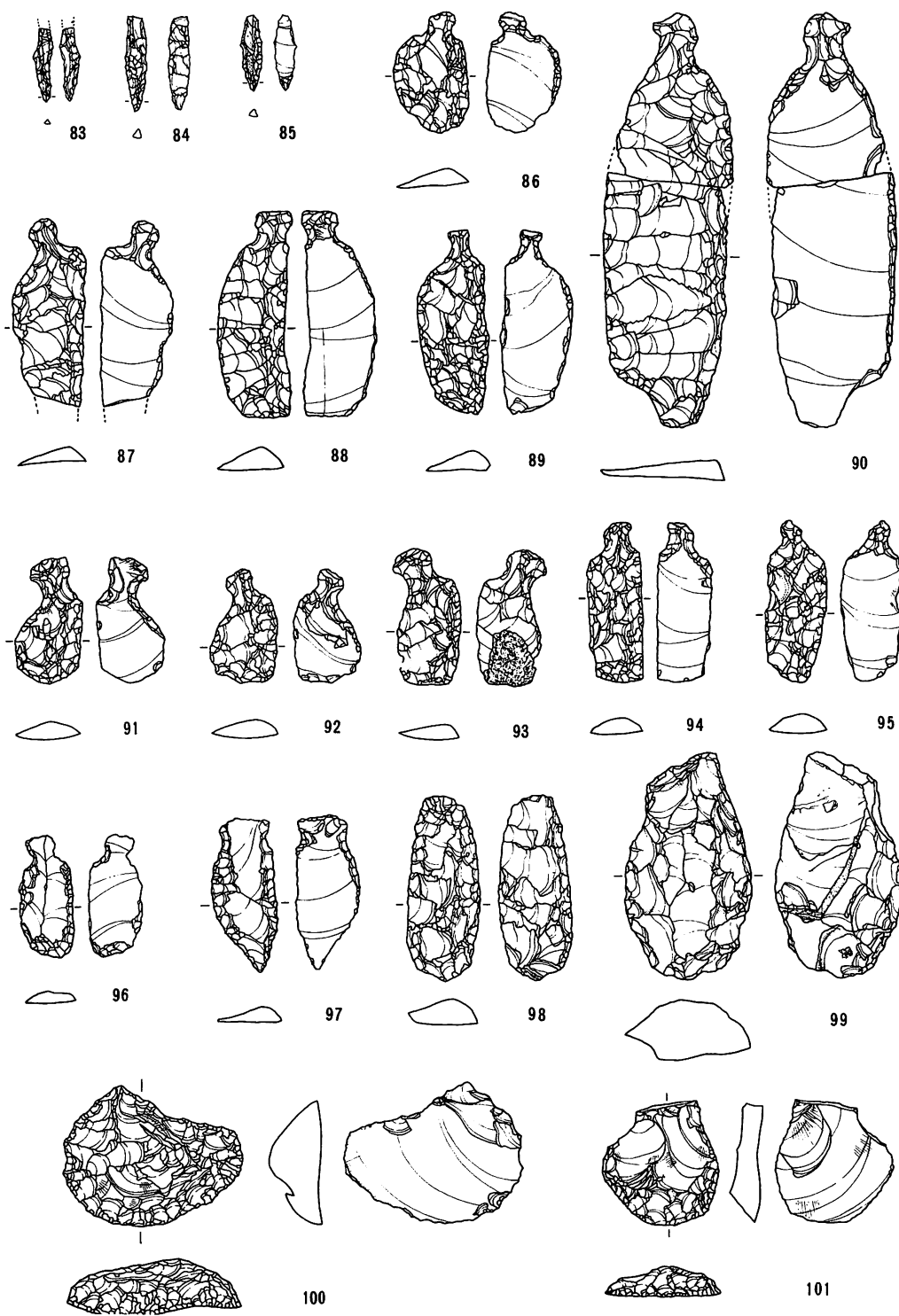
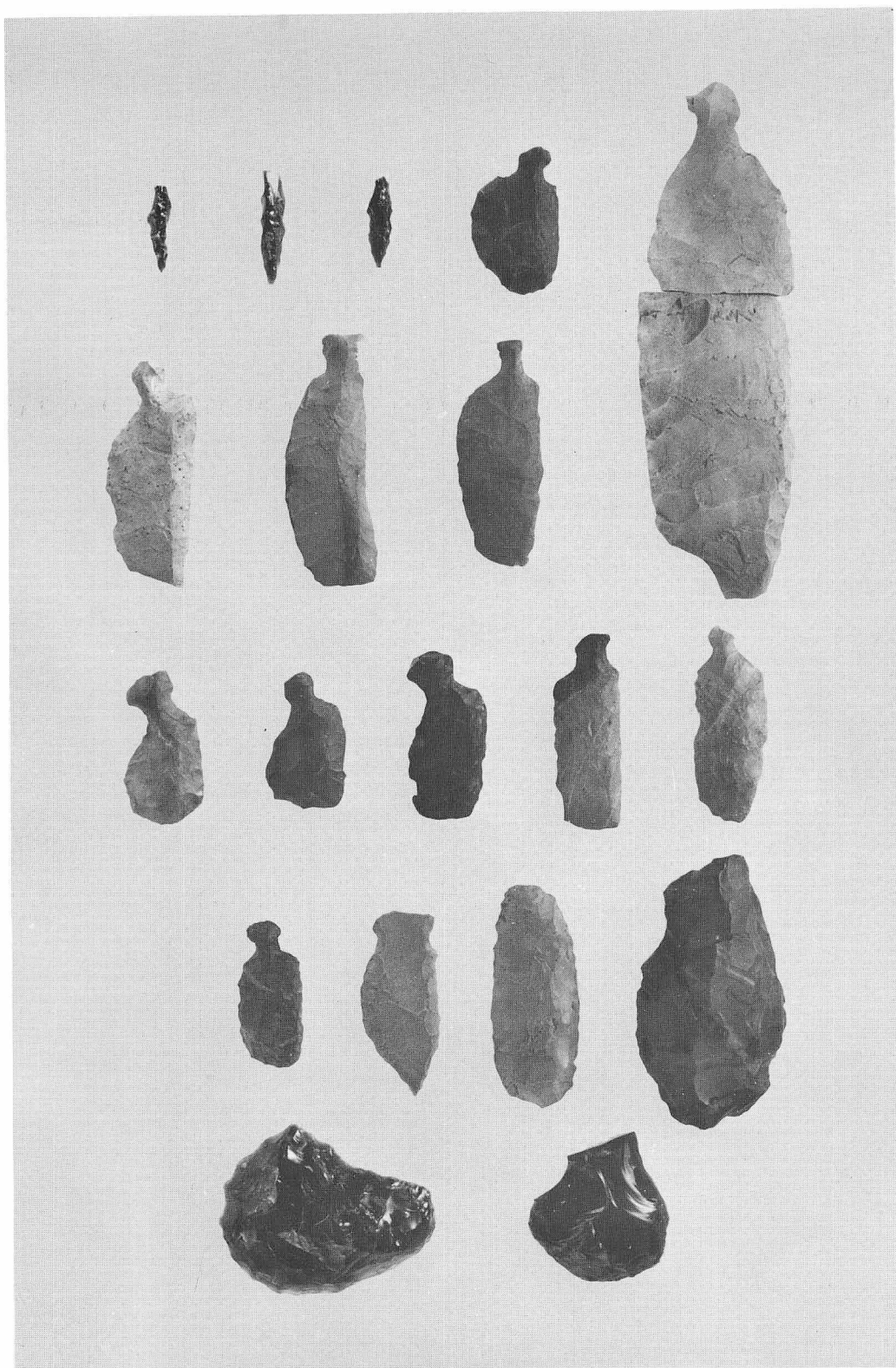


図 4-14 包含層出土の石器(4)



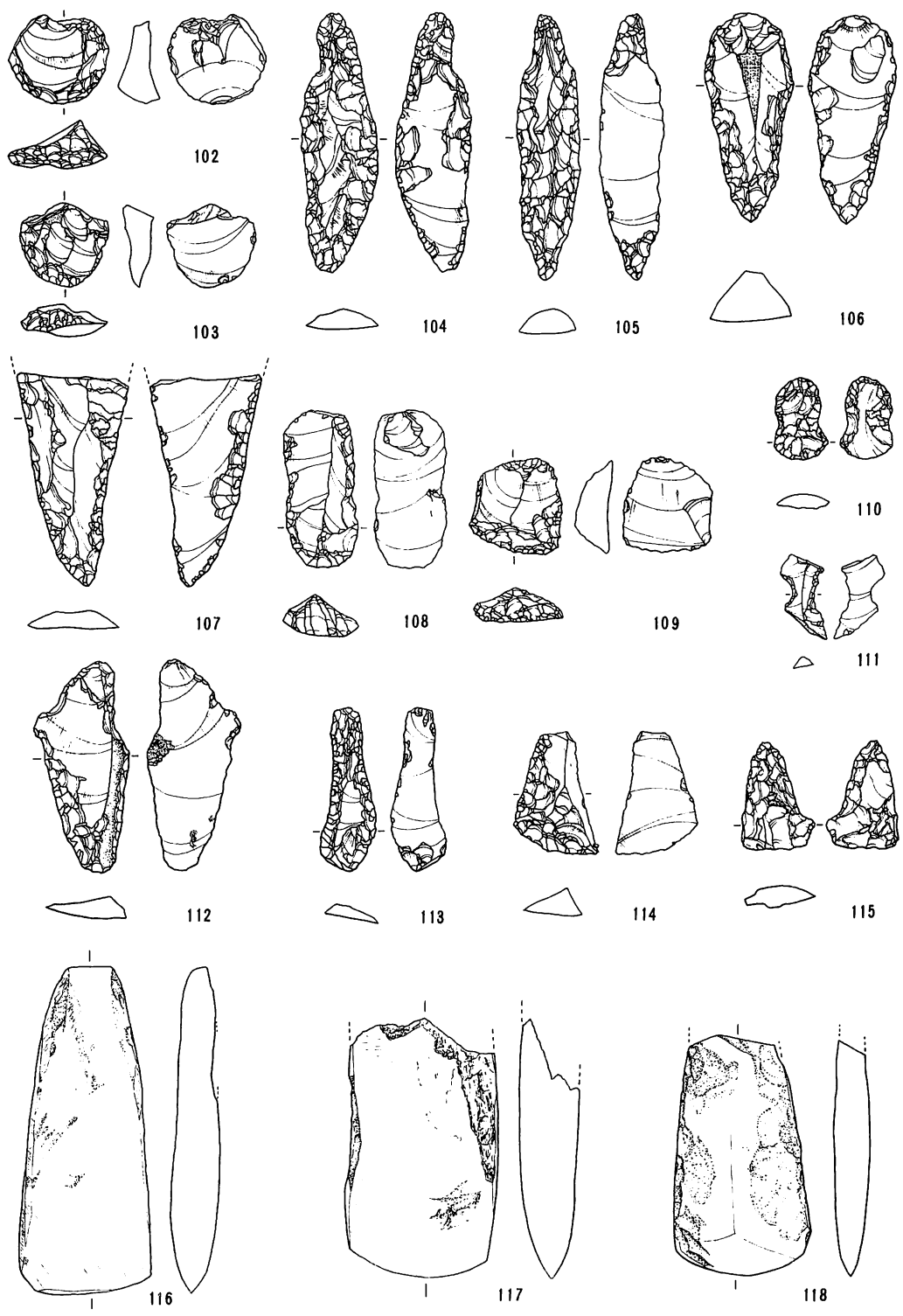
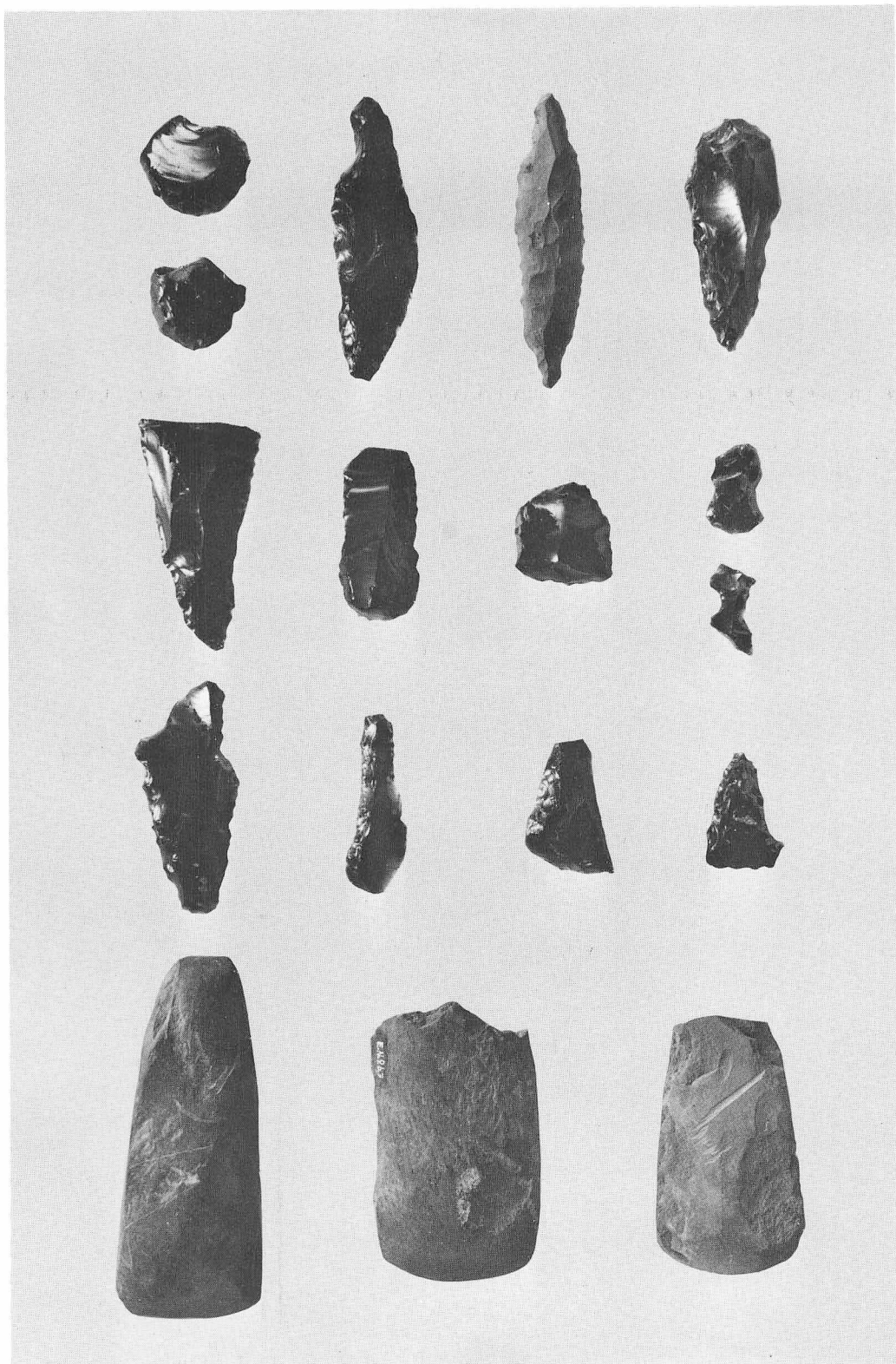


図4-15 包含層出土の石器(5)



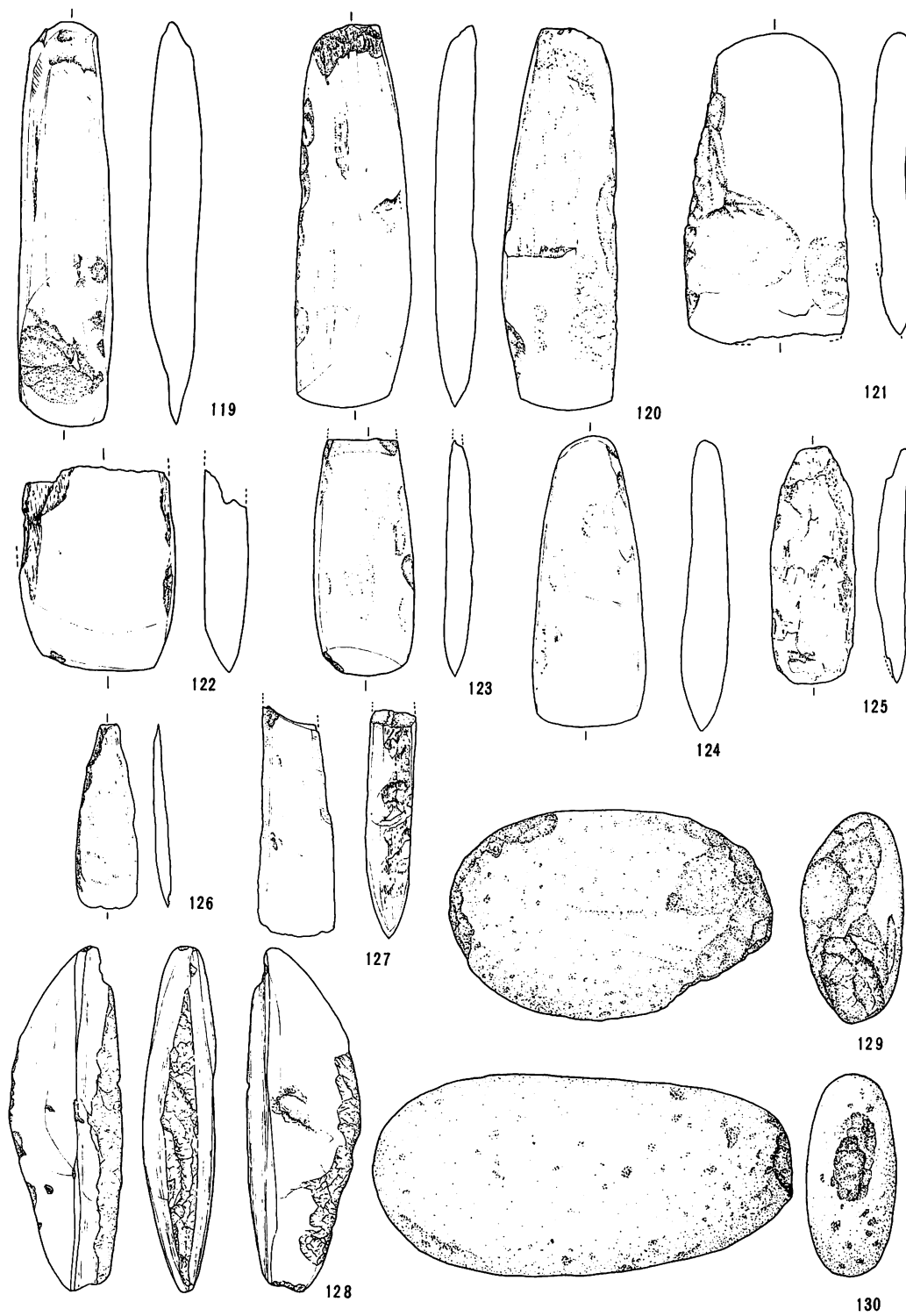
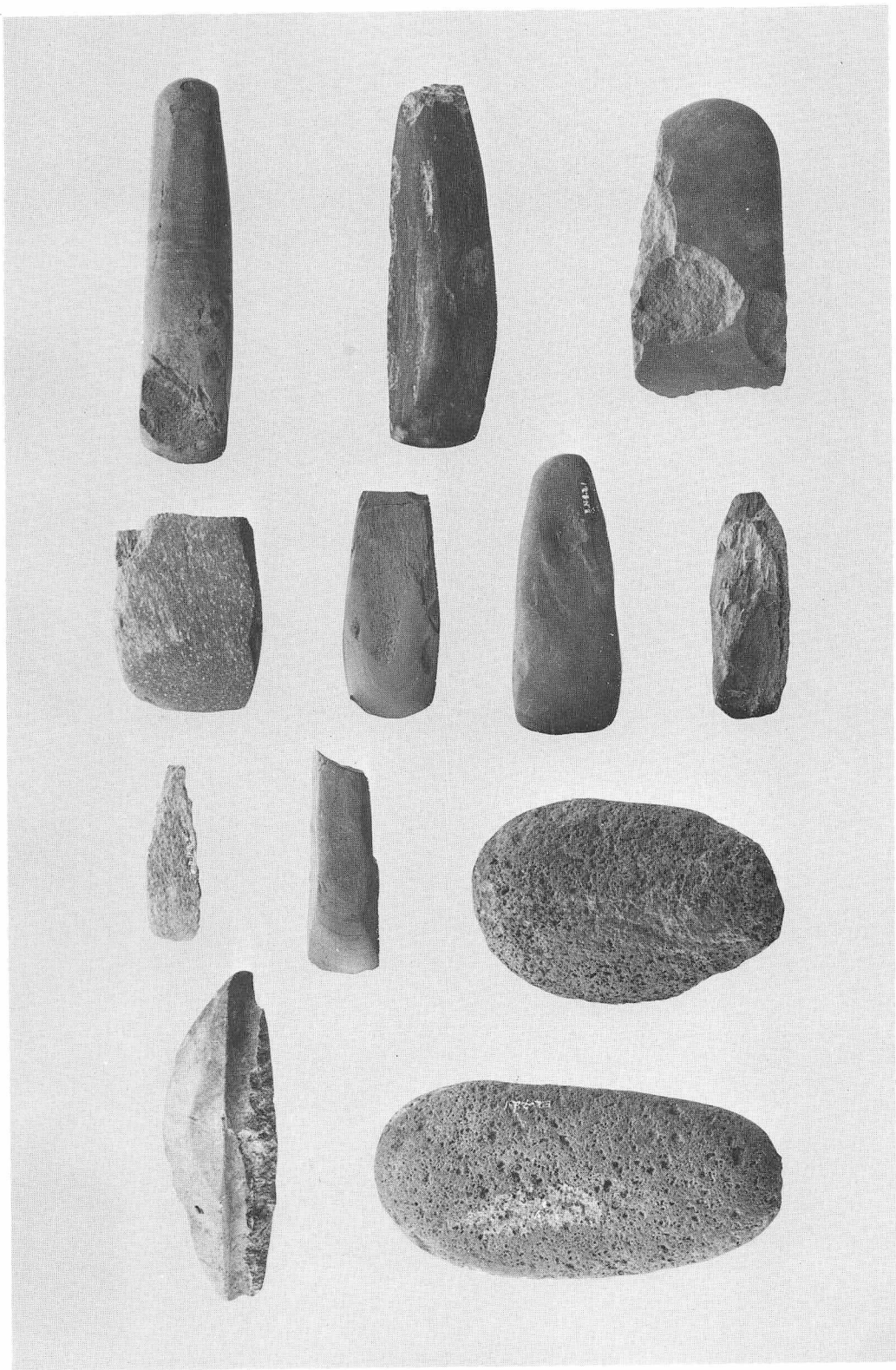


図 4-16 包含層出土の石器(6)



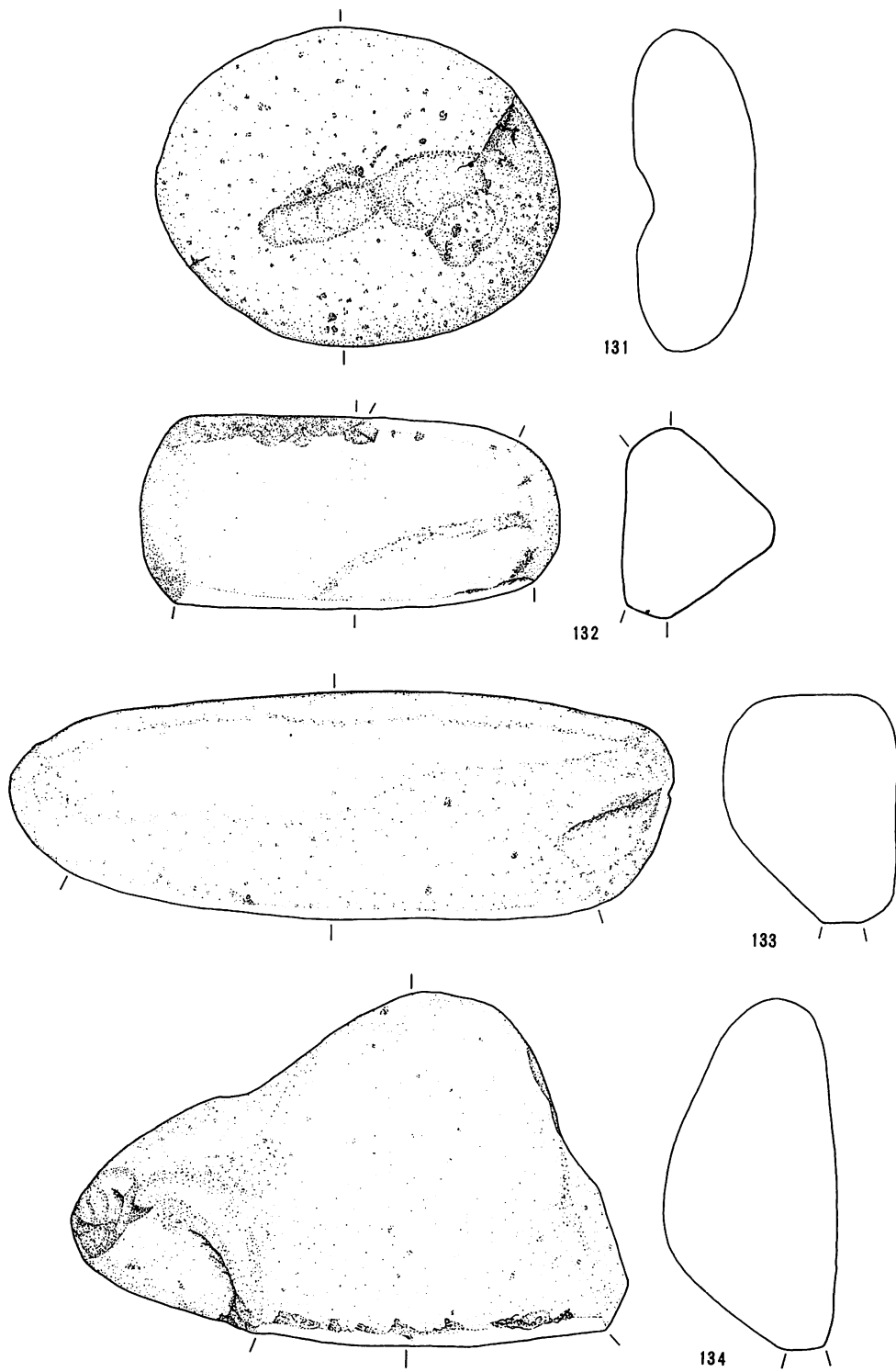
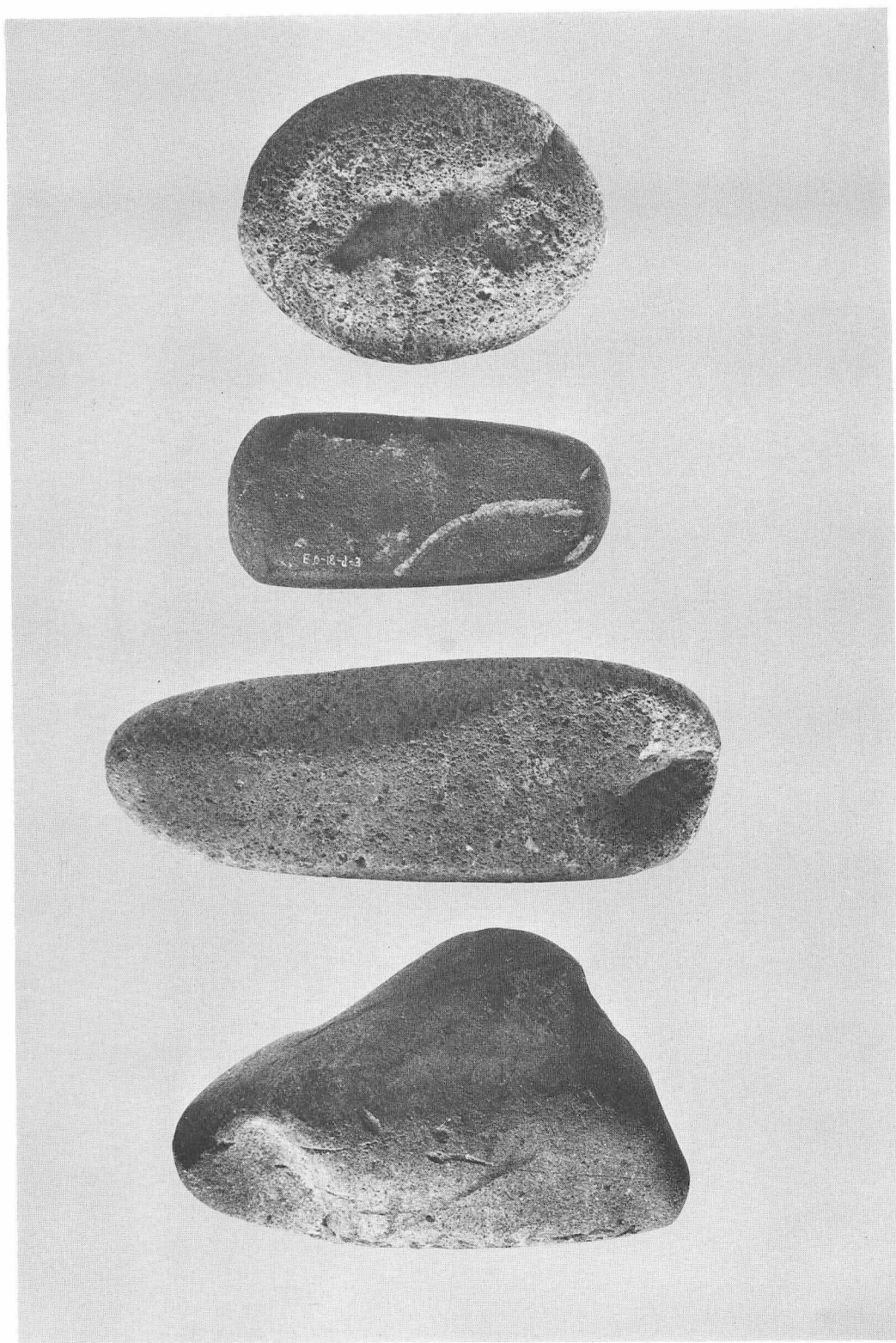


図4-17 包含層出土の石器(7)



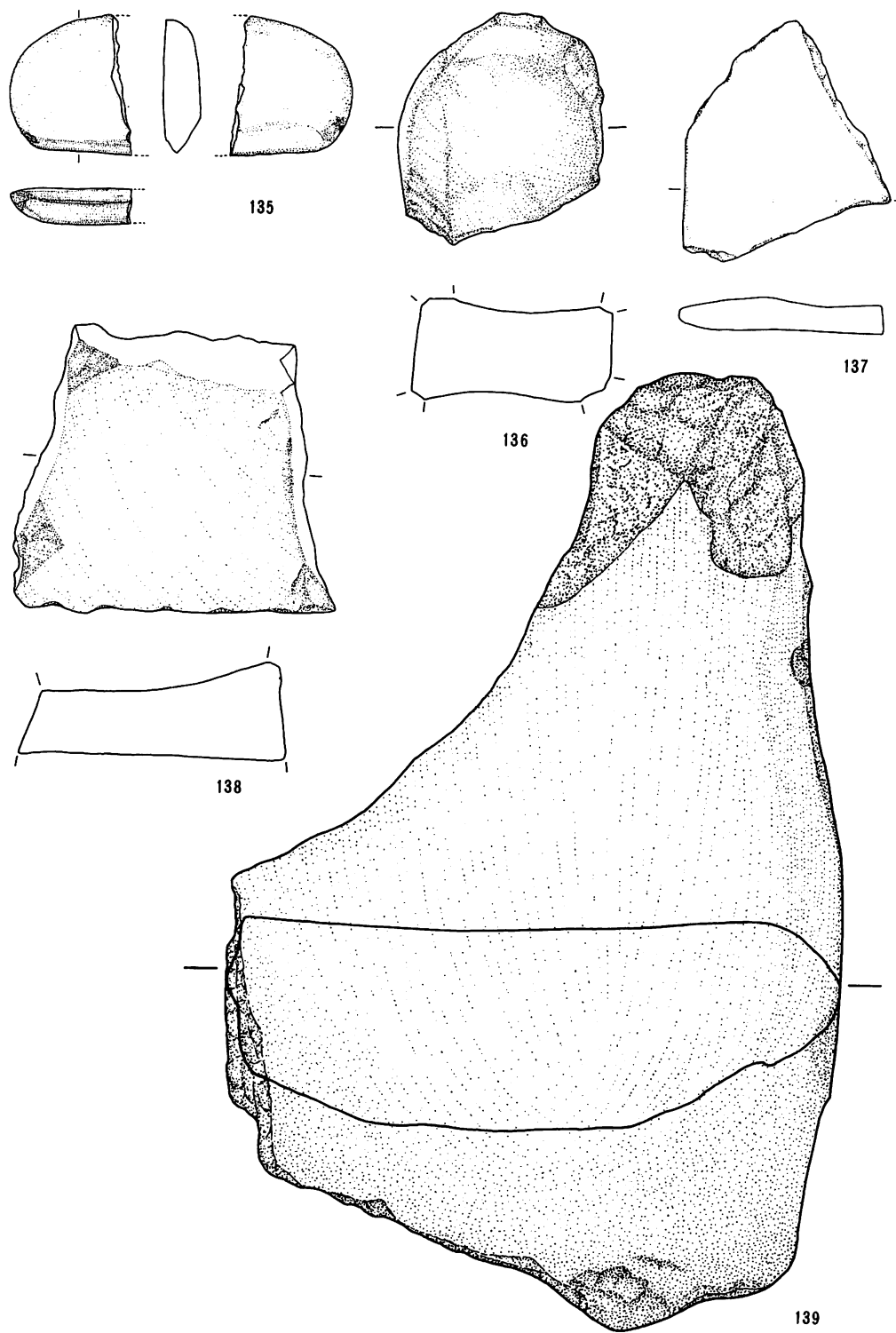
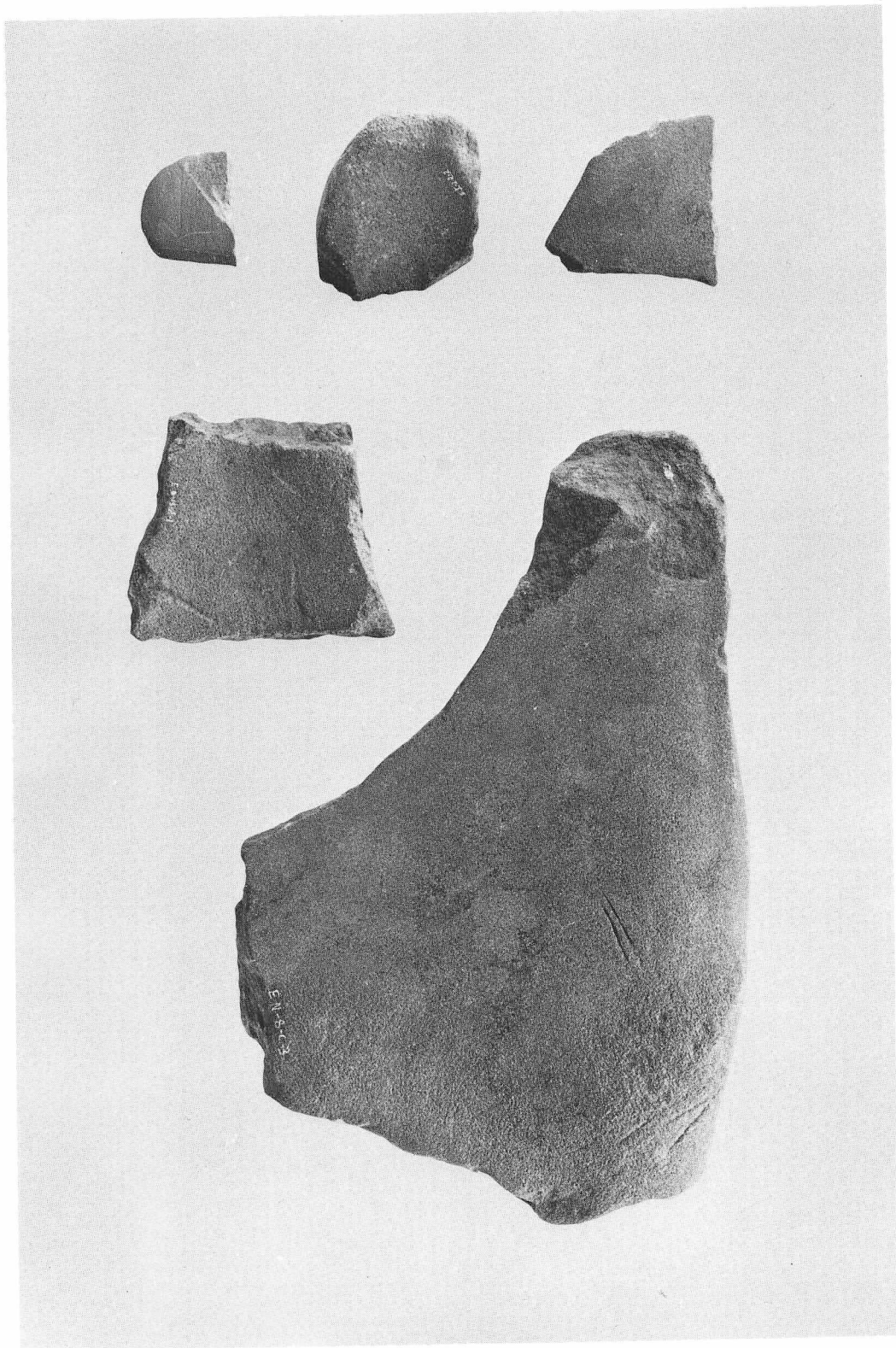


図 4 - 18 包含層出土の石器(8)



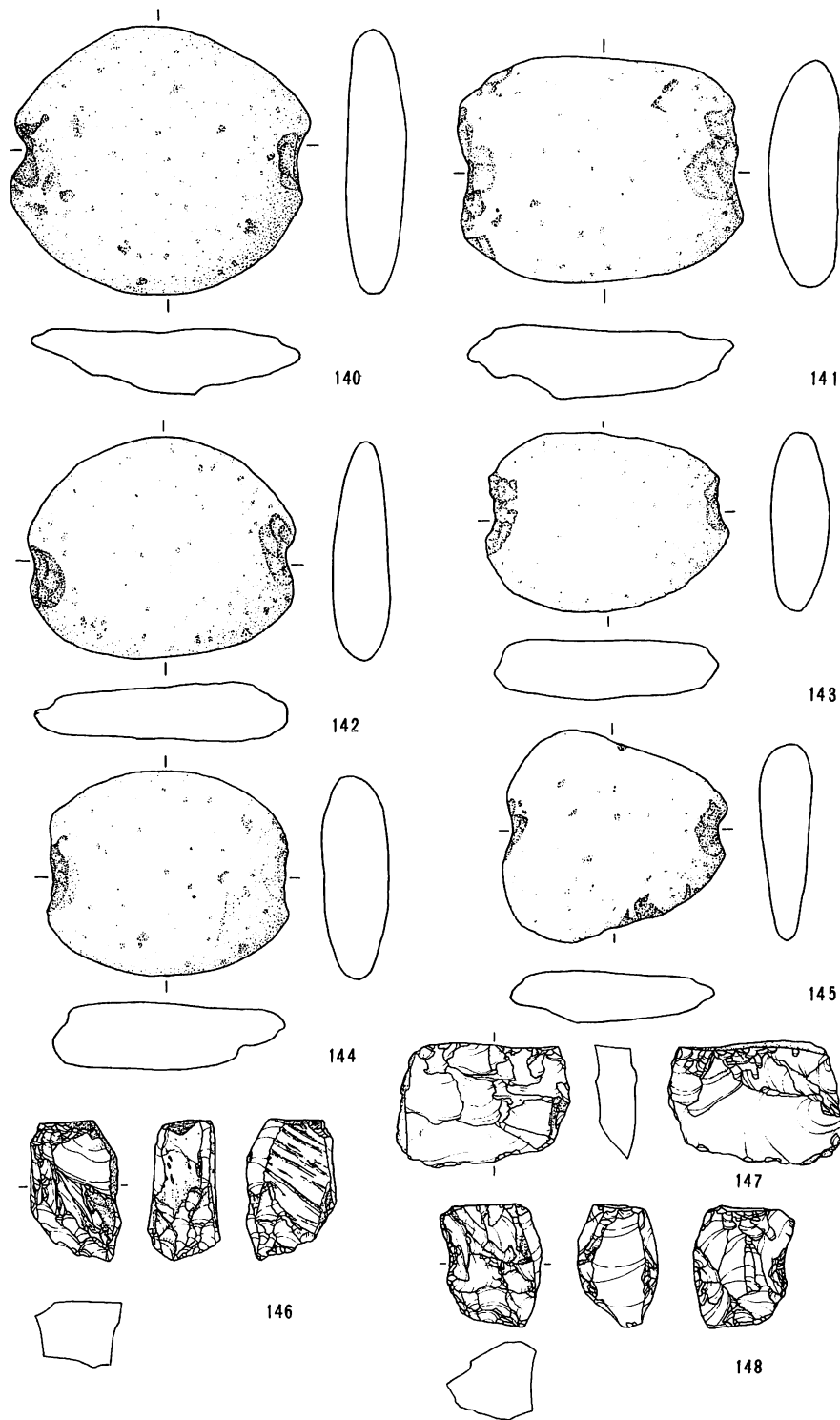
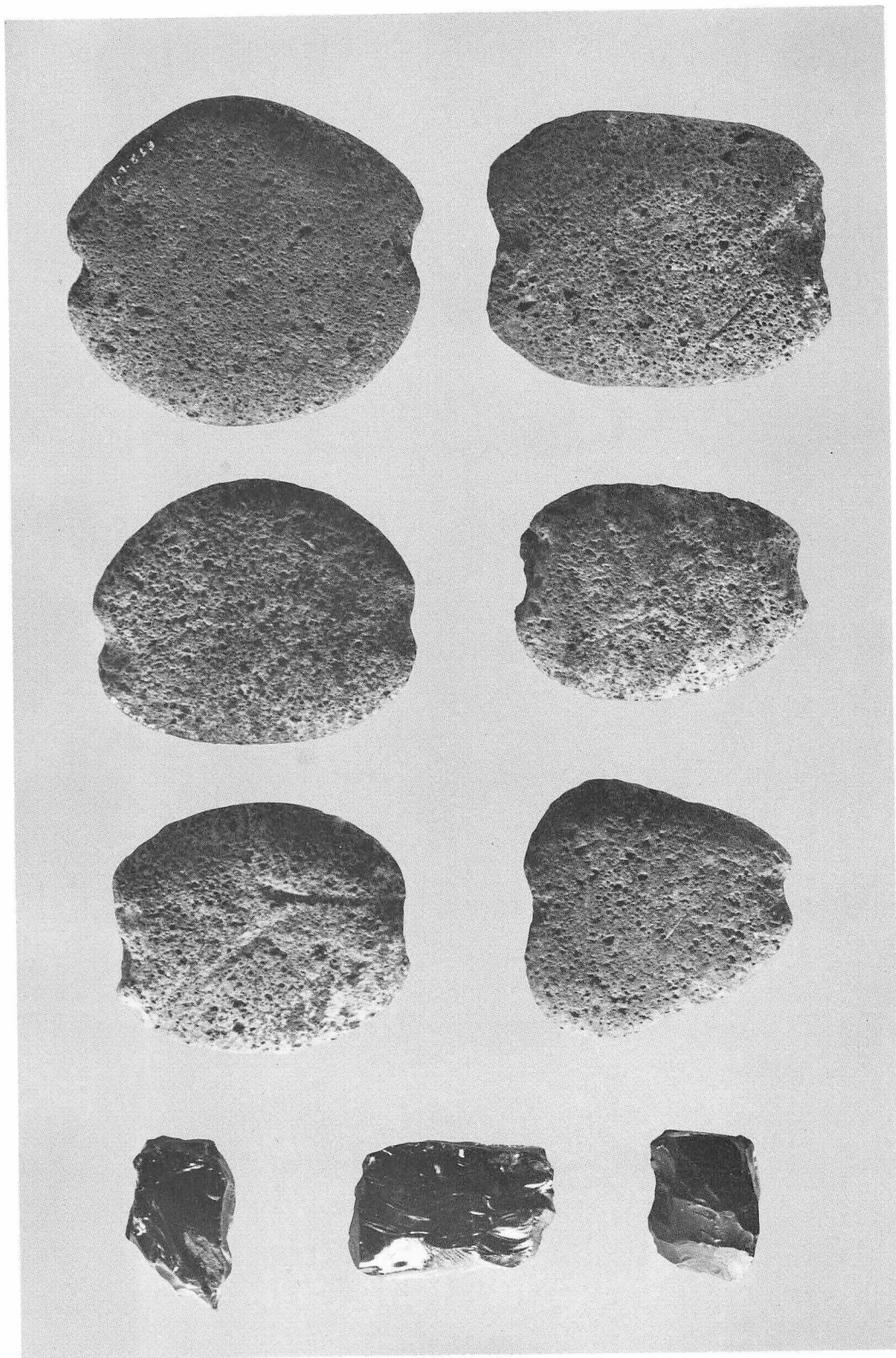


図4-19 包含層出土の石器(9)



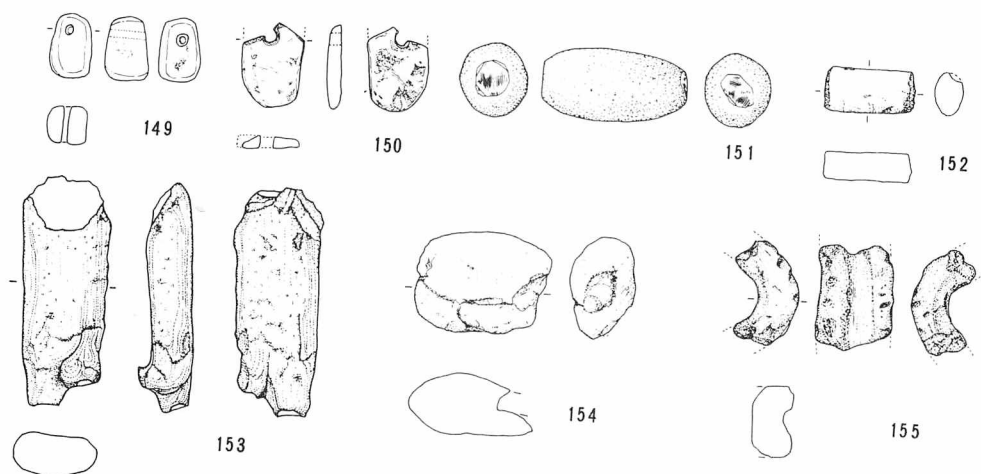


図4-20 包含層出土の石器等(10)

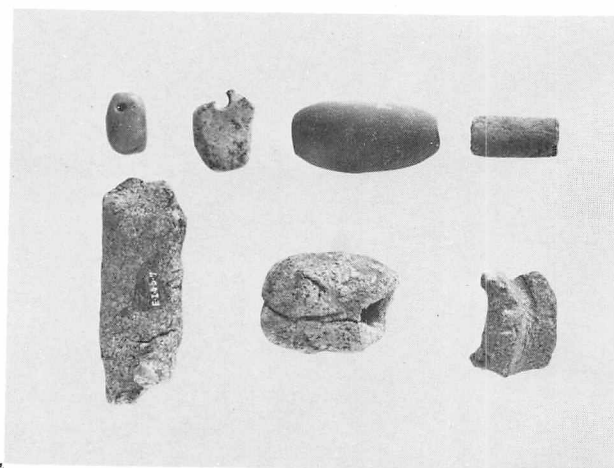




図4-21 I群b-4類土器の分野

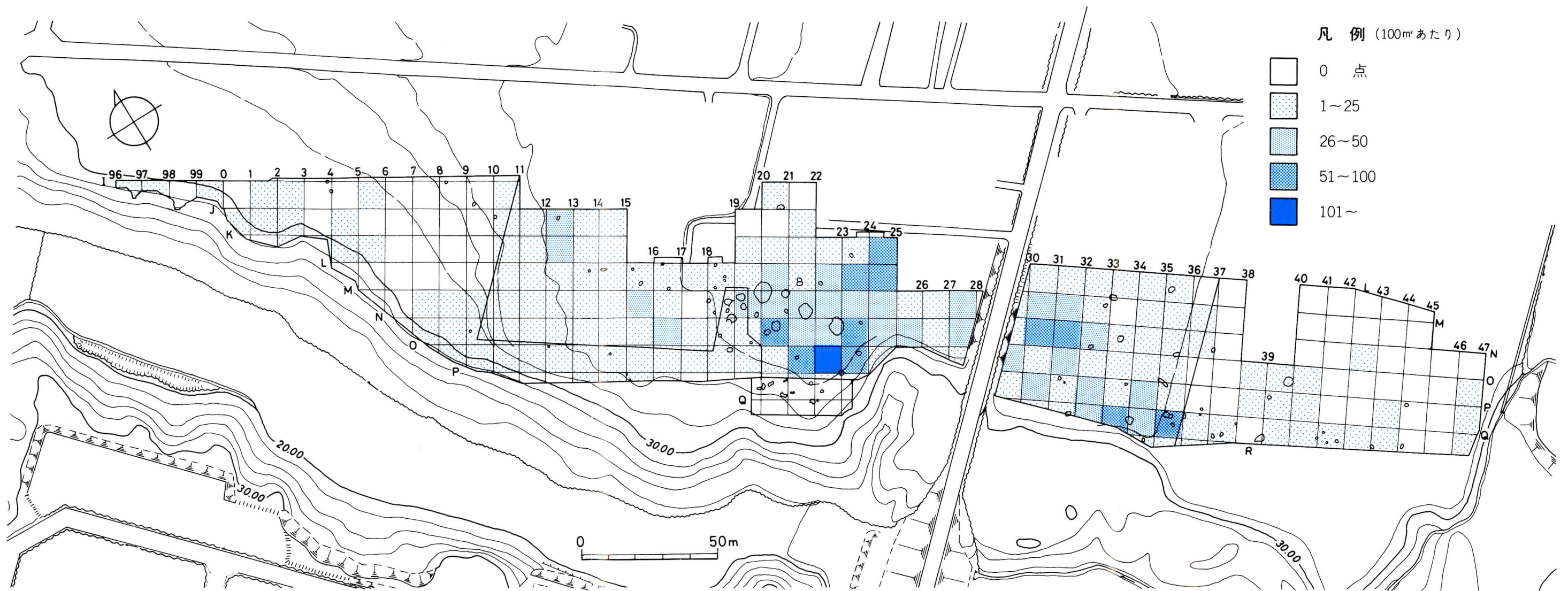


図4-22 III群a類土器の分野

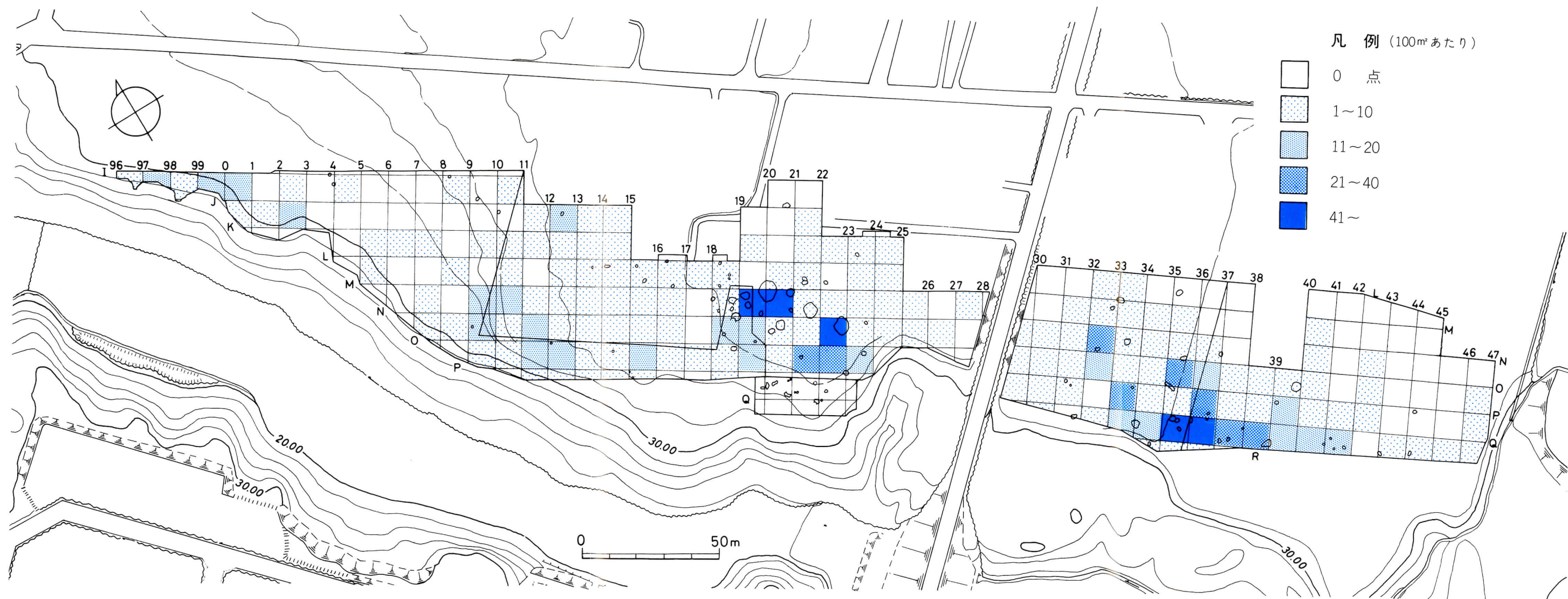


図4-23 III群b-1類土器の分布

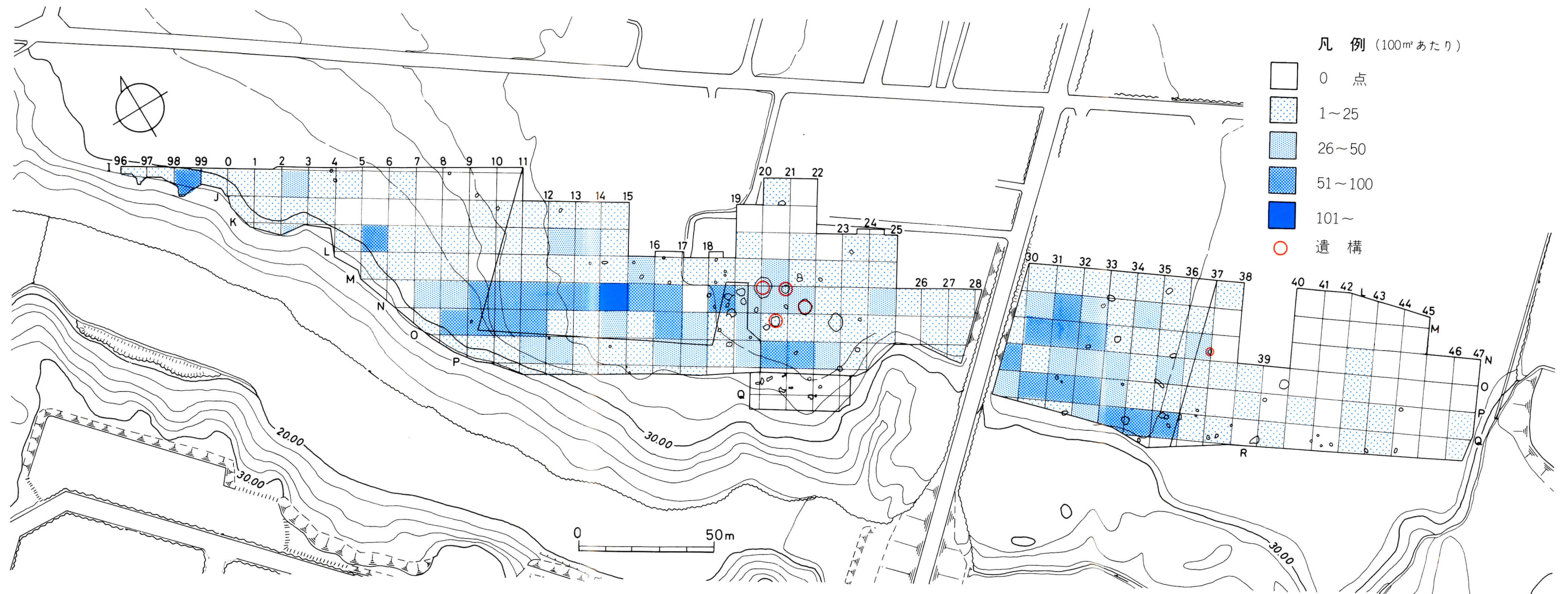


図4-24 III群b-2類土器の分布

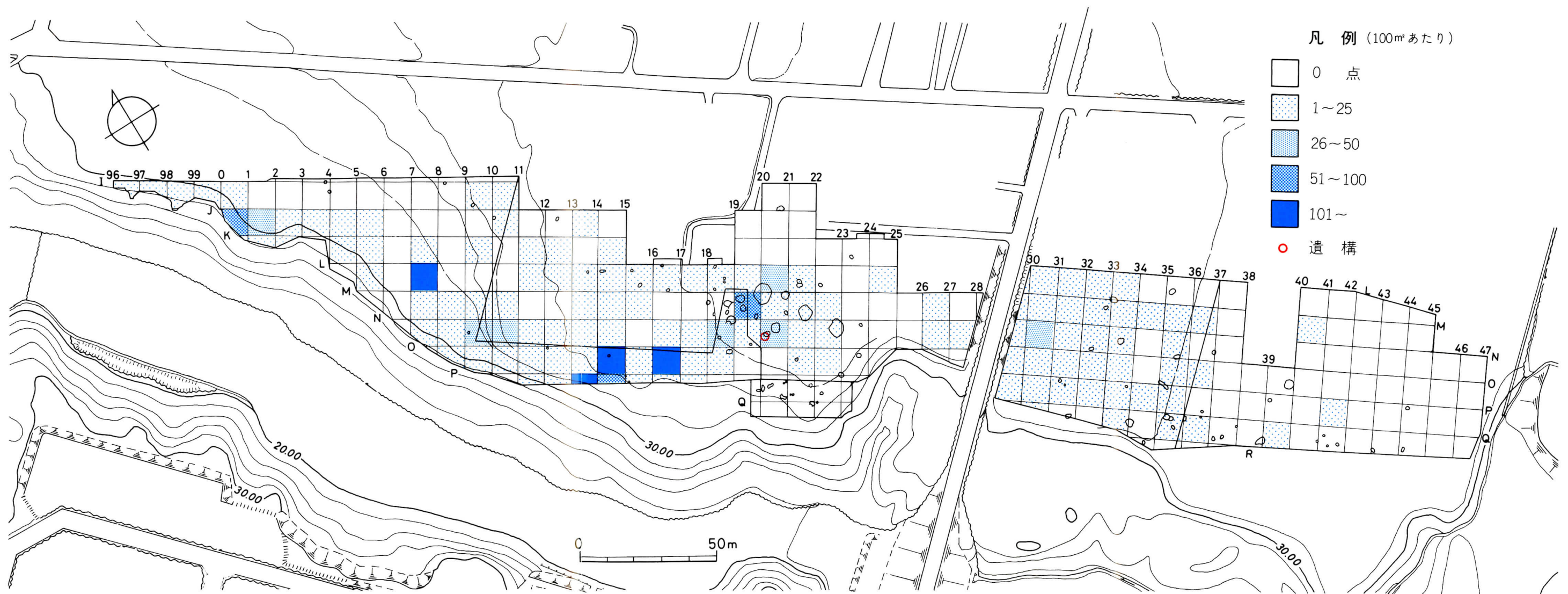


図 4 -25 III群 b - 3 類土器の分布

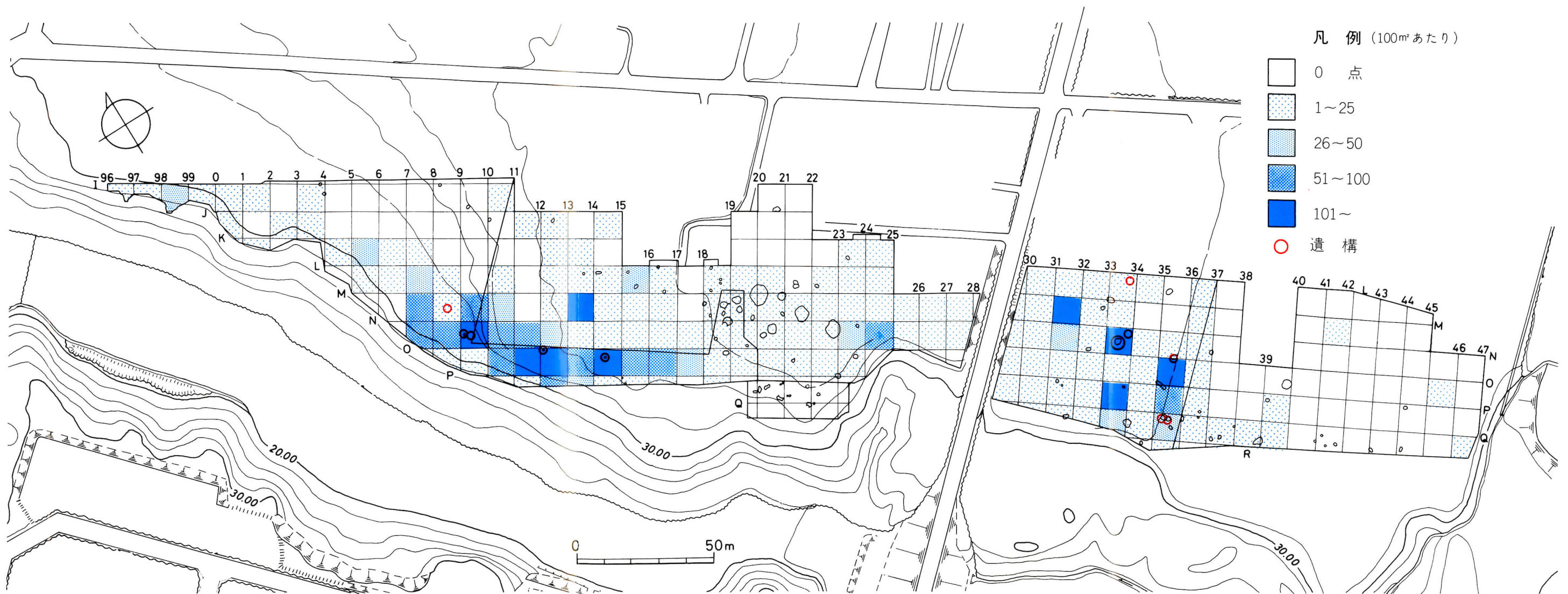


図 4 - 26 IV 群 a 類土器の分布

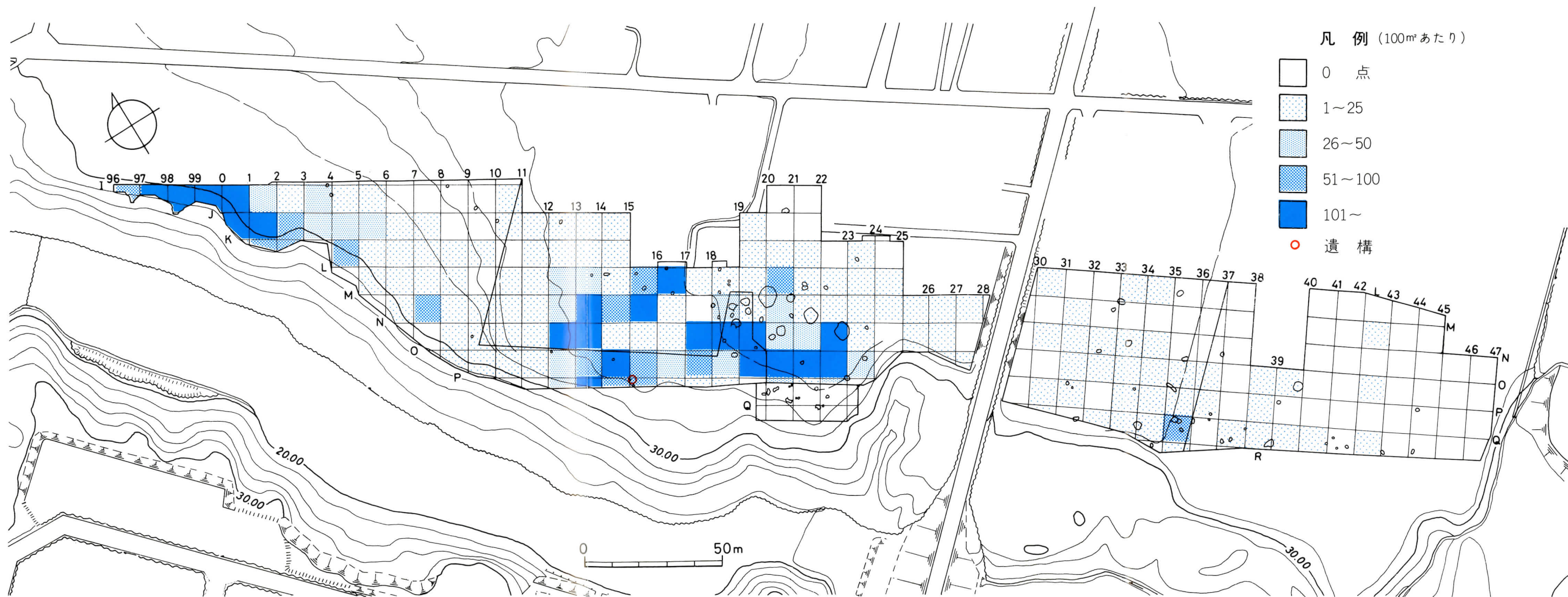


図4-27 V群b類土器の分布

V まとめ

大麻1遺跡は、通称吉井の沢の北岸沿いに幅約100m、延長約500mにわたって細長く広がる遺跡で、このうち北海道縦貫自動車道の建設用地にかかる21,780m²について、昭和54年度から2か年計画で発掘調査を実施した。本年度の調査面積は10,370m²である(図1-2)。

両年度を通じて検出された遺構は、住居跡10、墓2、Tピット16、その他のピット52、石囲い炉3、焼土9か所で、出土遺物総数は121,555点である。

住居跡の時期は、縄文早期末1、中期末5、後期初頭1、中期末または後期初頭と思われるが時期の特定できないもの3で、概して小規模で粗略な作りである。早期と後期のものを除く8個は20m×40mほどの狭い範囲にまとまっている。早期のI群b-4類土器を伴出した住居跡(54年OP-10)の床から採取した木炭の¹⁴C年代は6550±100 y. B. P. (N-3662)である。

石囲い炉および焼土としたものは、いずれも住居との関連が把握されなかったものである。石囲い炉は沢の縁に寄った、縄文後期初頭のIV群a類土器の分布するところから検出されている。また、焼土も時期の判明したものはすべてIV群a類の時期に属するものである。

墓には、覆土中の土器片とベンガラが存在によって縄文早期の墓と断定されたもの(54年OP-4)と続縄文時代のもの(55年P-2)である。

Tピットには、平面形の細長いものと、小判形で底に小ピットをもつものの2種類があり、製作時期の差あるいは使用目的の違いを示していると推測されている。本遺跡のTピットは2例(54年OP-1・27)を除いて、後者に分類されるものである。これらは列をなして分布する傾向があり、54年度調査地区から本年度の第2地区を経由して弓なりに、最大8個の配列が確認されている。すなわち、54年OP-17・18・44、55年T-5、54年OP-58・52・45・19である。また、54年度OP-35の底からIII群b-2類土器とともに出土した炭化物の¹⁴C年代3760±120 y. B. P. (N-3663)が得られ、平面形小判形のTピットは縄文中期末葉に編年される可能性が高まってきた。

その他のピットとしたものには、各時期にわたる雑多なものが含まれるが、とくに縄文早期の小土壇に特色がある。平面形円形または長円形の、54年OP-10・14・29・31・34・48・51・55・57・59、55年P-10・20・22等があり、やや大型のOP-14・55・59は作業場のような施設、他は貯蔵穴と考えられる。これらのうちI群b-1類を伴うものはOP-48・51、I群b-2類土器を伴うものはOP-10・14で他のものはI群b-4類土器を伴出している。なお、OP-10のクルミ核の¹⁴C年代は、6550±100 y. B. P. (N-3661)である。

本遺跡からは、縄文時代草創期から擦文時代にわたる各時期の遺物が出土した。出土遺物総数は多くはないが、土器片からみればI群b-1・2・4類、III群各類、IV群a類、V群b類、VI群が比較的多い。

54 年の調査で縄文草創期とした土器（0 群）は、本道では初めての発見例である。鉢形土器と思われる 1 個体分の破片で、新潟県室谷洞窟の資料に対比されるものと考えられる（注）。

各期の遺物の分布は、沢沿いに多く、沢から離れるにしたがって稀薄になる傾向がある。また、図 4-21~27 に示したように、時期によって占地が微妙に変化している。

以上のように、大麻 1 遺跡は吉井の沢に強く依拠して長期間にわたって営まれた遺跡であるが、定住的な生活の場としての色彩は薄く、狩猟場あるいは一時的な居住地として利用されたことが推測される。

（注）中村孝三郎（1964）『縄文早期室谷洞窟』 長岡市立科学博物館研究調査報告 6

（財）北海道埋蔵文化財センター（1980）『大麻 1 遺跡・西野幌 1 遺跡・西野幌 3 遺跡・東野幌 1 遺跡』

(財) 北海道埋蔵文化財センター調査報告第2集

大 麻 1 遺 跡

——北海道縦貫自動車道江別地区

埋蔵文化財発掘調査報告書——

昭和56年3月31日 発行

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター

064 札幌市中央区南15条西17丁目

TEL. (011) 561-0067

印刷 協 高 速 印 刷 セ ン タ ー

札幌市中央区北4条西3丁目

北洋駅前ビル6F

TEL. (011) 271-5101

17

18

